

第33巻

研究報告書

ISSN 0919-7648



2025/12/06



7
2026



わたしから

公益財団法人

千里リサイクルプラザ 市民研究所

公益財団法人 千里リサイクルプラザ 市民研究所

研究報告書 第33巻

巻頭言

主担研究員 黒田 勇

目 次

各プロジェクトチーム（P T）の報告

市民とお店をエコでつなぐP T 3～26

- 1 はじめに
 - 2 「プラスチックごみ削減」の研究活動の継続
 - 3 「食品ロス削減」の研究活動の継続
 - 4 市域での協働活動の展開
 - 5 おわりに
- 資料 食品ロス量の推移（平成29～令和5年度）

吹田ごみゼロシステム研究P T

ーごみゼロ（すてるをなくす）へのシステム研究ー 29～39

- 1 はじめに
- 2 活動テーマ
 - （1）商品包装、梱包資材削減に向けてできること
 - （2）管理しないと竹やぶ化する竹林の竹の利用
 - （3）「ごみゼロ」はごみの分別から
廃棄物の資源化を目指して

身近な環境を調べようP T

ー吹田市のため池の環境調査（第3報）ー 43～69

- 1 はじめに
- 2 2025年度のため池調査
 - （1）調査対象及び方法
 - （2）調査結果
- 3 2023～2025年度の全ため池調査の総括
- 4 啓発活動
- 5 考察

別紙ー1 3年間の調査した全ため池の一覧

別紙ー2 ため池の位置図

別紙—3 3年間の調査した全ため池と調査結果の概要

SDGs啓発PT・・・・・・・・・・・・・・・・・・73～90

1 はじめに

- (1) 研究テーマ
- (2) 研究テーマ設定の理由
- (3) 研究方法
- (4) 研究経過

・2025年度活動履歴

(5) 研究成果

・各種実施後のデータ・アンケート・年間評価

2 PTメンバーからの振り返りと抱負

各アクションチーム（AT）の報告・・・・・・・・・・93～98

手作りおもちゃと環境AT

活動報告及び活動計画

紙すき体験と環境AT

活動報告及び活動計画

マイ食器啓発AT

活動報告及び活動計画

大阪・関西万博でのリユース食器啓発について

参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・101～123

- 1 令和7年度市民研究所に関する事業報告
- 2 しみんけんきゅうニュース令和7年度年間概要
- 3 公益財団法人千里リサイクルプラザ 市民研究所設置規則
- 4 公益財団法人千里リサイクルプラザ 市民研究所運営方針

巻頭言

主担研究員 黒田 勇

千里リサイクルプラザ市民研究所では、この一年間、市民研究員によるさまざまな調査研究、実践を進めてきました。市民研究所の設立以来営々と吹田市民がごみ問題や環境問題に関し身近な生活課題と取り組み、市民の視点からの実践や提言を継続してきたことは吹田市として大変誇りに思うべきことだと思います。さて、こうした市民研究員の研究実践活動に関連して、私自身のこの間の地域実践から気づいたことを以下記しておきます。

今年2月に実施された「吹田かもフェスタ」をご存じかと思います。くるくるプラザは「後援」としてかかわりましたが、このフェスタは、二年半前、私が市民研究所のサロン第一回目として『釈迦が池とハインリッヒの鴨』という話題を提供したことに始まります。1880(明治13)年にプロイセンのハインリッヒ王子一行が釈迦ヶ池で起こした「吹田遊猟事件」をテーマとして、吹田の歴史に関わって「身近な自然を考える」PTの参考になればという話題でした。

これをきっかけに、「ハインリッヒの鴨」の記憶を吹田に住む人々の「文化的アイデンティティ(私たち意識)」の柱にしようという別の動きが生まれ、シンポジウムが開催されました。そこからさらに発展し、昨年に続き今年の二月から三月にかけて吹田の飲食店の協力を得て「吹田かもフェスタ」を開催しました。吉志部神社では吹田二中の吹奏楽部の演奏や駐大阪ドイツ総領事も参加しての盛大な開会セレモニーや、メイシアターでの閉会のコンサートで吹田市民は楽しみながら多くの学習機会を得ました。講演や自然観察を通じて、吹田の歴史と自然の価値を再認識する機会となりました。多くの吹田市民が「私たちの吹田」を楽しんだわけです。また、フェスタ参加店舗もかつて吹田名物であった「鴨」の料理を提供するだけでなく、食品ロスの問題やリユース食器についての気づきをもたらしました。

現在、研究員の高齢化が進むなか、より多様な世代が参加しやすく、また興味を持ちやすい研究テーマの設定や活動のあり方が課題となっています。そうしたなかで、この「かもフェスタ」のように市民団体や地域組織との「ゆるやかな連携」を強化することもあると思います。「ゆるやかな連携」とは、固定的な連携体制や組織づくりを目指さず、それぞれの研究テーマやイベントごとに必要なネットワークを形成する形です。言い換えれば、多様な主体がゆるやかにつながりながら、それぞれの強みや特色を生かして協力できる関係、そしてあるプロジェクトやイベントが終了したらネットワーク関係もいったん終了する、そのような在り方です。

市民研究所での中核的な研究プロジェクトは軸としながらも、外部の様々な個人や団体とのゆるやかなネットワークの形成をさらに試していくのはいかがでしょうか。「吹田かもフェスタ」の経験からは、ある種の「気楽さ」や「無責任さ」を認めての人々の集まりやつながりが新たな活力を生むようにも思います。

市民とお店をエコでつなぐPT調査・研究

プラごみ・食ロスを中心として

I PT全体報告

1 はじめに

2 「プラスチックごみ削減」の研究活動の継続

- (1) 調査・研究活動の目的と概要
- (2) 「プラスチックごみ」の情報収集・勉強会
- (3) プラスチックごみ問題
- (4) プラスチック循環 日本とEUの比較
- (5) ㈱エフピコ西宮選別センター見学
- (6) 市民とお店PT研究員の自由研究
- (7) 分析、考察、提案



3 「食品ロス削減」の研究活動の継続

- (1) 日本の食品ロス量の推移
- (2) 「食品ロス削減」の情報収集・勉強会
- (3) 分析、考察、提案



4 市域での協働活動の展開

- (1) 環境出前講座活動
- (2) 吹田市ごみ減量再資源化推進会議への参加
- (3) その他
- (4) 分析、考察、提案



5 おわりに

II 各研究員の研究報告

資料 食品ロス量の推移（平成29～令和5年度）

市民とお店をエコでつなぐプロジェクトチーム

打越 明美* 五十川有香 糸永 陽子

小池 順子* 松浦真理子*

菊田 善雄* 馬場慶次郎 吉田 竹文*（*印は執筆者を示す）

市民とお店をエコでつなぐPT調査・研究

プラごみ、食ロスを中心として

I PT 全体報告

1 はじめに

私たちPTは「プラスチックごみ削減」「食品ロス削減」を研究テーマに掲げ活動している。

2025年度はエフピコ西宮選別センターの見学をはじめ下記の研究活動を行った。

(1)「プラスチックごみ削減」の研究活動の継続

- ・ホームページ、新聞等からの情報収集
- ・「プラスチックごみ削減」に関する環境出前講座「すごろくゲーム」の実施

(2)「食品ロス削減」の研究活動の継続

- ・ホームページ、新聞等からの情報収集
- ・環境出前講座「食品ロスすごろくゲーム」の実施と更新

(3) 市域での協働活動の展開

- ・環境出前講座活動
- ・吹田市ごみ減量再資源化推進会議への協働・参加

私たちPTは、特に「お店」から出る「プラスチックごみ」(食品トレイ、ペットボトル、レジ袋等)を中心に研究している。

そして一昨年10月より、市民とお店PTの各研究員が各々研究テーマを持ち研究を行っている。今年度で1年半になり成果を今回の報告書に掲載しているので読んでいただきたい。

来年度の個人研究に関しては来年度に入って検討する予定である。

以下、順に報告していきたい。

2 「プラスチックごみ削減」の研究活動の継続

(1) 調査・研究活動の目的と概要

「プラスチックごみ削減」を研究し広く啓発活動に生かすことをテーマとした。

脱プラスチックの重要性および取り組み例については2025年発行の第32巻研究報告書で述べた。

2025年度も「プラスチックごみ」についての一般的な知識を新聞、ホームページ等で収集し、定例会では主担の先生を交えての勉強会も行った。

(2)「プラスチックごみ」の情報収集・勉強会

ホームページ、新聞等から「プラごみ」に関する項目を選び出して定例会で勉強した。

以下に、収集したタイトルの一覧とそれぞれの概要を記す。

①読売新聞「マイクロプラスチック汚染、深海部に至るあらゆる水深で高濃度・・・」

2025年5月2日

海洋研究開発機構などの国際研究チームが、「マイクロプラスチック」について海面付近だけでなく、海溝のような深海部に至るあらゆる水深に高濃度で含まれていることが明らかになり無視できない量に達している。あらゆる生物に影響を及ぼす」と警鐘を鳴らしている。

②NHKニュース「“マイクロプラスチック”世界各地の海中のあらゆる深さに分布」

2025年5月12日

海の生態系への影響が懸念されている「マイクロプラスチック」の分布状況について、過去10年間に世界各地で収集されたデータをまとめて分析した結果、海の中のあらゆる深さに分布していることが分かったと、JAMSTEC＝海洋研究開発機構などが発表した。

③読売新聞「海洋プラスチックごみの削減を…

万博パビリオンの展示テーマに多数、緊急性伝え“行動を変えて”」

2025年6月5日

大阪・関西万博で、海洋プラスチックごみの削減を展示のテーマに取り上げるパビリオンが目立つ。「ブルーオーシャンドーム」や「ポルトガル館」

「日本館」他。

日本では、国が19年に策定した「プラスチック資源循環戦略」で、▽30年までに使い捨てプラスチックを25%排出削減▽35年までに使用済みプラスチックを再利用・リサイクルなどで100%有効利用——といった目標を掲げる。飲食店ではストローやスプーンを廃止する動きも広がっている。

- ④毎日新聞「スタバにプラストロー復活のわけ 海中で分解されるPHBH採用」

2025年7月15日

- ⑤DAILY SUN NEWYORK「プラスチック容器に入れないで！カレーやトマトソースも実はNGだった」

2025年7月18日

「プラスチック容器に入れてはいけない 10 アイテム」をリストアップ。

- ⑥毎日新聞「プラごみゼロを目指す若者たち 万博イベントで訴え」

2025年7月22日

大阪・関西万博会場で開かれたイベントで、プラスチックごみ削減に向けた取り組みを紹介する桃山学院高校の生徒たち。「みんなが関心を持たなくては、プラごみ汚染は終わらない」と強調。

- ⑦毎日新聞「世界のプラ汚染を根絶できるか 日本も参加、政府間交渉が5日再開」

2025年8月4日

プラスチック汚染根絶のための条約策定を目指す政府間交渉委員会が5日、スイス・ジュネーブの国連欧州本部で始まる。プラ素材の生産削減を訴える欧州連合（EU）や島しょ国などと、それに反対する産油国などの間で主張に隔たりがある。

- ⑧読売新聞「日本近海の深海底に大量のプラごみ、ポリ袋・レジ袋7割超…」

中国・韓国・東南アジアからも」

2025年8月7日

日本海溝、房総半島沖、相模湾、駿河湾、四国沖、能登半島沖の水深800～7000メートルの海底を調べると、いずれも大量のプラ製品が沈んでいて、多い所で1平方キロ・メートル当たり1万～4万个確認された。7～8割はポリ袋やレジ袋で、残りはペットボトルや食品容器だった。日本のほか、中国、韓国、東南アジア由来のプラごみが海流に乗って流れてきたとみられる。

- ⑨毎日新聞「プラスチック条約交渉、議長が妥協案

“生産規制”の条文消える」

2025年8月14日

- ⑩毎日新聞「プラスチック条約交渉、再び合意断念 “延長戦”でも結論出ず暗礁に」

2025年8月16日

ルイス・バジャス議長（エクアドル）が13日に示した条約草案に対し、多くの国から反対意見が殺到。15日に修正草案が示されたが、各国の意見の隔たりは埋まらなかった。今会合での条文案の合意を断念し、先送りすることを決めた。

- ⑪毎日新聞「合意断念のプラ条約交渉 今後どうなる？産油国と他の国が対立 交渉再開でも平行線か」

2025年8月19日

プラスチックによる環境汚染を防ぐ条約が2回続けて合意断念。厳しい規制を求める国々と、プラごみ流出を管理する対策に絞るべきだと主張する産油国との間で対立が消えなかった。今後は法的拘束力のある条約を作るという決議に基づき交渉が続く。

- ⑫毎日新聞「植物原料のプラ素材 “日本企業とコラボを” ブラジル・プラスケム日本事務所代表」

2025年9月25日

ブラジルの石油化学大手プラスケムの日本事務所代表のフレデリコ・カンポス氏が毎日新聞の取材に応じ、植物を原料としたプラスチック素材について「日本企業とのコラボレーションを進めたい」と語った。同社は9月上旬、大阪・関西万博のブラジルパビリオン内に出席し、サトウキビから製品になるまでの流れを来場者に紹介した。カンポス氏は「植物からもプラスチックが作れることを知ってもらいたい」と話した。

- ⑬毎日新聞「プラ条約 “近く工程表”

政府間交渉 新議長が意欲」

2026年3月2日

政府間交渉の新議長フリオ・コルダノ氏は「前回会合以降最終合意に必要な要素は明確になってきた」と進展を強調。一方で「プラスチック汚染は緊急の問題だが、議論を拙速に進めてはならない」と慎重な姿勢も見せた。さらに「条約は非常に包括的で全ての人の期待に応えられる必要がある」として、全ての国が参加できる議論の場などを設け、各国と意見交換を継続していく意向を示した。

以上、2025 年度の新聞やニュース記事から読み取れることは二つある。一つはマイクロプラスチックに関する条約の成立に向け努力が重ねられたが、生産まで踏み込む先進国と、産油国始め多くの国の利害が錯綜して締結に至らなかったことである。

今一つは、海洋プラスチックがもたらす被害の深刻さが指摘されるとともに、マイクロプラスチックが人体中に蓄積しているとの研究結果が報告され始めたことである。

今後ともマスメディアの情報に目を向けて、プラスチックに関する動向を把握していきたいと思っているが、2025 年 10 月以降新聞の「プラごみ」の記事が減っているのが気にかかる。

(3) プラスチックごみ問題

プラスチックごみ問題は、使い捨てプラスチックの増加と不適切な処理により、海洋汚染、生態系破壊、温暖化（焼却時の CO₂ 排出）を引き起こす深刻な地球環境問題である。また、微細な「マイクロプラスチック」は食物連鎖を通じて人体への影響も懸念され、3R (Reduce/Reuse/Recycle) の徹底や素材転換が急務である。

◎プラスチックごみ問題の主な現状と影響

- ・海洋汚染の深刻化：年間約 2,200 万トンものプラスチックが環境中に流出しており、海に流れたプラスチックは分解されずに長期間留まり続ける。
- ・生態系への被害：ウミガメやクジラ、海鳥がプラスチックを誤食したり、絡まったりして死傷する事例が世界中で報告されている。
- ・マイクロプラスチックの脅威：5 ミリ以下に砕けたプラスチックは海中の有害物質を吸着し、魚類に取り込まれることで食物連鎖に入り込み、人体への影響が懸念されている。
- ・地球温暖化への関与：プラスチックは石油由来であるため、焼却処分時に大量の CO₂ を発生させ、地球温暖化を促進する。
- ・日本における現状：容器包装を中心に年間約 940 万トンのごみが排出され、2018 年の中国の輸入禁止措置以降、国内でのリサイクル体制構築が急がれている。

◎私たちにできる主な対策

- ・Reduce (リデュース)：レジ袋、ストロー、ペットボトルなどの使い捨てプラスチックの使用を控

える（マイボトル・マイバッグの持参）。

- ・Reuse (リユース)：詰め替え製品の利用や、プラスチック容器を再利用する。
- ・Recycle (リサイクル)：プラスチックごみを適切に分別し、自治体のルールに従って出す。
- ・素材転換：紙や木、生分解性プラスチックなど、環境負荷の少ない素材に転換する。

これらの取組みを意識し、プラスチックの使用量そのものを減らすライフスタイルへの転換が求められている。

◎現状と深刻な予測

海を漂うゴミ：世界の海には既に 1 億 5000 万トン以上のプラごみがあり、毎年約 800 万トンが新たに流入していて、このままのペースでは、2050 年までに海にいる魚の総重量をプラごみが上回ると予測されている。日本の一人あたりのプラスチック容器包装廃棄量は、アメリカに次いで世界第 2 位と非常に多いのが現状ある。

プラスチックごみ問題は、私たちの生活から出たプラスチックが自然界に流出し、「海洋汚染」や「生態系の破壊」を引き起こしている深刻な環境課題である。

プラスチックごみ（廃プラ）問題は、私たちの生活の利便性と引き換えに、地球規模の環境汚染を引き起こしている喫緊の課題である。

(4) プラスチック循環 日本と EU の比較

プラスチック資源循環における日本と EU の比較において、最大の違いは「マテリアルリサイクル（製品から製品へ）を優先する EU」か、「焼却による熱利用を有効活用する日本」か、というアプローチの思想の違いにある。

EU は「資源・経済政策」として循環経済（サーキュラーエコノミー）を強力に推進しているのに対し、日本は技術（イノベーション）による解決を重視し、高い焼却インフラを活かした独自の循環体制を持っている。

EU は、プラスチックのリサイクルを「環境対策」ではなく「経済・資源戦略」と位置づけ、非常に厳しい数値目標を設定している。

- ・マテリアルリサイクル優先：2030 年までにすべてのプラスチック包装を再利用またはリサイクル可能にする「EU プラスチック戦略」を採択。

・2025 年 PPWR（包装・包装廃棄物規制）発効：
2026 年から順次適用される新規則により、リユース可能な包装比率、再生材の使用率目標などが義務化される。

・インセンティブ設計：企業がリサイクルしやすい製品設計を行うよう、能動的な政策アプローチを取る。

日本は「焼却大国」であり、ごみ処理の過程でプラスチックを燃やし、熱エネルギーとして利用（サーマルリサイクル）する比率が世界的に見ても非常に高い。

・焼却によるエネルギー利用：廃棄物処理とエネルギー回収が高度に一体化しているため、逆に物質として再利用するマテリアルリサイクルが遅れている。

・「プラスチック資源循環法」：（2022 年～）：設計、回収、リサイクルまでの一貫した体制強化を義務付け、環境配慮型プラスチックへの転換を促す。

・イノベーションへの期待：政策側が具体的な規制で縛るよりも、技術（企業や研究機関）によるイノベーションで解決を図る傾向がある。

日本と EU の具体的な違いは

・リサイクル率の定義：EU が「原料として再利用（マテリアルリサイクル）」のみを重視するのに対し、日本は「サーマルリサイクル（焼却・熱利用）」もリサイクルと定義する点が、データ上の違いを生み出している。

・プラスチック廃棄量：日本は世界有数のプラスチック包装廃棄量を誇り（世界 2 位）、一人当たりのプラスチック容器包装廃棄量はアメリカに次いで 2 番目に多い。

・生分解性プラの普及：焼却インフラが高度なため、生分解性プラスチックをわざわざ分別して堆肥化する仕組みが広がりにくいという側面がある。

今後の展望は

日本も 2022 年のプラ資源循環法の施行を契機に、従来の「サーマルリサイクル（焼却）」から「マテリアルリサイクル（物質再生）」への転換を進めている。一方、EU も自動車の生産で使用するプラスチックの 25%以上をリサイクル材にするなど、より高度な循環システムを目指している。

両者ともに、「プラスチックの削減」と「プラスチック資源の最大限の利用」というゴールは同じだが、

そこに至るまでの「規制」と「技術」というアプローチのバランスが異なる。

（5）「㈱エフピコ西宮選別センター」見学

2025 年 10 月 29 日（水）西宮市にある「エフピコ愛パック西宮選別センター」を市民とお店 P T 有志 5 名で訪問した。

エフピコは使用済み食品トレーから新しいトレーに生まれ変わる「循環型リサイクル」を世界で最初にスタートした。

こちらの工場はスーパーマーケットなどから回収された使用済みトレーを選別してリサイクル工場へ送っている。（福山リサイクル工場で再生原料ペレットを作っている。）

エフピコ（FPCO）の社名の由来は、創業時の社名が「福山パール紙工（㈱）」で、福山の F（エフ）、パール紙工の P（ピ）、コーポレーションの CO（コ）からとっている。

「パール紙」とは、同社が製造する真珠のような光沢をもつ発泡スチロール製食品トレーを指す。

また、エフピコでは障害のある人材も活躍されていて会社の貴重な戦力になっている。

工場見学終了後、事前に提出していた質問事項（12 問）にも答えていただいた。

1990 年～2025 年 9 月末までに行ったりサイクルの結果、

① リサイクルした量を容積で計算すると

東京ドーム約 151 杯分

② リサイクルで節約した原油は

200L 入りドラム缶約 802 万本分

③ コストダウンしたごみ処理費用は

約 997 億円

だそうである。

また、食品トレーのリサイクル以外に、透明容器のリサイクル、ペットボトル容器のリサイクルも行っている。

透明容器のリサイクルは「近赤外線」という光を利用して、ポリスチレン、ポリプロピレンなどの素材を選別しリサイクルしている。

ペットボトル容器のリサイクルは「ボトル to 透明容器」の循環型リサイクルを進めている。

エフピコは、環境保全について、①プラスチックごみの削減 ②新しい原料の節約 ③STOP！地球

温暖化、に貢献していて、SDG sにも貢献している。
今回の見学を、今後の私たちの活動に生かしていきたいと思っている。



エフピコ西宮選別センター

◎ (株)エフピコ様への質問事項と回答

①プラスチックの原料ですが、当面原油が主流な状態は変わりませんか？コスト、調達の安定面等から代替品に期待されるものはありますか？

【回答】原油価格が上がれば、消費者の負担価格が上がる。リサイクルを増やすこと。

②製品を作る上で一番気をつけられている、気をつけていることを教えてください。また消費者に伝えたいこと、苦勞されていること（製品原材料削減と製品性能担保の兼ね合い等）、製作上で難しい技術等があれば教えてください。

【回答】売れるものを作る。お客様の気に入ってもらえるものを作る。

③店頭回収BOXで集めたプラスチックトレイは、発泡スチロールと混合されるのですか。

【回答】混合しない。

④色、柄付きのトレイが回収されるのなら、シールのついているトレイも剥がさなくてもいいのですか。

【回答】値札のシールは貼っていても良い。プラスチック製のシールは貼っていると、不適品になる。まず作業員が目視で手選別して、光センサーを当て、流れ作業で手選別している。

⑤回収BOXに「食品トレイ」と書いているが、プラスチックトレイと発泡トレイが混ざっている。だれが分けているのですか。

【回答】工場で作業員が選別している。

⑥リサイクル素材の品質を保つためにどんな工夫をしていますか。

【回答】毎日検査している。

⑦他社との協力体制や自治体との連携はありますか。

【回答】連携していない。スーパー127社と協力している。

⑧西宮工場の1日の処理能力（トン数など）はどれくらいですか。

【回答】3トン。

⑨トレイの分別はどのような技術（人手、機械）で行っていますか。

【回答】人手、機械 ④⑤の答え

⑩自動化やAI技術の導入は進めていますか。

【回答】光（近赤外線）でチェックできるようになった。

⑪安全管理や衛生管理はどのようにされていますか。

【回答】障害者雇用をしているのでスイッチを2ヶ所に付け対応している。

⑫再生原料を使った新しいトレイや製品は考えていますか。

【回答】・毎年3000アイテムの商品を出し、同じくらいのアイテムが無くなっている。

・ごみを有料化（ゴミ袋）すると、ごみが減り、店頭回収の量が増える。

・市役所のホームページなどにきれいに洗って、乾かして、店頭回収を呼び掛けて欲しい。

・トレイの現在回収率は28%で、回収量を増やす方法をお願いしたい。

*小野市がポスターで呼びかけ実施している。

・不適品の中のプラスチック（黒色）などは、必要としている会社に渡している。

（6）市民とお店PT研究員の自由研究

2024年10月より、市民とお店PTの各研究員が各々研究テーマを持ち研究を始めている。

個人別の研究テーマ

- ①打越 「吹田市内の食品トレイの回収促進について」
- ②糸永 「ペットボトルの店頭自動回収機について」
- ③松浦 「衣類から環境中に放出されるマイクロプラスチックを減らす取り組み」
- ④吉田 「プラスチックリサイクルの新たな取り組み」
- ⑤小池 「マイクロプラスチックの人体への影響について」
- ⑥菊田 「廃プラスチックの行方」

以上の各研究は本文の後に記すのでご覧頂きたい。

尚、来年度の研究項目については、来年度に入って検討することになっている。

(7) 分析、考察、提案

いま世界的な問題となっている海洋ごみでは、街の中で出たごみが河川などを伝って海へ流れ込んだものが7~8割を占めている。

中でも海洋プラスチックごみは、自然界の中で完全に分解されることなく途方もない年月をかけて海をさまよい、海に暮らす生物に対し悪影響を与え、生態系のバランスを崩す原因となっている。

海へ流れ込む大量のプラスチックごみを無視することはできない。

私たち一人ひとりの取り組みも、海洋プラスチック問題解決には欠かせない。不要なプラスチックを消費しないために、マイバックやマイペットボトルを持参したり、プラスチックごみをリサイクルして再活用したりと、今日からでも簡単に行える取り組みはある。海洋プラスチック問題解決に向けて、できることから始めていくべきだと思う。

2022年4月、「プラスチック資源循環促進法」が施行されたが、国はプラスチックごみの問題にどう向き合うのかを明確にするとともに、さまざまな主体が本気で削減に取り組まなければならない。

3 「食品ロス削減」の研究活動の継続

食品ロスに関しては、「持続可能な開発目標」

(SDG2)のターゲットの1つとして、2030年までに世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させることが盛り込まれている。

一方、日本の食料自給率は諸外国に比べて低く、輸入に頼る部分も多い。こうしたことを考えても、たくさんの食べ物を廃棄している現状を変えていく必要がある。

(1) 日本の食品ロス量の推移

2017年度から2023年度までの食品ロス量の推移を最終ページに示す。2023年度は約464万トン。(事業系約231万トン、家庭系約233万トン)

食品ロス量は2015年度の646万tをピークに減少傾向にある。2021年度はコロナ禍の行動制限によっ

て事業者の需要予測が難しくなり、事業系の食品ロスが増えたため全体でも6年ぶりに増加した。2022年度は再び減少に転じて472万tとなったものの、前述したように、国民1人あたり、1日におにぎり約1個分に当たる約103g、年間約38kgの食品ロスを出している計算になる。

事業系食品ロスの減少の理由については、新型コロナの影響による市場の縮小等の影響があるものの、納品期限、いわゆる『3分の1ルール』の緩和や、賞味期限の延長等の商習慣の見直し、『てまえどり』の促進など食品事業者の努力によるところが大きい。

食品ロスを2030年度までに2000年度の980万トンからおおよそ半減させることを目標にしている、メーカーが調べた商品を安全に食べられる期限からどの程度余裕をもって賞味期限を設定するか基準になる数値である「安全係数」を引き上げ、賞味期限をのばしたい考えだ。

2030年度目標は489万トン(事業系273万トン、家庭系216万トン)となっている。

(2) 「食品ロス削減」の情報収集・勉強会

ホームページ、新聞等からの下記項目を情報収集しメンバーと共有した。

①毎日新聞、「食品ロス23年度は464万トン 最小値を更新、1人あたり37キロ」

2025年6月27日

政府は、食品ロスの削減目標として、30年度までに00年度比で事業系ロスを60%減、家庭系ロスを50%減らし、計435万トンとする目標を立てている。

今年度の食品ロス関連の記事は1件のみで食品ロス関連の記事数は以前に比べて激減している。それだけ、社会に「食品ロス」が浸透したということか？ニュース性はなくなったとはいえ、食品ロス問題が解決したわけではない。

(3) 分析、考察、提案

食べられるはずのものが捨てられるだけではなく、ごみの焼却にともなう環境問題も深刻で、水分を多く含む食品の焼却には多くのエネルギーが必要うえ、処理費用も掛かる。また、焼却時には二酸化炭素(CO2)が排出され、焼却後の灰を埋め立てる土地の問題も発生する。もし、食品ロスを100トン削減

できれば、46 トンもの二酸化炭素を削減できる。

(参考文献 4)

政府は 2030 年度の日本の家庭系食品ロス、事業系食品ロスをそれぞれ 2000 年度と比べて半減させることを目標とし、様々な取組を進めている。近年の食品ロス量は減少傾向にあるが、「半減」の目標を達成するためには、一人ひとりが食品ロス削減の意識を持って取り組んでいくことが大切である。

家庭内の食品ロスについては、①食べ残し 57% ②傷んでいた 23%、③期限切れ 11% (賞味期限切れ 6%、消費期限切れ 5%) の順で多いことが分かっている。(参考文献 5)

食品ロスを減らすための小さな行動として、買物時に「買いすぎない」、料理を作る際「作りすぎない」、外食時に「注文しすぎない」、そして料理を「食べきる」ことが重要である。

買い物をする前に、冷蔵庫の食材をチェックして、必要な分だけ買って、食べきり、期限表示を知って、賢く、意識して日頃から行動していきたい。

次世代を担う子供たちに、食べ物を粗末にすることはいけない事で「もったいない」こと、国の食料自給率が 39% しかなく、60% もの食糧を輸入していることを伝え、家庭や学校での食べ残しをやめるよう呼びかけていきたい。

4 市域での協働活動の展開

(1) 環境出前講座活動

これからの時代を担う子供たちに、地球の限りある資源を大切に使い、持続可能な社会を構築するためには何ができるだろうかを問題提起し、3R 推進の重要性を理解出来るように、リデュースとリユースにもなる「おもしろ風呂敷」講座と、「エコなお買い物ゲーム」講座、そして「食品ロスすごろくゲーム」講座、「プラスチックごみすごろくゲーム」講座を市内小学校で実施してきた。(「ごみの 12 種分別ゲーム」講座は今年度行っていない。)

① 2025 年度の環境出前講座の状況

体験学習実施小学校 10 校 10 講座

クラブ支援実施小学校 延べ 9 校 9 講座

延べ 19 講座 314 人受講

2024 年度は延べ 30 講座 471 名の受講者数だったが、2025 年度は上記の受講者数だった。

(2024 年度は、中学校 2 講座、公民館 3 講座があったのと月曜日のクラブ支援校があった。2025 年度のクラブ支援校は水曜日のみ)

② 出前講座「食品ロス削減すごろくゲーム」「プラスチックごみ削減すごろくゲーム」の実施。

「プラスチックごみ削減すごろくゲーム」を新たに企画・実施でき、出前講座のレパトリーを増やすことができた。また、すごろく図のマス目を 5 マス増やしゴールする時間を遅らせた。

③ 「風呂敷講座」の動画未活用。

「風呂敷講座」の名称を「おもしろ風呂敷」講座に変更した。今年度も動画活用が出来なかった。

動画活用については体験学習講座での使い方を考えていて、ホームページ掲載も考えていきたい。

(2) 吹田市ごみ減量再資源化推進会議への参加

会議は、学識経験者、市民団体、事業者、行政が集まり構成されていて、年 2 回行われる。

2025 年度 第 1 回 2024 年 8 月 21 日 (木)

議案) ①市からの報告

ア 食品ロス削減について

イ 持続可能な航空燃料の普及促進等に関する連携協定締結について

②ディスカッション

③その他

2025 年度 第 2 回 2025 年 3 月 16 日 (月)

議案) ①市からの報告

・食品ロス削減について

2024 年 8 月に開催したフードドライブの取組結果

・2024 年 10 月「てまえどり C P」の結果

・SAF の普及促進について

②ディスカッション

ごみ減量に向けた取り組みについて

③その他

吹田市ごみ減量再資源化推進会議に参加して感じることは、製造業者、販売業者は食品ロス、プラごみの減量に努力していることである。行政はその努力を市民(消費者)に見える(知らせる)工夫をしてあげるべきで、消費者は、企業努力にコストがかかっていることを理解することだと思う。

(3) その他

①「市民とお店 PT」ブログ開設

私たち PT のメンバーは、活動内容や研究成果を市民に広く伝えることの必要性を日々感じている。まず、プラザの事業に積極的に参加して PT 活動を見える化し、市民と直接対話の機会を持つことだ。

さらに現在では、デジタルメディアでの発信は必須である。私たちは、HP 兼ブログを開設し、外部への情報発信と同時に PT 内の情報共有と、活動内容を時系列でストックする機能の 3 点を同時に実現することを考えた。

2025 年 6 月の定例会でブログの運用が決まった。ホームで PT の活動内容の一覧、2 ページ目より PT の活動と研究についての紹介、ブログ記事と続く。事務局に依頼した二次元バーコードつきの名刺を友人、知人等に渡しながら宣伝している。

「ブログは日記」、今後は気軽な読み物として小まめに更新したい。コメントしたくなるような記事を書きたいものだ。



<https://kurukuru-shimin10omise.jimdofree.com>

②「もったいないバザール」での“風呂敷包み方講座” 2025 年 10 月 19 日



2024 年度に続き今年も「もったいないバザール」で“風呂敷包み方講座”を実施した。

③「環境教育フェスタ」でのポスターセッション

2026 年 2 月 7 日、メイシアター・吹田市内の食品トレーの回収促進についての検討。
・「エフピコ西宮選別センター」見学記。
・エフピコへの質疑応答。
上記 3 点の内容ポスターを展示。



(4) 分析、考察、提案

コロナが治まって、小学校の体験学習、クラブ支援が実施されてホッとしている。今後は、私たちが考えた動画を使つての体験学習や 4 講座（おもしろ風呂敷講座、ごみの 12 種分別ゲーム、食品ロスすごろくゲーム、プラごみすごろくゲーム）実施で楽し

く参加し学んでもらえるように講座内容の充実を図りたい。

風呂敷を活用する文化は衰退してしまったが、風呂敷使用のお買い物袋が活用されると、風呂敷が見直されるチャンスでもある。私たち大人がもっと風呂敷を活用する生活習慣を身に付け、新しい文化として受け入れてもらえる努力をしていきたい。

「おもしろ風呂敷」については、家庭内での風呂敷使用が無くなっているのので、“バンダナ”だけの講座を続けるか 他の講座を開発するかを話し合っていきたい。

4 講座で学んだことを生活の場での実践行動に繋げるにはどうしたらよいかを引き続き考えていく。

また、家庭でのコミュニケーションを図り、家族で環境意識を高めてもらうために“すごろく図”を利用してもらえるよう、出前講座終了時に訴える。

なお、新講座として「雑がみ」講座（仮称）を検討中である。

5 おわりに

2026 年度の活動計画は次の事項を考えている。

私たちの PT では引き続き、世界的に問題となっている「食品ロス削減」問題と「プラスチックごみ削減」問題を、行政の考え方と方向を見ながら、どう解決すべきか、活動すべきかの研究を行う。

広く市民に伝える方法として、公民館等での出前講座を増やしていけるように事務局にお願いしたい。

(1) プラごみに関する調査研究

① 2022 年 4 月施行された「プラスチック資源循環促進法」について、行政・スーパー等の取り組み、進捗状況の確認・研究。

②「プラごみ削減」の訴求・告知活動をどのように進めていくかを引き続き検討する。

（たとえば、「我が家のプラスチックごみ」調査の提言内容を参考に、また環境出前講座「すごろくゲーム」の実施等）

③ 2026 年度も工場見学を実施したい。

④ PT メンバー各自の新研究テーマを検討する。

(2) 食品ロス削減に関する研究継続

「食品ロス削減」問題については、「食品ロスすご

ろくゲーム」講座を通して子供たちに食べ物大切さ、食べ物への感謝、「もったいない」の心を伝え、世界には飢えに苦しんでいる多くの子供たちがいる一方で、日本では大量の食品が無駄にされている現実を教える。

また、持ち帰り用「すごろく図」で遊んでもらって「食品ロス削減」問題に家族みんなに関心を持ってもらえるよう訴えていく。

（３）環境出前講座の実施

小学校でのクラブ支援で「おもしろ風呂敷」「お買い物ゲーム」「ごみの12種分別ゲーム」「食品ロス削減すごろくゲーム」「プラスチックごみ削減すごろくゲーム」を行い、また体験学習では動画活用も検討してみたい。

そして、各講座の終了時には当日の資料を配布し、講座の趣旨を説明する。資料に関しては、見直しが必要な箇所があるのでチェックする。また、学校OBの先生方に助言を頂きながら、児童がより一層理解しやすい楽しい講座を目指して改良を重ねていく。

（４）吹田市ごみ減量再資源化推進会議に協働・参加

2018年5月、「すいたレジ袋削減・マイバック推進協議会」は解散になり、市の一般廃棄物処理基本計画の施策に基づき、発生抑制型社会の構築を目指して、市民、事業者、行政の三者から成る「吹田市ごみ減量再資源化推進会議」が発足した。

構成団体のメンバーとして引き続き参加協働する予定である。

以上の4つの柱を据えて、実行可能な計画を立て、早い時期から取り組んでいきたい。

参考文献

1) (一社) プラスチック循環利用協会「プラスチックのはてな」

<https://www.pwmi.jp/library/library-1445/>

(2026年3月10日閲覧)

2) NPO 法人日本もったいない食品センター「日本の食品ロスの現状」

<https://www.mottainai-shokuhin-center.org/now/>

(2026年3月10日閲覧)

3) (一社) Social Innovation Japan

「「給水」で、世界を変えよう。」

<https://www.mymizu.co/> (2026年3月10日閲覧)

4) 農林水産省「食品ロス減目指し」

「統計情報」他

<https://www.maff.go.jp/> (2026年3月10日閲覧)

5) 消費者庁 「目指せ食品ロスゼロ」

「日本の食品ロス現状と対策」他

<https://www.caa.go.jp/> (2026年3月10日閲覧)

6) 毎日新聞 (2025. 4～2026. 3)

<https://mainichi.jp/editorial/>

7) 読売新聞 (2025. 4～2026. 3)

<https://www.yomiuri.co.jp/>

(菊田善雄)

Ⅱ 各研究員の研究報告

廃プラスチックの行方

菊田善雄

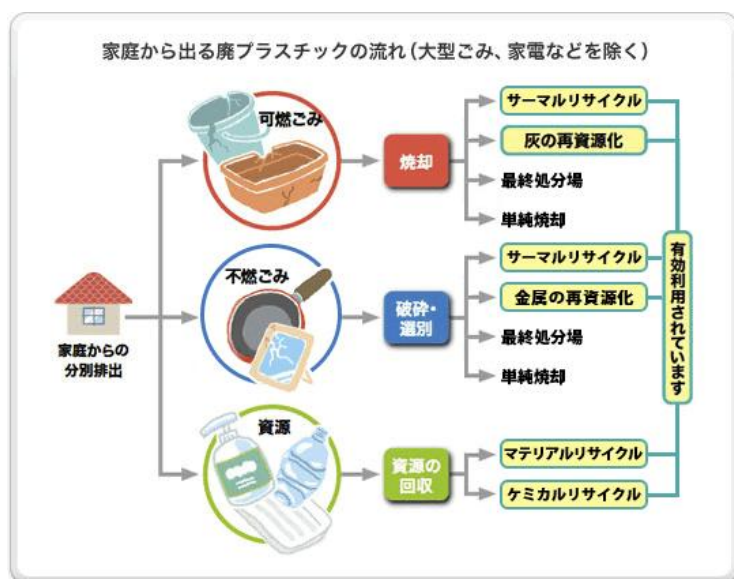
1. はじめに

プラスチックは家庭用品や包装材料をはじめ電気製品、情報機器、医療器具、自動車、住宅資材や建材、農・水産業など幅広い分野で、さまざまな製品として使われている。

日本の2023年廃プラスチック排出量は769万トンで、そのうち89%にあたる688万トンが有効利用されている。有効利用量、有効利用率ともに徐々に増えている。

2. 廃プラスチックの行方

家庭から出る廃プラスチックは、大きく分けると資源（容器包装）、可燃ごみ、不燃ごみのいずれかとして処理される。処理の流れは、基本的に下の図のようになる（家電、自動車、大型ごみに含まれるプラスチックは除く）。



どんなプラスチックがどのように分別収集されるかは自治体によって異なる。

「可燃」として収集されたプラスチックも、熱利用や発電など有効利用されている場合もある。

資源として収集された廃プラスチックは、大別して「マテリアルリサイクル」、「ケミカルリサイクル」、「サーマルリサイクル」の3つの手法でリサイクルされている。

「マテリアルリサイクル」とは、プラスチックを溶して、もう一度原料として使う。

作業着、ベンチ、建築資材、繊維、シート、ボトル、文具など

「ケミカルリサイクル」とは、化学工場や製鉄所で原料として利用する。

鉄をつくるときの還元剤や、化学製品の原料、ガス、油など

「サーマルリサイクル」とは、燃やして熱回収しエネルギーとして利用する。

固形燃料、原燃料、温水（プール、浴場）、暖房、電気など

ゴミ焼却発電と熱利用のしくみ

廃プラスチックは紙ごみの約3倍の発熱量がある。高い発熱量をもつプラスチックを含むごみは貴重なエネルギー源として、今後ますますその有効活用が望まれる。

一番環境にやさしい方法はどれかを考えて、リサイクルのやり方を選ぶことが大切である。

3. 廃プラスチックをめぐる課題の整理

現状では、いろいろなものが一緒になっている「その他プラ」を強引にマテリアルリサイクルしてしまっている。

考えられる大きな2つの背景は、

①廃プラスチックのリサイクルを「その他プラ」で一括りに考えている。

家庭から出る「その他プラ」は食品残渣による汚れが付いていたり、多種類のプラスチックが混合していたり、包装材自体が多層構造の複合材であることが多いため、マテリアルリサイクルには向かないものである。

このようなプラスチックを一括で集めてリサイクルすること自体に無理がある。

②リサイクル業者を決める入札制度でマテリアルリサイクルが優先されている。

4. 「分別（ふんべつ）」ある分別と適正処理

「集めたものをどうリサイクルするか」から、「どのようなものを何にリサイクルするために集めるか」へ、発想の転換が必要である。

廃プラスチックの排出状態と素材構成からリサイクル手法を決める

PETや白色トレイなど単一素材はマテリアルリサイクルし、
複合材や汚れた廃プラはケミカルリサイクルや熱回収・発電を行う。



マテリアルリサイクルをするのであれば、PETボトルや白色トレイのように、わかりやすく分別しやすい単一素材でできているものを集め、その他大勢のプラはケミカルリサイクルや熱回収を行うというように、廃プラ処理の手法をLCAの視点で見直すことが必要である。そのうえで、リサイクルは排出状態や素材構成をもとに行うべきである。

5. 「製品プラ」の現状

容器包装プラスチック以外にプラスチックを使用した製品がたくさんある。「製品プラ」と呼ばれるこれらプラスチック製品のリサイクルがあまり進んでいない。「同じプラスチックなのに、なぜ？」と思う方もいる。

多くの自治体で、製品プラは「燃やすごみ」にしている。製品プラを焼却して量を減らすこと、これは埋立処分場の延命に大きく貢献する。

また、廃プラを燃焼させることで焼却炉の助燃材が節約できるというメリットもある。

カロリーの安定しているRPF化も有効な利用法だ。(注1)

一方で近年、海洋プラスチックごみ、気候変動、資源の枯渇といった問題がクローズアップされている。これら問題の解決のためにプラスチックの3R(リデュース、リユース、リサイクル)を進め、再生可能資源を使っていくことを目指し2022年4月

から「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律(プラ新法)」が施行された。

6. えらんで、減らして、リサイクル

「プラ新法」スタート

「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律(プラ新法)」は、プラスチックのライフサイクル(設計、製造、販売・提供、排出・分別、回収、リサイクル)全体に、事業者、消費者、国、地方公共団体等のすべての関係主体が参画し、相互に連携しながら環境整備を進めることと、相乗効果を高めていくことが重要なので、それぞれの立場での役割を明確にすることを規定している。

消費者の役割は

- ①プラスチック使用製品の使用の合理化によりプラスチック使用製品廃棄物の排出を抑制する。
 - ②事業者及び市町村双方の回収ルートに適した分別排出をする。
 - ③認定プラスチック使用製品を使用する。(注2)
- 以上に努めなければならない。

製品プラは、リサイクルのしやすさ、つまり単一素材である程度まとまって集めるということに難しさがあるが、今後みんなの力を合わせて取り組みを広げてゆくことが重要である。

6. おわりに

「廃プラスチックの行方」について研究してきたが、引き続き「プラスチックのこれからのリサイクル」についての研究を行っていきたいと考えている。

また、「食品ロス」について、しばらく研究が遠ざかっているのも、新しい情報を取り入れて研究課題を見つけないといけないと思っている。

(注1) RPF化とは、産業廃棄物の古紙や廃プラスチック類を原料として、圧縮成形した高品質な固形燃料(Refuse Paper & Plastic Fuel)を製造する技術・プロセスである。石炭の代替としてボイラー等で活用され、環境負荷低減(CO₂削減)、廃棄物の減容化、再資源化(サーマルリサイクル)に貢献している。

(注2) 2026年2月10日、環境省・経済産業省の「プラスチック使用製品設計指針」に基づく初の認定製品が公表され、花王の洗剤・ハンドソープやプ

ラスのファイルなど、環境配慮設計された文具・容器が選ばれた。資源循環促進法に基づき、リサイクル容易性やプラ削減が評価された初回認定製品の一覧である。

【参考文献】 一般社団法人
プラスチック循環利用協会、「プラスチックのはてな」
<https://www.pwmi.or.jp/>(2026 年 3 月 10 日閲覧)

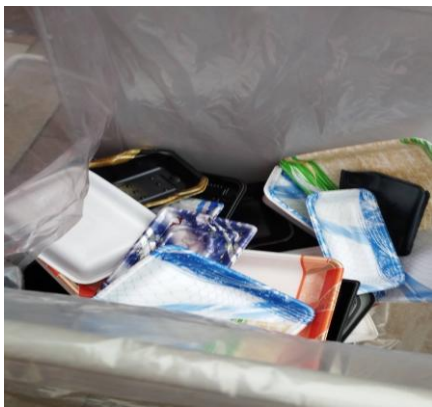
吹田市内の食品トレーの回収促進について
打越明美

1 はじめに

「皆さんは使用済み食品トレーを、どのように処分していますか？燃焼ゴミ？店頭回収BOX？」

吹田市では、スーパーの店頭で食品容器、ペットボトルの回収ボックスが設置されている。循環型社会に関心の高い市民が自発的に使用済みトレーを持参している。

この資源回収のあり方について、一市民として常に気になっていたもので、ここで考えてみたいと思う。



回収ボックスの中の食品トレー

2 「市民とお店をエコでつなぐプロジェクト」活動記録

ここでは、現在のこの「市民とお店をエコでつなぐPT」が始まった当初から現在までの取り組みについて、まとめてみたい。

- ・1999年 「環境にいいお店を探す会」スーパーを舞台とした環境ワークショップを展開。グリーンコンシューマーを増やすことを目的とした。

スーパー探検隊のワッペンを作る

- ・2001年 参加者とお店と勉強会を「イズミヤ千里丘店」で3回開催する。「環境共同宣言」を出しパネルの製作。
- ・2002年 メンバーは12名になり、地球環境課と協働することができ、ネットワークを広げ、

実施店舗も4店舗に増えた。「環境配慮型店舗」作りの実績を積む。参加型の環境ワークショップをする。5月25日に「環境宣言」パネル除幕式。イズミヤ千里丘店にて「こんなことから始めよう」実践勉強会、実施。

8月2日(株)エフピコ福山工場見学バスツアー、11月30日ダイエー吹田店とサンクス商店会で「スーパー探検隊とお買い物ゲーム」を実施。

- ・2003年ワークショップ「スーパー探検隊」はスーパー5店舗で「透明トレーの回収実験」を展開。
- ・2005年「環境にいいお店を作り隊」に名称変更。研究員6名で、6月北千里公民館で、環境課、事業課の協力を得て「知って得するゴミの話」環境講座をした。参加約35名。11月「GO GO GO工場へ行こう」を実施し、参加者24名。千里リサイクルセンターの見学ツアー実施。

・2006年 レジ袋削減について、講座や講演を実施した。

・2007年 マイバッグキャンペーンを展開。キャラクターを作成。シャツにプリントして、スーパーの店頭にてマイバッグ持参の呼びかけをする。

2008年 「環境にいいお店を作り隊」に名称を変更。減量推進課へ活動方針の相談をして北千里地区の自治会へマイバッグキャンペーンの協力をお願いする。チラシ1200枚作製。9月1日～9月30日の1か月間、「みんなで減らそうやレジ袋・もって行こうマイバッグ in 北千里」で北千里サティ・オアシス北千里・ピーコック北千里の3店舗でシールを貼ってもらう。CO2の削減につながる行動として、社会的実験を行う。

・2009年 北千里公民館にて2月15日、「第2回すいたマイバッグ推進フォーラム～減らそうやレジ袋 持って行こうやマイバッグ～」を名古屋から岩月氏を講師に招き開催。参加者 約90名冊子150冊作成、配布。「すいたマイバッグ推進ネットワーク世話人会」に加入してマイバッグキャンペーンに取り組む。キャラクターグッズの製作。

・2010年 スーパーの店頭で回収調査をする。27店舗で実施。

- ・2011年 7月に㈱カンソー津守エコセンター見学、11月に㈱リバースを見学
- ・2012年 7月 エフピコ中部リサイクル工場見学。フジテクノス 一宮工場見学。同年 12 月イズミヤ千里丘店でパネル更新架け替えを実施。
- ・2013年 3月「市民とお店をエコでつなぐ」に変更。エフピコ西宮選別センター施設見学下見。同年 9 月、エフピコの協力で店頭回収マナーの啓発ポスターを制作。
- ・2014年 3月親子・リサイクル工場見学ツアーを実施。参加者大人 25 名、子供 6 名。
- ・2014 年～2017 年 テーマ「使用済み食品容器のリサイクル」拡大にむけて、アンケート調査や出前講座を行う。
- ・2018年 2月 18 日、北摂 7 市 3 町と北摂にあるスーパー 9 社との「レジ袋無料配布中止協定」の締結式に参加。2018 年 6 月 1 日から レジ袋無料配布中止が開始。
- ・2019 年～2021 年 テーマ「食品ロス」についての調査・研究。
- ・2022 年～2025 年 テーマ「プラスチックごみ」削減の研究ならびに「食品ロス」の調査・研究。
- ・2025 年 10 月エフピコ西宮選別センターの施設見学。

3 エフピコの概要

「市民とお店をエコでつなぐプロジェクト」では、2025 年 10 月にエフピコ西宮選別センターを訪問した。

エフピコとは、食品容器の開発とエフピコ式循環型リサイクル「トレー to トレー」使用済み発泡トレー、透明容器、ペットボトルを原料に戻し食品容器を再生する、循環型リサイクルを世界で最初にした会社である。

1990 年、回収を開始し、回収拠点が 6 か所であった。その 35 年後の 2025 年 3 月には回収拠点 11,000 か所に上っている。

2022 年からエフピコは各店舗で使用された食品トレー、ペットボトルを、その店舗での資源として回収し、再生する。再生した食品トレーは、

同じ店舗で使用する「ストア to ストア」の水平リサイクルを提唱し、協働宣言することが広がっている。

バージントレーと比較して、発砲トレー 37%、透明トレー 30% の削減効果が認められ、CO2 の削減効果が認められている。

リサイクル率が増えると、原油の使用量も減り、コストがおさえられる。

2024 年度 使用済み容器の再資源化量 (エフピコ)

ペットボトル 79,000 トン、
透明トレー 3,176 トン
発泡スチロールトレー 7,791 トン
CO2 削減量、約 20、9 万トン

「発泡スチロール製トレーのリサイクル」

ストアーから回収→手選別 白色と色・柄つきトレーの選別→細かい異物を取り除き砕く→水・洗剤で洗う。温水と洗剤で 2 度洗う→真水ですすぎ終わったら脱水する→再度くだいて小さいチップ (粉々) にする→更に熱で溶かして粒状に加工→お米のような粒状のペレットにする→エコトレーに加工 (完成)

4 店頭での回収状況と課題

食品トレーは、食品を壊れにくくしたり、形よく、柄などで美しく見えるように販売するために用いられるものである。

回収 BOX に市民が持参したトレーの中には、不適品 (汚れがついているもの、油でべとべとしたもの) が多く含まれていた。このような物はリサイクルできない。また黒色のプラスチックトレーは、建設や道路などに再利用されるので、必要ところに流用されている。

2026 年 2 月に「環境教育フェスタ」にてポスター発表をした。その際の市民からの声として、「シールは剥がして出すのですか」「シールは少し残

っていても出していいのですか」「洗って乾かして出すのが、面倒だから時々持って行く」「こどもたちに環境のことを教えたい」「トレーを回収した後、どうなっているのか知らなかった。勉強になりました」等の声が寄せられた。市民がトレーを回収したいと考えていても、具体的な知識を知っていないことも多い。市民へ正しく伝える必要性があると感じた。

各スーパーに設置されている回収 BOX にトレーを持参する時、市民が気を付ける事項は次のとおりである。

発泡スチロール・プラスチックトレー共通

- ① 「回収できるトレー」とは、「つまようじがささるもの」をいう。
- ② 色、柄は問わない。
- ③ 汚れているものは、洗って、乾かして出す
- ④ トレーにシールが貼っているものや印刷されているものは、不適品で、燃焼ごみとして出す。
- ⑤ シールは剥がして出して欲しいが、少しくらいなら残っていても良い。

最近はスーパーで回収マナーのポスターは貼られていない。さらに市民に周知する必要がある。



吹田市内のスーパー 回収 BOX

5 今後の課題

今後の課題としてプロジェクトでは、次のようなことを考えている。

どうすればリサイクルのトレー（適正品）の量が増やせるのか？次年度も BOX の状況を観察するなど、容器の回収をどうしたら増やせるか？店頭回収 BOX の回収量を増やす研究を続けていきたい。

また、周知する方法を考え、実行する。マイバッグ持参運動の時のように、市民へチラシの配布やイベントなどで協力をお願いをして周知したり、行政のホームページにも掲載するよう働きかけるなど、進めていきたい。

「洗濯排水のマイクロプラスチック ファイバーを抑制する取り組み」

松浦 真理子

1. はじめに

近年洗濯排水に含まれるマイクロプラスチック（以下 MPs という）による海洋汚染の深刻さの実態がより注目されるようになった。この MPs には、微細な粒子と繊維状のファイバーがあり、後者をマイクロプラスチックファイバー（以下 MPFb という）または、単にマイクロファイバーと呼ばれる。MPs は、直径 5 mm～0.001 mm(1 μm) である。MPFb は、繊維経（繊維の太さ）1 デシテックス(dtex)以下、または直径が 10 マイクロメートル(μm)以下の繊維である。（文献 1・2）筆者は、さらに 1 μm未満の目に見えないナノプラスチックの存在にも危機感をもっている。

洗濯機で衣類を洗うだけで、世界全体で毎年 50 万トン以上の MPFb が海に流出しているという。MPFb は、MPs 全体の 16%～35%を占めるとみられる。（文献 3・4）

家庭の洗濯機からは、1 世帯当たり年間 500g の MPs が排出されているという報告もあり、今後もファストファッション需要の増加により、環境中に放出される MPFb はさらに増える予想される。（文献 5）

そこで、①市民の一人一人ができること、②企業の取り組み、③行政の取り組みについて考える。今回は、まず市民が家庭で無理なくできることを考えて、実践してみることにする。

2. 衣類の「3R」、何より大切な「2R」の実践

(1) Reduce：①衣類は計画的に購入し、衝動買い、買いだめをしない。②できるだけ天然繊維（オーガニック）コットン、麻、毛、絹等）や再生繊維（レーヨン、キュプラ等）の製品を購入しよう。近年、これらの生分解性が期待される製品の品揃えが増えてきたので、入手しやすくなった。

(2) Reuse：①必要とする人に譲る。「あげます・もらいます」（くるくるプラザ）、②Reuse 店、③サブスクの利用等々。近年、Reuse 店の店舗数増加と市場拡大が著しい。

環境省の「令和 6 年度リユース市場規模調査報告書」によると、2023 年のリユース市場は、販売額で、3 兆 1,227 億円、内衣料・服飾品が最も多く 5,913 億円（18.9%）となっている。所有から Reuse へ、あるいは、サブスクの利用等にシフトする選択肢もあるようだ。（文献 6）

吹田市においては、大型 Reuse 店「2nd STREET」が岸边、江坂などに店出している。また、吹田市は、「(株) マーケットエンタープライズ」と協定を締結し、リユースプラットフォーム「おいくら」に一括査定を申し込み、買取条件の提示をした複数の加盟ショップに不用品を売却するシステムを提供している。吹田市 HP から申し込める。（文献 7）

(3) Recycle：廃棄せず資源回収へ。ユニクロ、阪神阪急百貨店、ルック大阪等は、不要になった衣類の回収ボックスを常設している。イオンなど期間限定で設置する店舗もある。

3. 洗濯機から MPFb 放出を減らすために市民ができること

合成繊維の衣料は、着用するだけで MPFb を環境中に放出させるが、洗濯による下水への排出や乾燥機による大気中への放出が問題になっている。

今回は、メインテーマである家庭の洗濯機から下水への排出を減らすには、どうすればよいか考えてみたい。

(1) 縦型洗濯機の仕組みについて

①循環濾過システム（図①）

パルセーターによる攪拌で上昇した水が、糸くずフィルターを通る度に濾過される。（次頁図②）ただし、3 mm以下の MPFb は回収できない。（文献 8）



図① 縦型洗濯機の循環濾過システム
Panasonic 商品情報
<https://panasonic.jp/wash/feature/F/A/washing.html> (2026. 3. 7 閲覧)



図② 洗濯槽(筆者宅の洗濯機)
側面 糸くずフィルター
底部 パルセーター(回転板)

②洗濯ネット型フィルターの使用

GUPPYFRIEND Washing Bag は、合繊繊維衣類の保護と MPFb の排出を防ぐとされる。ヨーロッパ各国でパーツ、製造工程ごとに手分けして製造されている。(文献 9)



図③ 筆者が購入した製品
サイズ:50X74cm
素材:ポリエステル 100% (PET)



GUPPYFRIEND/グッピーフレンド ウォッシングバッグ
<https://www.ecomfort.jp/item/LG000002.html>
(2026. 4. 5 閲覧)

(2) ドラム式洗濯機の仕組みについて

縦型洗濯機の糸くずフィルターにあたるフィルターが、排水ポンプの手前に取り付けられている。(図④) これは、排水中の糸くずや異物を除去し排水ポンプを守り、排水口の詰まりを防ぐためのものであり、洗濯後の掃除が必須とされている。結果的に排水の MPFb 汚染を減らすことになる。

ドラム式洗濯機においては、下水路への MPFb の排出を抑えることも大切であるが、乾燥機の使用に伴い放出される大量の MPs 粒子による大気汚染の方が深刻であるという指摘もある。(文献 11)



図④ フィルター位置(縦型・ドラム式)
<https://monosyuuri.com/home/washing-machine-lint-filter-cleaning>

(3) 洗濯で発生する MPFb を抑制するために心がけたいこと

①洗濯回数を減らし、時短コースで。アウターなど着用回数の少ないものは、陰干しで済ます。

②洗濯ネットの使用は必須。できるだけ目の細かいもの。衣類の摩擦を抑え MPFb の発生を抑制するため。できれば GUPPYFRIEND Washing Bag のような専用品の使用がベター。

③水温は 40℃以下で。風呂の残り湯使用時注意。お湯の使用は、繊維を傷める。

④液体洗剤の使用と柔軟剤の適量使用を。粉末洗剤は摩擦が大きく柔軟剤は繊維を傷める。(文献 9)

(4) GUPPYFRIENDS Washing Bag を試す

合繊衣類と合繊・天然繊維混紡の衣類を GUPPY バッグに 2/3 程度入れ、洗濯槽へ。筆者宅の洗濯機は 48L、5Kg。スピーディー・コース、洗剤は標準コースの半分、所要時間 30 分程度。GUPPY バッグに入りきらない混紡、綿等の衣類は、従来品の洗濯ネット(二重 2 点、一重 3 点)を使用。マックスの水位 48L で洗濯開始。



GUPPY バッグ
図③ 参照



図⑤(左) GUPPY バッグに入れた衣類
図⑤(右) 従来品の洗濯ネット 二重
サイズ:40x46cm
素材:ポリエステル

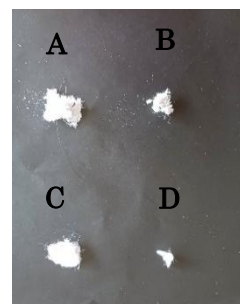


図 ⑥ 捕捉した MPFb

- A : GUPPY バッグ内側に付着した MPFb (右図)
- B : GUPPY バッグ内衣類に付着した MPFb
- C : 洗濯槽糸くずフィルターに付着した MPFb
- D : 従来品洗濯ネット内上部ファスナー部分に付着した MPFb

① GUPPYFRIEND Washing Bag を使用することによる効果

合成繊維の脱落を 86%減少させ、MPFb の発生を抑制する。脱落した合成繊維の 90%以上を捕捉し、MPFb の排出を防ぐ。また、Washing Bag は、※モノフィラメントの繊維のポリエステル (PET) のため繊維脱落を防ぐとされる。(文献 9・10)

洗濯の結果、バッグ内下半分に繊維が付着。図⑥の丸印でマークした付着箇所、および、回収した繊維くず A となり、一定の効果は認められる。

② GUPPYFRIEND Washing Bag 使用についての課題

バッグ内衣類にも小さい塊の繊維が多数付着。

(図⑥-B) 従来品の洗濯ネット使用時でも少量の付着を認めることはあるが、これだけ多いのは想定外である。排水中の MPFb を減らしても衣類に付着した MPFb を環境中に放出することになる。

従来品の洗濯ネットからも少量の繊維を回収した。(図⑥の D) 繊維の付着位置は、洗濯ネットの上部ファスナーの左右両端部、バイヤステープの部分である。(図⑦) ファスナーの両端部は、繊維くずなどの溜まりやすい部分ではあるが、バイヤステープの布の材質が関係している可能性はないだろうか。柔らかいが、少し引っ掛かりがある感触である。GUPPYFRIEND バッグ内に繊維くずスポットをつくり、衣類への付着を防ぐよう改善できないだろうか。



図⑦
従来品洗濯ネット
(二重)に付着した
わずかな繊維く
ずの塊

3. 研究テーマ「洗濯排水のマイクロプラスチックを減らす取り組み」にトライして

近年、プラスチック汚染が、地球上のあらゆる地点に拡大し、海洋は深海まで、大気と土壤にも汚染が広がっていることが判明した。もう手遅れではないかと思いつつも、一市民としてできることを無理なく継続して実践することが大切であり、その延長線上に市民研究員として活動を担う役割があるのだ。

世間には、立派な意見を述べる人たちが大勢いるが、多くの場合行動が伴わないことを残念に思う。大切なことは行動を起こすことだ。環境問題などの社会課題の解決の第一歩は、市民の行動力だと思う。

筆者にとっては、かなりハードルの高いテーマを選んでしまった。データを探しきれなかったり、データそのものが存在しないことが判明したりして、選んだテーマの調査が思い通りに進まなかった面もある。このテーマは、引き続き 2026 年度も継続し、①調査と実践を主体にすること、②論文を読むこと、③所属 PT 内の情報共有と外部への情報発信を心掛けることを目標にしたい。

※モノフィラメント：1本の繊維でできた糸(単繊維)強い。例)釣り糸など 丸三化学工業(株)(2026.4.13参照)
<https://www.msyn.co.jp/monofilament/monofilament/>

参考文献

- 1) 日本化学繊維協会
[マイクロファイバー | 日本化学繊維協会 \(化繊協会\)](#) (2026.4.4. 閲覧)
- 2) 津田産業 <https://tsudasangyou.com/2522.html>
(2026.4.5 閲覧)
- 3) Forbes JAPAN
<https://forbesjapan.com/articles/detail/62872> (2026.3.7 閲覧)
- 4) Patagonia Stories [マイクロファイバー汚染に終止符を打つ - Patagonia Stories](#) (2026.3.7 閲覧)
- 5) カラパイア サイエンス&テクノロジー
<https://karapaia.com/archives/571157.html>
(2026.3.7 閲覧)
- 6) 環境省環境再生・資源循環局
<https://www.env.go.jp/content/000327691.pdf>
令和 6 年度 リユース市場規模調査 報告
(2026.3.7 閲覧)
- 7) 吹田市 × おいくら?
<https://oikura.jp/lg/osaka/suita/>
(2026.3.7 閲覧)
- 8) 洗濯機付属糸くずフィルターがマイクロプラスチック ファイバーの流出を削減する効果 (2022 年 12 月 5 日受付; 2023 年 2 月 2 日受理)
[06-報文-秋田様他.indd](#) (2026.4.14 閲覧)
- 9) [ガッピーフренд | 洗濯 GUPPYFRIEND.com](#)
(2026.3.7 閲覧)
- 10) the ecomfort house (2026.4.5 閲覧)
<https://www.ecomfort.jp/item/LG000002.html>
- 11) futureearth
<https://futureearth.org/changing-the-way-we-do-laundry-could-significantly-reduce-air-pollution/> (2026.4.14 閲覧)

1. はじめに

最近、新聞、テレビなどのマスコミでプラスチックごみについて、大きな話題となっている。プラスチック削減の一環として、スーパーのレジ袋の有料化が進められ、エコバックの利用が促進され、プラスチックごみの削減に大きく貢献している。しかし、プラスチックの消費量は年間910万トンと試算され、目に見える量の削減には至っていない。なかでも、環境に対するプラスチックごみの汚染で問題となっているのが、海洋に流出したマイクロプラスチックによる汚染である。このマイクロプラスチックの現状と人体に及ぼす影響について文献をとおして検討を行った。

2. 文献からみたマイクロプラスチックの影響

海に流出したプラスチックが長期にわたり風、波、紫外線などにより細粒化されマイクロプラスチックとなり、さらに微細化されナノプラスチックへと分解されることが知られている。微細化したプラスチック（ナノプラスチック）が、プランクトンに取り込まれ、さらにそのプランクトンが魚のえさとなり、いわゆる食物連鎖により最終的には、人体に取り込まれる。この人体に取り込まれたマイクロ（ナノ）プラスチックの有害性について、多くの報告がある。

東京農工大・高田秀重教授ら（文献1）の研究報

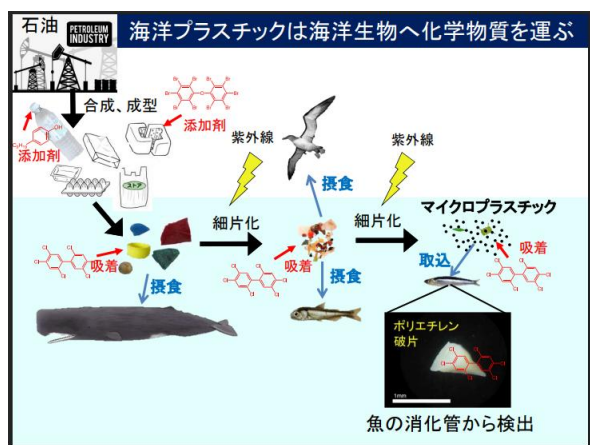


図1 マイクロプラスチックと食物連鎖

出典：（文献1）

告によると、海洋を漂うプラスチックの一番の問題は、海の生物が取りこんでしまうことである。東京湾のカタクチイワシからマイクロプラスチックが検出され、多摩川の河口のハゼなどの小さな生物から、マイクロプラスチックが検出された。さらに、海に漂うマイクロ（ナノ）プラスチックが海中に溶け込んだ様々な有害化学物質を吸着して人体に取り込まれたのち、その有害化学物質が健康に影響を及ぼす可能性を指摘した（文献2）。

また、日本を含む8か国のヒトの糞便中からマイクロプラスチックが検出され、さらに体内、消化器系からマイクロプラスチックが検出されたとの報告もある（文献3）。

ヒトの胎盤からマイクロプラスチックが検出されたとの報告もあり、循環系にマイクロプラスチックが取り込まれることも明らかにされている（文献4）。体内に取り込まれたマイクロプラスチックは生体にとっては異物なので、アレルギーや炎症などを惹起する可能性は否定できない（文献5）。

米国ニューメキシコ大学のチームが、米医学誌ネイチャーメディシンに発表した研究では、遺体の脳には腎臓や肝臓よりも7~30倍の濃度の微粒子が含まれていた。脳内で最も多く発見されたのはレジ袋や洗剤容器などに広く使われるポリエチレンだった。彼らの研究では、脳内にはマイクロプラスチックに比べ、ナノプラスチックの方がより多く確認されたと報告している（文献6）。

最近 NHK BS のテレビ番組において、マイクロプラスチックではなく、ナノプラスチックの話題が取り上げられた（文献7）。大気中、海洋、河川などの環境中に存在するナノプラスチックを観察する京都大学の研究者が、「100年後に研究結果が評価されることを期待して、この研究を始めた」と様々な種類のナノプラスチックが環境中から検出されつつあると報告した。また、オーストリアの病理学者は、ネズミに経口投与したのち、ナノプラスチックを体内のあらゆる臓器から検出した。特に注目したのは、脳内に検出されたナノプラスチックであった。通常、脳には血液脳関門によってあらゆる異物の脳内への侵入を防いでいる。投与されたナノプラスチックが、どのようなメカニズムによって脳内に取り込まれたか、シミュレーションに基づいて考察した。また、日本の国立環境研究所の研究者は、脳内に取り込ま

れたナノプラスチックが行動に及ぼす影響について、ネズミを使って研究を実施している。大阪大学の毒性学研究者は、紫外線によって変性したナノプラスチックが脳に及ぼす影響について研究し、培養した脳神経細胞の増殖を阻害することを明らかにした。番組では、米国ニューメキシコ大学の研究者が発表した論文を紹介し、死亡した認知症患者の脳内にナノプラスチックが多く含まれていることを明らかにし、ナノプラスチックが認知症と関連している可能性を指摘している。

人体に取り込まれたマイクロ（ナノ）プラスチックの健康に及ぼす影響については、未だ世界中の研究者によって、様々な角度から研究が進行中である。さらなる研究の進展を待ちたい。

3. おわりに

最近、新聞、テレビなどの報道やインターネットを介して多くの研究者の報告や論文にアクセスできるようになった。戦後、長年にわたって世界中で使用されてきた、合成樹脂から製造されるプラスチックなどの化学製品が環境中に放出され、海中、河川中及び空気中において紫外線や酸素の作用で生成されたマイクロ（ナノ）プラスチックが、空気、水、食物を通して体内に取り込まれていることは、間違いない事実である。この取り込まれたマイクロ（ナノ）プラスチックが将来、人体にどのような影響を及ぼすか、現在まで決定的なエビデンスは報告されていない、まだまだ不確かな状況である。しかし、今我々ができることは、プラスチックなどの化学製品の使用を可能な限り減らし、環境への排出を極力抑え、理想的にはゼロに抑えることに尽きる。

今回、この研究を通して分かったことは、日常何気なく使っているプラスチック製品が、マイクロ（ナノ）プラスチックへと変化し、環境が汚染されつつあるという事実。マイクロ（ナノ）プラスチックの有害性が明らかになるのは、まだ先になるかもしれないが、環境問題が我々の健康問題に深く関わっているとの気づきがあり、学びがあった。

プラスチック製品は、私たちの生活に必要不可欠なものである。可能な限りその使用量を減少させ、また一方で環境中に放出しない正しい廃棄方法を周知徹底させる努力も必要である。

一人ひとりが、3R（reduce、reuse、recycle）の

考え方を通して、少しでもプラスチック製品を無駄に使わない、環境中に放出しない行動が大切である。

参考文献

- (1) 高田秀重 「マイクロプラスチック汚染の現状、対策、国際動向」：環境省ホームページ
(<https://www.env.go.jp/council/content/>)、(閲覧日 2026 年 4 月 4 日)
- (2) 高田秀重 「忍び寄るマイクロプラスチック汚染の真実」インタビュー記事：National Geographic（日本語版） 2018 年 6 月号
- (3) Robbie Gonzalez Science 2018. 11. 25 「あなたの排泄物にもマイクロプラスチック？ 日本を含む 8 カ国で被験者の便から検出（日本語訳）」
(<https://wired.jp/2018/11/25/your-poop-is-probably-full-of-plastic/>)、(閲覧日 2026 年 4 月 4 日)
- (4) 東京大学 FSI 海洋プラスチック研究ホームページ「乳児や胎児に迫るマイクロプラスチック～ヨーロッパの研究者らが哺乳瓶や胎盤から検出」
(<https://fsi.mp.aori.u-tokyo.ac.jp/2021/06/post-25.html>)、(閲覧日 2026 年 4 月 4 日)
- (5) 京都先端科学大学ホームページ「マイクロ（ナノ）プラスチックの経口摂取が食物アレルギーを悪化させることを確認」
(<https://www.kuas.ac.jp/news/31094/#:~:text=>)、(閲覧日 2026 年 4 月 4 日)
- (6) 毎日新聞夕刊「プラ微粒子、脳内に蓄積（米大学発表、濃度、腎・肝臓の 7～30 倍）」2025 年 2 月 8 日
- (7) NHK BS テレビ番組「FRONTIERS」2026 年 1 月 28 日放送

プラスチックリサイクルの新たな取り組み 吉田 竹文

1. はじめに

身近な中食容器の実情と課題について昨年記したが、本年はプラスチックリサイクルの新たな取り組みについて記すことにする。

原油を主に輸入に頼る日本は、原料調達リスクが常につきまとう。2026年3月時点でイラク武力衝突により原油輸出減産による価格高騰と原料不足で他業種に甚大な影響を与えている。

そのため資源を有効に活用していく必要があるが、プラスチックのリサイクルについてはまだまだ発展途上と思われる。

ここで、プラスチックリサイクルの新たな取り組みについて2例紹介したい。

2. エフピコの取り組み

エフピコは、世界で最初に循環リサイクルであるトレーtoトレーをはじめ、業界に先駆けエフピコ方式のリサイクル活動が続けている。

2024年度の回収量は11万トンで、毎年着実に回収量を増やしている。1990年6拠点から始まった回収拠点数も2025年3月には、11,000拠点数に大幅に増加している。



図1 エフピコ方式のリサイクル

回収から引渡、再生まで自社で行うエフピコならではの取り組みが、自動販売機のベンダーに似た回収方法だ。

商品を納品した帰り便を利用して回収も行うことで、効率的な回収を行なうことができ、運送資源を節約することができる。

近くのスーパーもエフピコ方式のリサイクルに参画しているかもしれない。

3. 瀬戸内資源循環プロジェクト

ここで紹介したいプロジェクトがある。

「瀬戸内資源循環プロジェクト—食品容器を再び食品容器へ、企業連携による新たなリサイクルモデル—」である。

使用済みプラスチック食品容器の回収、再資源化、再生原料化、成形、販売に携わる6社が連携し、スーパーマーケットの店頭で回収した使用済みプラスチック食品容器をケミカルリサイクルにより再資源化し、再びプラスチック食品容器として再生・活用するプロジェクトだ。

画期的なのは、これまで水平リサイクルが困難とされてきた容器のリサイクルを目指すこと、リサイクルの大きな障害となっていた分別が緩和されそうな点である。

島国日本では、リサイクルを実施した際の輸送コストが問題となる地域が多い。特に中食容器は、かさばる容器である。島の代表である沖縄を例にあげるとプラスチックのリサイクルが全国平均からみて少ないという。

家庭から排出されたごみのうち1人1日あたりのリサイクルされた量は、全国平均15.7gに対して沖縄県は、2gである。プロジェクトの今後のスキームによって各拠点での回収が進み、リサイクル回収率が他地域でも増えることを期待したい。

色付きトレーは熱で溶かす際に色が混り、白色トレーのような高品質なペレットにならないため、再利用な用途としてこれまで限定されていた。

色柄発泡容器（PSP）や透明容器（OPS）を含む使用済みプラスチック食品容器を対象に、回収から高度選別、ケミカルリサイクル（熱分解による油化）、石油精製、スチレンモノマー化、さらにケミカルリサイクル由来ポリスチレン樹脂（マスバランス方式）の製造と成形品の

販売までを一貫して行う水平リサイクルループを構築する。

これにより、持続可能な循環型社会の目指すとのことである。

また、瀬戸内エリアで使用済みプラスチック食品容器を回収・選別し、油化ケミカルリサイクルにより再資源化した原料を活用する地域循環型リサイクル・原料調達スキームであり、再商品化された製品は、地域を越えて全国へ展開され、環境負荷低減に貢献される。

今後の展望は、企業連携により確立したスキームを用いて、2026 年初旬までに賛同するスーパーマーケットと協議を進め、同年中には岡山・広島エリアの店舗において使用済み容器の回収を開始する予定とのことである。

本プロジェクトのほか、ENEOS と三菱ケミカルもプラスチック油化開始に向けたケミカルリサイクル設備を 2025 年茨城県神栖市に竣工している。

今回は割愛させて頂くが、各社研究に取り組んでおり、将来的には技術革新によりサーキュラーエコノミーが当たり前になっているかもしれない。



図2 瀬戸内資源循環プロジェクト

連携企業各社の役割は次のとおりである。

- ・ 株式会社オガワエコノス（事業拠点：広島県福山市）：使用済み容器の回収・高度選別・加工
- ・ 株式会社 CFP（事業拠点：岡山県笠岡市）：熱分解による油化

- ・ 旭化成アドバンス株式会社：熱分解油のオフテイク石油精製接続
※商社行為により事業拠点なし
- ・ 太陽石油株式会社（事業拠点：愛媛県今治市）：熱分解油からの分留・基礎化学品製造
- ・ 旭化成株式会社（事業拠点：岡山県倉敷市）：基礎化学品からスチレンモノマー製造・供給
- ・ PS ジャパン株式会社（事業拠点：岡山県倉敷市）：ポリスチレンなどの製造・供給
- ・ シーピー化成株式会社（事業拠点：岡山県井原市）：再生樹脂を用いた食品容器の製造

4. おわりに

プラスチックの回収は、市町村により施策が異なる。吹田市、茨木市、高槻市、摂津市は燃えるごみで、大阪市、豊中市ではプラスチックゴミとして回収をしている。費用対効果の面から回収コストが上回るのであれば、現状では吹田市のように焼却した方がよいと筆者は考える。さらに資源を投入し、新作する量よりもリサイクルする為に資源を消費したのでは本末転倒になると考えるからだ。また、新しい仕組みの形成による CO2 の増減も重要な指標である。

瀬戸内資源循環プロジェクトによる資源循環水平リサイクルは、利便性を求めた結果、原材料の判別が難しい製品が増える中、特に原料使用量の多い中食容器に対して焼却処理ではない選択肢が増えることは心強いと考える。

今後の店頭回収は、回収が普及しているスーパーの次にターゲットとなるのは、コンビニであると考えられる。それはスーパーよりも身近な場所に複数店舗があり、食品等の納品と回収が毎日複数回行われているからだ。

瀬戸内資源循環プロジェクトのように民間の企業が連携し、地域循環型のリサイクルが進むことを期待したい。

もちろん一般消費者がこれまでのように商品購入の際に過剰包装を断ったり、資源分別を行いリサイクルを日頃から行うことが肝要である。捨てればゴミだが、分別回収してリサイクルすれば資源となる。

引き続き本プロジェクトの行方や業界動向について調査し、注視していきたい。

参考文献

1)エフピコホームページ

https://www.fpc.co.jp/esg/environmenteffort/fpc_recycle.html (2026 年 3 月 19 日閲覧)

2)沖縄県ホームページ

<https://reduce-plastic.okinawa/> (2026 年 3 月 19 日閲覧)

3) 旭化成アドバンス株式会社 お知らせ

https://www.asahi-kasei.co.jp/advance/jp/news/pdf/20251001_setouchi_pj.pdf (2026 年 3 月 19 日閲覧)

4)旭リサーチセンター ケミカルリサイクルの最新動向 (2023 年 1 月～2024 年 3 月)

https://www.google.com/url?sa=t&source=web&rct=j&opi=89978449&url=https://arc.asahi-kasei.co.jp/report/arc_report/pdf/rs-1069.pdf&ved=2ahUKEwjefztl62TAxUSr1YBHY03HGoQFnoECB0QAQ&usg=AOvVaw1uDZWtG_jlWSnZW0V394mP (2026 年 3 月 19 日閲覧)

01

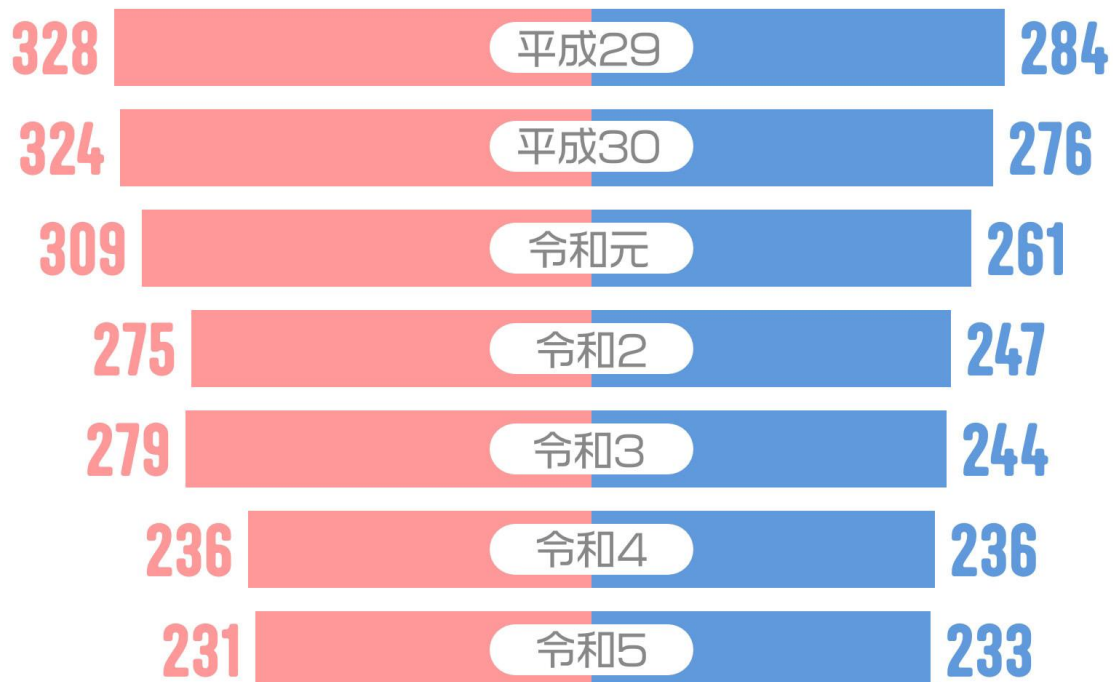
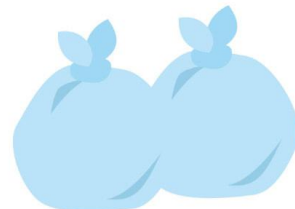
食品ロス量

(単位=万トン)



事業系

家庭系



事業系、家庭系ともに食品ロスは減少方向

出典：食品ロス削減関係参考資料 令和7（2025）年6月27日版

食品ロス量の推移（平成29～令和5年度）
農林水産省

吹田ごみゼロシステム研究プロジェクト

—ごみゼロ（すてるをなくす）へのシステム研究—

1 はじめに

2 活動テーマ

- (1) 商品包装、梱包資材削減に向けてできること
- (2) 管理しないと竹やぶ化する竹林の竹の利用
- (3) 「ごみゼロ」はごみの分別から
廃棄物の資源化を目指して

吹田ごみゼロシステム研究プロジェクト

上山幸子※

林 裕加吏※

若林 肇※

(※印は執筆者を示す)

「吹田ごみゼロシステム研究プロジェクト」

— ごみゼロ（すてるをなくす）へのシステム研究—

1. はじめに

2025 年度当初は、新たに 3 名を迎え計 7 名で活動を開始したが、転居・病気・多忙のため途中で 4 名が抜けてしまい 1 月からは 3 名での活動となった。

今年度の報告テーマは次のとおりである。

- ① 商品包装、梱包資材削減に向けてできること
- ② 管理しないと竹やぶ化する竹林の竹の利用
- ③ 「ごみゼロ」は ごみの分別から
廃棄物の資源化を目指して

2. 2025 年度ブログの発信について

6 月に、代表をしていただいていた方が転居のため辞められ、ブログアップできる人が 1 名のみとなり、毎週のブログアップも難しい状態となった中で、何とか途切れながらも続けてきたが、少人数のため、前年度の半数にとどまってしまった。

表 1 年度別ブログ発信数

2019 年度	8
2020 年度	26
2021 年度	8
2022 年度	4
2023 年度	43
2024 年度	44
2025 年度	23

今年度のブログは以下のとおりである。

- 4/10 [神戸市エコノバ訪問メモ その 1](#)
4/17 [「地球が燃えている」～頻発する山火事と気候変動～](#)
5/1 [市町村のリユース取組](#)
5/8 [鹿児島県大崎町～資源循環の取り組み～](#)
5/15 [「ごみゼロ」について思うこと](#)
5/22 [「グリーンウォッシュ」と、フィリピンの市民団体が日本政府を非難するのはなぜ？](#)
5/29 [家庭ごみ有料化の議論を考察する](#)
6/5 [公園のリニューアルと生物多様性](#)

6・19 [「ごもく」ってなに？](#)

6・26 [「ごみゼロ」にむけて](#)

7・3 [PFAS 汚染問題…その対策は？ 産廃処分場の在り方を問う](#)

7・17 [気候変動…食・くらしすでに影響](#)

8・28 [半導体工場『環境負荷ゼロ』への工夫～企業も自然エネルギーへ転換～](#)

9・4 [ガラスびんを材料にして個性的な工芸作品ができますよ！](#)

9/18 [クリーンエネルギーの時代が夜明けを迎えている](#)

9/25 [Earth Overshoot Day\(アースオーバーシュートデー\) って、なんのこと？](#)

10/16 [家電と太陽光パネルのリサイクルの現場を見学！](#)

10/23 [気温上昇を止めるために私達にできること](#)

11/10 [得手勝手流 我が家の生ごみ処理](#)

11/17 [家庭ゴミを減らす工夫](#)

12/02 [日本は 4 年連続「化石賞」！……韓国は石炭火力発電をやめていく事を表明！ | suitagomi のブログ](#)

12/10 [ごみの現状と考察 | suitagomi のブログ](#)

12/18 [ガラスびん物語 「びんビールで乾杯」、吹田市では在りかも?! | suitagomi のブログ](#)

出来るだけ多くの方に見てもらえるように、ブログアップした時にはクリックしたらすぐ見られるようにメールに URL を張り付けて発信もしてきた。ごみゼロシステム研究 PT 以外の方にもブログ記事を書いて頂く取り組みも初めてできた。しかしながら 1 月からは休止状態となった。

3. 2026 年度に向けて

来年度は各人の研究活動に加え、PT として共同の取り組みを始めたい。

また、ブログも再開したい。

1 はじめに

猛暑の夏や暖冬など、異常気象や地球温暖化を身近に感じる機会が増えている。その中で私は「自分に何ができるか」を自問し、この1年間スモールステップとして、コンポストに取り組んだ。その結果、生ごみをほとんど出さない生活を実現できたが、一方で包装資材のごみの多さが気になった。

衛生管理や商品保護の重要性は理解しつつも、開封後すぐに廃棄される豪華なパッケージや、無包装でも支障のない野菜の姿を見るたび、強い違和感を抱かざるを得ない。本報告では、消費者の視点から、現在の流通と環境配慮のあり方について考察する一歩にしたいと思う。

2 テーマ設定理由

最終廃棄になる商品移送、保護目的の包装、梱包資材の削減を取り組みたいと考えた為。

3 現状の把握 商品・梱包資材の現状

(1) 商品実態調査

近隣スーパーの食品売場(野菜・果物)での包装、無包装調べ (2025/11/14 実施)

・調査まとめ

表1 スーパーでの無包装の調査結果

	野菜	果物
A店舗(食品専門スーパー)	21点:3点	11点:3点
B店舗(食品専門スーパー)	22点:4点	11点:2点
C店舗(総合スーパー食品売り場)	35点:9点	8点:3点

※表内の数値 包装点数:無包装点数

いずれの店舗もラップもしくはラップと発泡スチロールトレイで包装されたものが7~8割を占める。

衛生に面に配慮もしくは、硬さ等で破損の回避からの対応と推測される。根菜類等、あるいは切っていないものは、無包装でも可能ではないかと考える。

(2) 容器包装を巡る法的義務と環境配慮の動向 食品販売における包装と表示義務の相関

食品の販売形態は、利便性・衛生管理の観点から「容器包装」が主流だが、そこには「食品表示法」による厳格なルールが関わっている。

① バラ売りの場合

店員への直接確認が可能という前提のもと、「名称」および「原産地」という最小限の項目提示で販売が可能である。

② 容器包装(パック詰め)の場合

消費者が非対面でも情報を判断できるよう、「消費期限」「保存方法」「内容量」「加工者の氏名・住所」といった全項目の表示が義務付けられている。

販売者は、表示義務というコストを負ってでも「利便性と衛生」を取るか、対面コミュニケーションを重視して「バラ売り」を行うか、その選択を委ねられている。現状、効率性を重視する市場環境が、結果として包装資材の多用を招いている側面がある。

(3) 非食品における品質表示と環境関連法規

日用品や衣類等の非食品においても、安全性の担保と環境負荷低減の間で複雑な法規制が存在する。

① 関連法規の遵守

- ・家庭用品品質表示法: 消費者保護を目的とし、中身の詳細な説明義務。
- ・資源有効利用促進法: リサイクルマーク(識別表示)の付与義務。
- ・プラスチック資源循環促進法: 過剰な包装の抑制と資源循環の推進。

② 包装の役割

安全上の注意や品質データを詳細に伝える必要がある商品ほど、確実に情報を付着させられる「梱包」が選択される傾向にある。

4 物流・アパレル業界における環境配慮への転換
一方で、過剰包装の見直しは着実に進んでいると聞く。特に物流やアパレル分野では、品質保持と環境負荷低減を両立させる新たな取り組みが導入されている。

・物流・アパレル業界の取り組み

改善項目 ^①	具体的な取り組み事例 ^②
段ボール・中敷きの削減 ^③	ドレス等のしわ防止機能を備えた「特殊構造梱包箱」の採用により、従来の中敷きを徹底。④
梱包資材の見直し ^⑤	厚手ビニールの廃止、および繰り返し使用可能な「リターナブル梱包（通箱）」の導入。⑥
プラスチックの代替 ^⑦	物流パレット固定用のストレッチフィルムを、繰り返し使える「パレットベルト」等へ代替。⑧

（１）梱包資材の現状

・食品業務用ラップ

環境に配慮し、薄くする、植物由来のバイオマス素材の取り組み。

《課題》使用済みラップのリサイクル、リデュース、素材開発、技術革新等。又消費者行動の変容も望まれる。

【企業例】

●三菱ケミカル(株)

バイオマスポリエステルを原料の一部（10%）使用の商品開発。

・発泡スチロールトレイ年間 5.8 トンの消費。国民一人当たり 1 日あたり 0.26 枚。回収取り組みは推進されているがリサイクル率 2 割程度。

《課題》ノントレイ化、代替素材、紙製バイオマス化。

●(株)エフピコ

発泡スチロール国内シェア 3 割。軽量化促進、低発泡 PSP 素材使用。リサイクルに対しての積極的な取り組み企業。

（２）環境に配慮した素材研究の進捗 新素材研究の実情

【企業例】

●三菱マテリア(株)

食品包装材に使用されるガスバリア性樹脂「ソアノール」リサイクル助剤「ソアレージ」を含む多層フィルムが欧州 Recy Class のリサイクル認証獲得。

●(株)村田製作所

積層セラミックコンデンサなど電子部品製造の副資材として用いる工業用 PET フィルムを飲料用 PET ボトルのリサイクル原料として共有する取り組み実施。

▶素材メーカーの傾向としては、更に軽量化、植物性由来の素材開発主流。

素材研究状況に関しては、更なる調査が必要。

（３）商品取り扱いメーカーの取り組み

【企業例】

●ユニリーバジャパン(株)

シャンプー等の量り売り（リフィルステーション）を 2021 年から一部店舗にて実施

●ネスレ日本(株)

「キットカット」大袋製品の外袋を 2019 年から森林環境に配慮した FSC 認証紙に（順次）変更。

●(株)ロッテホールディングス

「キシリトール」紙素材に代替する環境対策として、間伐材を原料にした紙（間伐紙）が容器やパッケージに使用。

（４）販売店舗聞き取り調査

前述（１）の対象店舗に下記項目聞き取り（2026 年 4 月）

a 持ち帰りの為に、廃棄前提の梱包材の使用に関して、どのように考えているか？

見直し等予定などの有無。

b トレー等のリサイクル率

【結果】

B 社（食品スーパー） 本社機能は輸入商品中心の為、輸送において、堅牢な包装は回避し辛いのが現状（冷凍食品、菓子類の箱等）。海外の取引先への働きかけは難しいとした上で、貴重な意見として捉えられる。

※フランチャイズ契約店舗展開で、生鮮食品仕入れは、個別。店舗に申し送りは頂ける。

C 社（総合スーパー） 同様の意見は多く寄せられているとの返答。しかし、公式の HP 掲出内容掲出に留まる。

（課題認識抜粋） プラスチックや食品廃棄の削減を通して資源循環の仕組化。持続可能な消費行動を顧客と共に創出。

取り組み

・店頭回収、リサイクルの推進・プラスチック使用量削減及び代替素材への転換。

改善への具体的な姿勢は感じたい。

※回収、リサイクルに関しては、言及なく、状況の把握には至らず。

【参考】

・（包装状況確認外店舗）公式 HP 上で、一部トレー不使用との記載がある企業（店舗）を確認するも、該当が見当たらないケースも。問い合わせに対しては返答がない状況。

5 課題

- ・情報、代替素材等の知識の習得不足。
- ・店舗・素材メーカー・商品メーカーの一部調査した結果、意識はあるものの梱包材の削減が具体的に感じにくい
輸送における梱包削減化の開発が鍵。
- ・環境に配慮した代替素材の開発、使用は若干見られ、取り組みの可能性は今後更に期待。
- ・社会的情勢により、原材料高騰が余儀なくされるのを踏まえて、見直しの転換点への期待。

6 今後の取り組み

企業、自治体窓口に市民としての提言を行う。
さらに、同目的の団体、個人と共に活動できる可能性を模索。梱包資材の削減に近づけるように進め、目標に近づける。

管理しないと竹やぶ化する竹林の竹の利用 林裕加吏

1 はじめに

わが街、千里ニュータウンは竹林を含む緑地に囲まれている。竹は毎年勢力を拡大し、放っておくと竹藪となり、生物多様性が失われる。

竹林整備に関わり、手入れされた竹林はとても美しい。住宅地のすぐ近くにある貴重な緑地空間は人々にとって心身、社会的にも有効だ。

多くの人に興味を持ってもらい、住民による整備に繋がり、住民が自然の恩恵を受けることができる空間になればと思う。

2025 年、竹チップで雑草対策実験を開始し、ある程度の効果が確認できた。2026 年は、実験条件を変えてさらに実験を継続した。

2 竹の利用実験について

(1) 公園花壇の柵をプラスチックから竹へ

現在公園の柵にはプラスチックが多用されていますが、それを竹に代替できれば、プラスチックの削減と竹の有効利用につながる。

2025 年 12 月に吹田市公園みどり室の理解を得て、市内青山台のくちなし公園で、プラスチックの柵を竹柵に変えた(図1、図2、図3参照)。

皆さんに分かるように、手製の案内板を設置した。

(2) 竹チップを雑草対策に

2024 年に小規模の散布実験(面積 2 m²)をおこなったところ、効果がみられたので、改めて別の遊園で 3m×10m(厚さ 5cm~8cm)の範囲に竹チップを撒いた。(図4、図5、図6、図7参照)

2026 年 3 月 竹チップは市からの委託により、竹林内で粉碎チップ化する機械でつくられたものを利用した。

公園管理では除草が欠かせないが、除草剤の使用は住民の理解を得にくいので、竹チップで効果があればエコな対策とできる。



図1 くちなし公園のプラスチック柵



図2 プラスチック柵を竹柵に変えた



図3 手製の案内板



図4 間伐された竹



図5 粉碎された竹チップ



図6 さざんか遊園に運ばれた竹チップ



図7 竹チップの散布状況

(3) 不要な竹を配布する

2026年2月 青竹ふみ、竹ぽっくり、鉛筆立てにいかがでしょうかと看板を設置し、いろんなサイズを置いてみた。結果全部158本(個)持ち帰られた。

(図8参照)



図8 竹の配布状況

3 おわりに

実験結果については、次回報告させていただきますが、効果がよければさらに竹利用の拡大を目指したい。

「ごみゼロ」は ごみの分別から 廃棄物の資源化を目指して

若林 肇

1. はじめに

「ごみゼロ」とは、現時点で廃棄（埋立）あるいは焼却処分されているものを資源化して物質の循環利用を目指すことである。これは人類の健全な存続のために、とりわけ大量生産・大量消費に伴う大量の「ごみ」の発生は、温暖化、海洋汚染など環境に深刻な影響を及ぼし、他方、資源枯渇も心配されている。これは、現代人が地球で生きていくことに対して、「行き過ぎた成長」をしてしまったことによる結果であるので、後世に「ツケを残さない」ための喫緊の課題である。

要らなくなった物（素材）を（別用途を含め）再度利用するための基本中の基本は、再度利用の目的に副った分別である。現在行われている廃棄物の分別収集もその原則に添っていると考えられる。しかし、生活に提供されるものは常に変化し、種類も材質も変化していくので、廃棄物の収集もそれに順応して変えていかなければならない。すなわち、使用を終えたもの（物質）を再生・循環させる技術の進歩が、消費者と行政を牽引していくという構図も考えられるので、資源化技術な動向についても注視する必要がある。

テーマ設定初年度にあたり、先ず現状を知るため、各自治体によって行われている家庭用一般廃棄物の分別収集および収集された後の廃棄物の処理・処分の実情を調査して、「ごみゼロ」を目指す視点から議論する。そして、資源化を図っていくために、いま取り組むべき課題を見つけることを目標とする。

2. 調査方法

いくつかの自治体における家庭用一般廃棄物の分別収集について調べた。そして、収集後の廃棄物処理施設での分別、処理工程などについては、主として担当者からの面接による聞き取りを行った。別途、容器製造の関係者から話を伺うことができた。

廃棄物に関する歴史的経過を追うために、文献調査を行った。

3. 調査結果

(1) 北摂地域の自治体を中心に調べた結果、廃棄物収集の手順については少し異なるものの基本的には同じ分別収集が行われている。それは図1¹⁾に示すように、1991年の廃棄物処理法改正で再生利用の推進が打出され、以降、循環型社会を目指す政策が続けられてきた結果と考えられる。図1には記載されていないが、2022年にはプラスチック資源循環促進法が施行され、容器包装だけでなくプラスチック素材全てに使用量の削減と物質循環を図っていく方向が打出された。

(2) 収集された廃棄物が処理施設においてどのように処理・分別等がされているか、国崎クリーンセンターを訪問して担当者から直接説明を受けた。そこは北摂地域（川西市、豊能町、能勢町、猪名川町）の一般廃棄物処理施設である。

手短かにまとめると、分別して収集された容器包装物、紙・布は、不適物・異物を取り除いて、それぞれの出荷態様にまとめられる。

不燃粗ごみ、剪定枝、大型ごみは、不適物（非金属不燃物？）を除いた後、破碎して可燃物と金属、さらに金属は磁選と風力選で鉄とアルミニウムに分けられている。可燃物を含むものは「燃やすごみ」とともに焼却炉へ、そして焼却灰は鉄分と熔融不適物を分別除去した後、熔融炉で処理されメタルとスラグに分別される。この処理施設の半分以上の面積を占めている焼却施設で行われているのは、廃棄物の減容と金属の資源化、それに副次的に火力発電と考えられる。

(3) 廃棄物行政に地域の特徴があるのではと思い、旅先の短時間、徳島県神山町役場に立ち寄り廃棄物の収集状況について聞き取り調査した。その町は人口5000人足らずの山村である。

収集時の分別は、北摂地域と基本的に変わらないが、排出のガイドブックには資源化を意識した表現で収集後の処理と行方が記されていた。説明の中で、2003年にゼロ・ウェイスト宣言をした隣接 上勝町の話がしばしば出ていたので、良い意味での刺激下で、「ごみゼロ」意図が感じられた。

もう一点、2016年までは生ごみは収集せず、自己

処理だったのが、都会からの移住者が増えたため集めるようになった。このことは、廃棄物の取り組みに、その地域の歴史・文化の側面からも考える必要を思い知らされた。

(4) 自治体では回収しない家電と太陽光発電パネルのリサイクル事業所を見学したので、資源化に関係した項目についてのみ記す。

① この工場では家電リサイクル法に基づき、エアコン、冷蔵庫、洗濯機の解体・分別を行っている。分解工程では組み立て逆の流れで、ほとんど手作業で行われ、その段階で分別されている。古い製品では同様箇所の部品でもメーカーによって材質は異なっているようだが、近年、各社共通のプラスチックを使うようになってきたとの説明に、物質循環への取り組みに対する業界間の努力が感じられた。

複合材質からなる部分は、破碎機を通した後、数種の選別機にかけて各種金属に分別されている。(金属回収目的) フロン系冷媒の回収には漏れないよ

うに24時間監視体制で行われている。説明の中で、ウレタンの資源化が問題との説明があった。

② 太陽光パネル解体・分別の工場では、アルミ枠と端子カバーを取り除いた後、ガラスと一体化しているパネルをガラスとその他バックシートに分ける処理を行っている。板ガラスとの分離方法はガラスの破碎による。バックシートに含まれる銀は回収されて循環されるが、重量比60%にもなるガラスは、この工場では、ガラスはさらに微粉碎され、高温で発泡ガラスに加工、水質浄化剤等の二次製品化を試みている。

太陽光パネル廃棄は始まったばかりで、環境省・経済産業省の資料²⁾によると、現在は3,000トン程度であるが、2030年には約3万トン、2040年には約80万トンと推計されている。メガソーラーは何かと社会問題になっているが、まだ排出事例ない。ガラス板のリサイクル可能なバックシート剥離技術開発も進められている途中である。³⁾

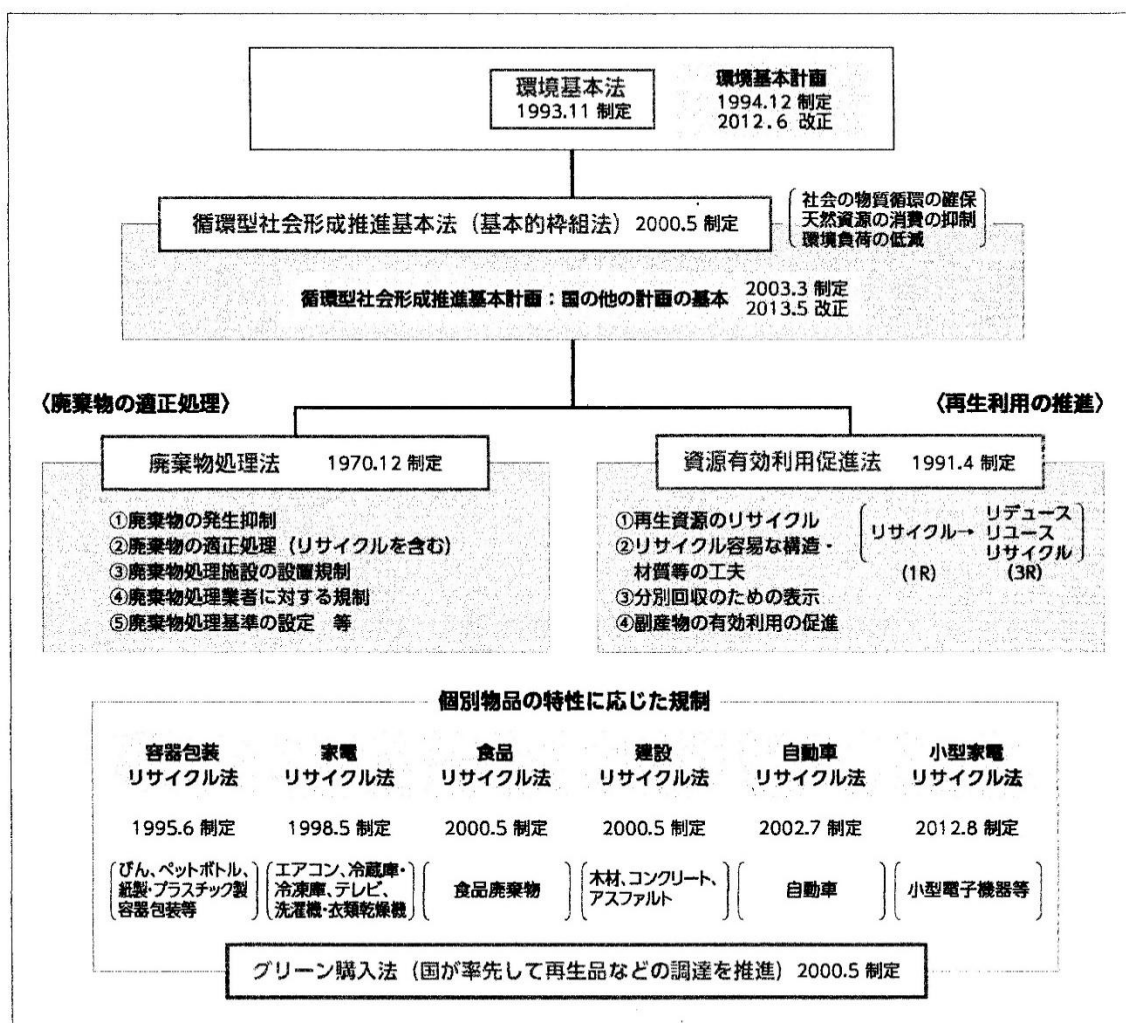


図1. 循環型社会を形成するための法体系¹⁾

③ 家電リサイクル法に基づく再商品化率（廃家電から再商品化した割合）は、それぞれの品目で77から96%と驚くべき値となっている。⁴⁾

一方、太陽光パネル処理には特化した法律はまだ検討中で、現在の適用法律は産業廃棄物である。余剰電力買取制度により設置面積は激増している。廃棄物の適正な処理技術も資源循環を促す法律もない状況下で再生可能エネルギーの筆頭に挙げられている。これは原子力発電（原発）状況と相似している。

1970年頃、まだ石炭火力発電が主で、大気汚染原因の一つと言われていた。そこで“クリーンな電気”との電力会社の宣伝で原発が始まった。しかし、使用済み核燃料をどうするかも決まっておらず、また核燃料をリサイクルするときに出る放射性廃液を固化する方法も決まっていなかった。当時の住宅事情からマンションが花形だった時代であったので、それになぞらえて原発を「トイレなきマンション」と識者の間で言われていた。

その後、原発から出た放射性廃棄物（廃液）はガラスに固化して（処理）、最後に地中深くに廃棄される（処分）ことになっている。しかし、発電開始から半世紀以上も経った現在も、高レベル放射性廃液はフランスに運んでガラス状に固化してもらうこと（返還固化体）によってしのぎ、何処に埋めるかは調査地を求めている段階であり、「トイレなきマンション」の状態が、未だに続いている。

政府主導の事業が、廃棄物対策を非常に低い認識下においた事例として、同じ発電であるメガソーラーが社会問題になっている中で、“臭い物に蓋をする”ご都合主義が感じられ、経済効果だけで突っ走る高度成長期の姿を見る思いがした。

4. 調査結果のまとめ

(1) 日本における廃棄物処理の変遷

今回の調査結果を議論するとき、その背景にある廃棄物処理の日本における変遷（歴史）について理解しておく必要を感じたので簡単に記す。¹⁾

戦前、家庭用ごみは、焼却、堆肥化などで自己処理する場合と、民間業者によって収集されて、そこで有価物（資源ごみ）は分別・再利用されていた。その残差はどのように処理されていたのか？当時、未利用地にはごみ捨て場があったのを記憶している。そして、ごみ捨ては衛生上のことが問題となってい

た。戦後しばらくそのような状況が支配的であった。

1960年頃から高度経済成長期の始まりとなり、例えば水俣病、大気汚染のような産業廃棄物による公害が各地で社会問題化してきた。プラスチック製品が普及し始めたのもこの頃である。

さらにその後の、大量生産、大量消費、その果ての大量廃棄物の発生は、ごみを棄てるための埋め立て地の寿命が心配されるようになった。そこで自治体は廃棄物の減容のために焼却炉を中心としたごみ処理施設を設けたが、排煙中のダイオキシンなど有害ガスの放出の問題が起これ、処理施設も高度化し、処理費用も高額になっていった。一方、減容を目的とした焼却がCO₂ガスの発生を伴い、温暖化を助長することになるので、（大量生産）・大量消費を抑制する3Rが運動として現在に至っている。ただ経済中心の体制下にあつて、大量生産の抑制策を表に出せない（或いは、望まない）行政（政治家）のもと、打出されてきたのが“ごみの資源化”と推察できる。つまり、資源化は、“もの”に対して昔に帰り、「もったいない」精神と現代人の知恵とで有効に利用循環を図ることを意味する。

(2) 科学的な提言と国際的な動向

前項で述べたのは日本における変遷であるが、物質的豊かさ欲求することは人間共通であるので、同時期に各国とも同様な大量生産・大量消費の状況をたどっていると考えられる。

日本の高度経済成長の始まりと同時期、世界的には天然資源、環境、人口増などの深刻な問題となりつつあった。その時期、1972年、ローマクラブから「成長の限界」⁵⁾というレポート出され、世界的なベストセラーになり、大変衝撃的な反応を与えた。

レポートは人口と経済の伸びが、食料と有限な資源の供給能力、そして人間の活動によって排出される廃棄物の地球による吸収能力について、いくつかの要素に分けて統計的なデータを関数化し、持続的可能な社会が描けるのかどうかシミュレーションした結果を記している。

このまま手を打たずに成長に任せるシナリオは、100年以内に（21世紀後半）に物理的な成長が終わり、衰退する時期が来る結果となった。知恵と努力で物質的な豊かさを求める（経済）成長は無限と信じていた当時の人に衝撃を与えたのは当然と思われる。

その発表は世界的な影響を与え、国連「気候変動枠組み条約」など国際的な数々の取り決めがなされてきている。そして、環境のみならず社会・経済など人間と自然を含む「持続可能な開発目標」(SDGs)へ繋がっている。

20 年後に出された 2 巻目「成長の限界 限界を超えて」⁶⁾、32 年後の 3 巻目「成長の限界 人類の選択」⁷⁾では、最初の指摘の限界をすでに超えていることを示している。わかり易くするため地球の供給能力と吸収能力の限界に対して、人間が地球にかけている負荷を指標化した「エコロジカル・フットプリント」によれば、現在、人間の活動は地球の扶養能力の約 2 倍となっているとのことである。「成長の限界」発表から 50 年が過ぎた現在、その負荷は「地球温暖化」に総称される環境、資源の問題となって既に現れている。^{8), 9)}そして、地球人に対する提言に逆行(反発?)する「〇〇ファースト」的な動きも出始め、世界で現在起こっている貧困・飢餓・外国人差別・貿易摩擦・戦争などの人間間の問題にも、「成長の限界」を超えてしまったことによる現れとの一つの見方ができるかもしれない。

(3) プラスチック廃棄物の資源化に向けて

私たちが毎日出している「ごみ」について、生活していく上での地球の供給と吸収との能力を考えると「ごみ」を減らし、更に、「ゼロ」にしていかなければならないのは自明の理である。それができなければ、様々の要因で人口が減らざるを得ない結果になりかねない。以上のようなことをバックグラウンドに、消費者が出す家庭用ごみの分別について再考する。

自治体による家庭用廃棄物の収集方法は異なるが、容器包装リサイクル法に基づくもの、紙・布、燃やすごみ、不燃ごみ、大型ごみ、その他(危険物等)分別されている。2. (2) の項目の調査結果を例に述べると、可燃、不燃、大型のごみからの資源化されるのは金属のみである。(熱源や埋立用はリサイクルではない) また、紙・布の資源化は戦前から再生・再利用の歴史的なシステムに基づいているからであろうか。食品ロスに対しては事業者にのみ飼料化、堆肥化への責務があるが、一般消費者へは啓発のみである。生ごみ、剪定枝等についての堆肥化などを目指した分別は、一部自治体では行われているが、広域的に取り組まれるべき行政的課題と考えられる。

「成長の限界」が示す危機的状況も念頭に置いて考えると、最大のごみ問題は、プラスチック製品を初め、化石燃料から合成されるものに絞られる。

家庭用一般廃棄物に限ると、2022 年からプラスチックの資源循環促進が定められ、分別回収する自治体も増えてきている。しかし、軽量、安価で大変優れた素材である反面、プラスチックは人工合成物であるので地球の吸収能力に頼ることは期待できない。加えて、使われている素材(化合物)の種類が多く、それらが混在して廃棄物となると、収集および収集後の処理を難しくする。マテリアル(物質)循環の方法を大変難しくしているのが現状ではなかろうか。つまり、3R がどうなっているか? 3R をスムーズするには? 例えば、[リデュース]: 量だけでなく、先ず素材(種類)の数を減らす。[リユース]: 柔らかく、油等との親和性のある性質に対し、表面傷や汚れが問題にならない製品選択。[リサイクル]: 素材のリサイクル(水平サイクル)が可能かどうか。そして、ナフサのような元原料にまで戻す(油化と呼ばれている)技術の確立など、道筋はいくつかあるあると考えられる、いずれにしても素材別の分別ができるかどうかによって、技術確立を容易にするかどうかに関係してくる。

以上の課題についてネット検索すると数多くの報告がみられ、かなり以前から研究、開発、調査が行われていることが分かる。^{10), 11), 12), 13)}

これまで、プラスチック廃棄物は焼却を基本として扱われてきたものを、物質の利用循環を促す新たな技術開発が製造者側に求められるのは当然であるが、使い易いものを安価に提供を受け続けるために、消費者は使い終わったものを循環し易いかたちで返す責任をもつ。行政は、「つくる責任」と「つかう責任」、その循環がスムーズに進むよう「廻す責任」を担う。(SDGs 12 番目のゴール) 将に、プラスチック廃棄物については、減量と呼びかけるだけではなく、一歩先を見つめた収集と分別の計画と啓発に乗り出すべき時期に既にきている。

参考資料

- 1) 「日本の廃棄物処理の歴史と現状」, 環境省 大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 企画課循環型社会推進室 (2014) .
- 2) 太陽光パネルの処分についての調査結果等の文献.
・「太陽光発電設備のリサイクル等の推進に向けたガイドライン (第3版)」, 環境省 (2024).
・「太陽光発電設備の廃棄・リサイクルをめぐる状況及び論点について」, 経済産業省, 環境省 (2024).
- 3) 「太陽光モジュールのリサイクル動向調査 (2024年度)」, NEDO (2025).
- 4) 家電リサイクル年次報告書, 家電製品協会 (2025).
- 5) D. M. Meadows, etc., "The limits to growth", New York Universe Books (1972). [邦訳「成長の限界」大来佐武郎訳, ダイヤモンド社 (1972).]
- 6) 「成長の限界 限界を超えて」茅陽一訳, ダイヤモンド社 (1992) .
- 7) 「成長の限界 人類の選択」枝廣淳子訳, ダイヤモンド社 (2005) .
- 8) 「「成長の限界」発刊から 50 年を振り返る」, change-agent.jp (2022) .
- 9) 「成長の限界」posy.co.jp.
- 10) 三方信行 他, 「廃プラスチック熱分解特性の研究」新日鉄技法 第360号 (1996) .
- 11) 都市環境サービス, 「プラスチック油化の課題と将来性」eco-toshikan.com, (2026).
- 12) 矢野純也 他, 「家庭系プラスチック廃棄物の素材と分別状況に関する調査研究」第31回廃棄物資源循環学会研究発表会 (2020) .
- 13) 「廃プラスチック類関連情報等 分別のヒント」日本建設業連合会, nikken.com/kankyou/recycle/waste .

身近な環境を調べようプロジェクトチーム

―吹田市のため池の環境調査（第3報）

- 1 はじめに
- 2 2025 年度のため池調査
 - （1）調査対象及び方法
 - （2）調査結果
- 3 2023～2025 年度の全ため池調査の総括
- 4 啓発活動
- 5 考察

別紙―1 3 年間の調査した全ため池の一覧

別紙―2 ため池の位置図

別紙―3 3 年間の調査した全ため池と調査結果の概要

身近な環境を調べようプロジェクトチーム

大垣 秀樹 太田 徹 岡本 陸奥夫※

片山 桂子 勝沼 直也 小林真弥美

渋谷 京子 西山 千晶 二平 耕太郎 林 裕加吏

（※印は執筆者を示す）

吹田市のため池の環境調査（第3報）

1. はじめに

一般に「環境」とは、優れた自然環境を指すものとして認識されがちである。しかしながら、身近な環境には、水質や大気、音環境、嗅覚的環境といった生活環境に加え、都市内の樹林地や都市公園、里地・里山など、居住地周辺に存在する自然環境が含まれる。さらに、これらの自然環境と人間との長期的な相互作用により形成されてきた文化的環境も重要な構成要素である。

内閣府による「身近な環境（水辺、緑地、大気など）についての調査」¹⁾によれば、身近な環境に対する満足要因として「気持ちよく暮らすことができる」が最も高い割合（74.3%）を占める。その具体的要因としては、「青空や星空をみたとき」（65.6%）、「季節に応じた自然の香り」（62.4%）、「豊かな緑地」（59.2%）などの順となっている。

一方、身近に増加を望む環境としては「自宅の近く」（67.5%）が最も多く、その理由として「癒やしや安らぎを感じるから」（74.3%）および「心身の健康への寄与」（64.0%）が最も高かった。

しかしながら、居住地選択においては「環境の豊かさよりも生活の便利さを重視する」（67.2%）との回答が、「生活の便利さよりも環境の豊かさを重視する」（30.7%）を上回っている。

また、身近な環境はどのような場だと思ふかについては「休息・やすらぎの場」が最も高い割合（83.5%）を示している。

これらの結果から、個人の意思決定においては利便性が優先される一方で、心理的・情緒的側面においては自然環境の重要性が強く認識されていることが示唆される。

過去半世紀において、人間活動は利便性の向上を目的として自然環境の改変を進めてきた。しかし、そのような環境においても、河川、ため池、公園等には昆虫類、鳥類、植物等の生物群集が存続している。これらは日常生活の中で何気なく見過ごしてしまいがちだが、人間に対して心理的安定や快適性をもたらす要因として大切な存在である。

さらに、これらの環境は現世代のみならず将来世代にとっても重要な環境資源であり、その持続的利用を可能とするためには適切な保全および管理が不可欠である。

本調査活動の目的は、身近な環境に関する基礎的情報を収集・整理し、今まで気づけなかった吹田市の素晴らしい環境資源を抽出することである。

また、得られた知見を通じて、これらに親しみを持つことが、市民の環境認識を深化させ、保全意識の醸成につながるものと考ええる。

身近な環境を調べようプロジェクトチームでは、このような私たちの身近にある環境を2020年度より調査している。

最初に取り組んだのは、市内の南部を流れる糸田川で、水質や植物、生き物について2020～2022年度の3年間にわたって調査した。

これに引き続き2023年度からはため池の調査を行ってきたが、ため池の調査も2025年が最終年度となる。

これまでの調査結果については、毎年研究報告書で報告したところであるが、本報では、2025年度に行ったため池の環境調査について報告するとともに、2023年度から行ってきた全ため池の調査の総括についても併せて報告する。

2. 2025年度のため池調査

(1) 調査対象および方法

2025年度においては、調査開始時に選定した対象のうち未調査であった34箇所のため池を対象とした。調査はプロジェクトメンバーで分担して実施した。また、万博公園内については、比較的大規模な池10箇所を選定し調査対象とした。

調査したため池は、表—1のとおりである。

調査方法は前年度と同様とし、各ため池につき1回の現地調査を実施した。評価には表—2の「池の観察チェックシート」を用い、水質、生物相、周辺環境等の10項目について3段階評価を行い、その合計点により相対評価を行った。

(2) 調査結果

表—1 2025 年度調査ため池

No	ため池名	所在地
1	遊水池	山田丘 2
2	犬飼池	美穂が丘
3	八丁池	茨木市小坪井
4	藤白池	藤白台 3
5	上池	古江台 2
6	津志長池	山田西 1
7	新芦屋上の池	新芦屋上
8	新芦屋上 8 の池	新芦屋上 8
9	五月丘北の池	五月丘北
10	五月丘東の池	五月丘東 12
11	佐井寺 3 の池	佐井寺 3
12	新池	佐井寺 3
13	小田池(1)	佐井寺 2
14	佐井寺 2 の池	佐井寺 2
15	長池	千里山高塚
16	小田池(2)	千里山高塚
17	新池	岸部中 5
18	千里山東 4 の池	千里山東 4
19	吉田池他 3	上山手町 3
20	バクダン池	原町 2
21	鎌池	江坂町 4
22	前田池	江坂町 3
23	リーニュ・ブランシュの庭の池	芳野町 13
24	長谷池	豊中市新千里東町 2
25	心字池	万博公園
26	はず池	万博公園
27	夢の池	万博公園
28	大地の池	万博公園
29	水すましの池	万博公園
30	水鳥の池	万博公園
31	どんぐり池	万博公園
32	もみの池	万博公園
33	ピオトープの池	万博公園
34	日だまりの池	万博公園

調査の結果、竹林内および私有地に位置することにより、確認不能であったため池(吉田池、バクダン池)、ならびに湿地化(佐井寺 2 の池)していた地点が計 3 か所確認された。

チェックシートの項目ごとの概要は次のとおりである。(万博公園内の池を除く。)

①水の濁り

水質については、緑色または褐色に濁った状態のものが多数を占めたが、犬飼池とリーニュ・ブランシュの庭の池では透明感があった。



(リーニュ・ブランシュの庭の池)

②水とのふれあい

多くのため池は安全対策としてフェンスにより囲われており、水辺への接近性は低い傾向にあったが、

農地内の素掘りのため池(長池)や擬木で囲われたため池(犬飼池)の他、ほぼ自然状態に近いため池(犬飼池横の遊水池)もあった。

表—2 池の観察チェックシート

池の観察 チェックシート			池の名前		
調査日	天気	調査時間	所在地		
年 月 日		:	目印となる建物		
調査項目	10点	5点	0点	点数	備考
水の汚れ	きれい	少し濁っている	濁っている。アオコが発生している		(水の色)
水とのふれあい	近づける	近づけるが、フェンスで囲われている	近づきたくない、又は近づけない		
臭い	心地よい香り、または異臭を感じない	特に気にならない臭いである	不快な臭いを感じる		
魚	多くいる	少しいる	見かけない		(種類)
音	静かである	少し音がする	うるさい		
鳥	多くいる	少しいる	見かけない		(種類)
昆虫(チョウやトンボなど)	多くいる	少しいる	見かけない		(種類)
ゴミ	ほとんどない	少しある	たくさんある		(種類)
周辺の植物	いろいろな草や木がたくさん生えている	それほど多くはない	あまり生えていない		(植物の種類)
岸辺の状態	自然、又は石積みなどで風情がある	あまり風情は感じられないが悪くもない	人工的で殺風景な感じである		
周辺の様子	公園、住宅、道路など			合計	
用途				主な流出・入河川	
感想					



(フェンスで囲われた千里山東4の池)



(犬飼池の横の遊水池)

③臭い

茨木市の飛び地となる八丁池で、わずかにどぶ臭を感じたが、他はほぼ良好だった。



(八丁池(茨木市の飛び地))

④魚

魚類については目視による確認が困難な場合が多かったが、サギ類の出現が確認されたため池(鎌池、犬飼池、遊水池)においては魚類の生息が推察された。



(遊水池)

⑤音

約半数のため池で隣接する道路の自動車騒音が聞こえ、特に八丁池は、吹田インターチェンジの近くに位置するためうるさかった。

⑥鳥

今回の調査では小さなため池が多く、鳥類については、確認頻度が全体的に低かったものの、上池でオオ



バンの親子が、犬飼池でアオサギが、鎌池でシラサギが見られ、網で囲われた小さなため池である五月丘北の池でもカルガモが見られた。

また、リーニュ・ブランシュの庭の池ではマガモが見られた。

(五月丘北の池のカルガモ)

⑦昆虫

5月～6月に行った調査が多かったが、昆虫はあまり見られず、犬飼池でアカトンボやチョウなどが見られた程度であった。

⑧ごみ

ごみは、千里山東4の池や前田池、ピアノ池、五月丘北4の池、五月丘東の池、新池などでペットボトルやカンが見られたが、全体としては比較的良好な環境が維持されていた。

⑨植物

多くのため池が洪水調整池としてコンクリートで造られていたので、樹木は少なかったが、ピアノ池や上池、鎌池、前田池など公園内などにあるため池では比較的多かった。



(緑に囲われた鎌池)

⑩岸辺の状態

周辺に樹木の多かったピアノ池や鎌池、犬飼池など以外は、コンクリート造のため、人工的で殺風景な感じだった。



(コンクリート造の新蘆屋上17の池)

⑪万博公園内の池

万博公園内には多くの池があるが、今回は中でも比較的大きく目に付きやすい池、10カ所（内、日本庭園内の池（2カ所））を調査した。

万博公園は、1970年の万国博覧会の跡地を、都市の緑の拠点として位置づけ、森と湖の文化公園とするために造られたもので、照葉樹林、クヌギ・コナラなどの二次林、芝生に樹木が点在するという林の3つの森で構成されている。

公園内には、ボート遊びができたり、上部にアスレチックが造られた池や、コンクリートブロックで囲われた池もあるが、庭園風の池や休息ができる池、野鳥観察ができる池、ビオトープの池、ハスの花が見られる池などさまざまである。池には大きなコイやアカミミガメが見られ、カルガモやカイツブリなどの水鳥が見られた。

公園の中央の開けた場所にある池以外は、周囲が多様な生態環境が維持されており、多くの野鳥が見られた。公園の資料によると約70種類の野鳥が確認されている。



(庭園風の池、心字池)

3. 2023～2025年度の全ため池調査の総括

3年間に調査したため池は、2023年度の6カ所（4季調査）、2024年度の33カ所と2025年度の34カ所の合計で73カ所となるが、ダブルで調査したものが4カ所あるのでこれを差し引くと69カ所となる。

3年間に調査した全ため池の一覧を別紙―1に示す。

これらの内、すでに造成されたり、調査時に造成中のため池が6カ所、林又は竹藪の中で確認出来なかったため池が4カ所、個人の所有地内で確認できなかったため池が1カ所、湿地だったものが1カ所で合計12カ所あった。なお、下の池は、場所が不明のため調査していない。

従って3年間で確認できたため池は、57カ所（吹田市内は55カ所）となる。

これらの調査したため池の位置図（小規模なものを除く）を、別紙―2の地図（国土地理院の標準地図使用）上に示す。また、2023～2025年の3年間に調査した全ため池と調査結果の概要を別紙―3に示す。

- (1) 公園内にある樹木は、いずれもよく管理されており、2023年度に調査した6つの池では、30から60種類確認できた。しかし、ため池の中に生える、魚や水鳥の隠れ家等となる抽水植物はヒメガマが水遠池、牛ヶ首池、釈迦ヶ池で見られた程度で、ヨシは少なくほとんどの池で見られなかった。
- (2) 王子池では、魚類などが生息しやすいような自然共生型の護岸整備が行われ、ヤナギやハンノキ、ヨシ、アゼスゲなどが植えられていた。また、榎坂大池には、埋め立てによって縮小したため池について、「ため池を自然資源としてとらえ直し、既存の公園と一体的に整備することによって、市民に水辺空間として憩いの場を提供することとなった。」との趣旨の表示板が掲げられていた。このようなことで、少しでも多くのため池が保全されることが望ましい。
- (3) 魚の隠れ家や水鳥の餌となる水草は、春日大池で若干オオカナダモが見られた程度で、ヒシが水遠池、牛ヶ首池、春日大池で水面を埋め尽くすように繁殖し、沈水植物の成長を阻害していた。

春日大池で、カルガモがアオミドロを食べる姿が見られたが、植物性の餌を食べる水鳥にとっては定着しにくい環境と思われる。



(アオミドロを食べるカルガモ)

- (4) 多くのため池においてアカミミガメの繁殖が確認され、これらが水草を食べてしまうことも考えられる。



(甲羅干しをするアカミミガメ)

さらには、水草が生えないように、ソウギョを放流しているため池も見られるが、これらが他のため池に広がらないよう注意する必要がある。

高町池では、釣り人がソウギョを放流したため、これをブラックバスなどとともに駆除するために「かいぼり」を行ったという事例もあり、このような対策も必要と思われる。

- (5) 魚は、幸い多くのため池で確認でき、動物性の餌を捕食する水鳥には望ましいが、アカミミガメはまた、底生生物も摂食することが知られており²⁾、その増加は水生生物の生態系に影響を及ぼす可能性がある。
- (6) 水質の面からは、14 のため池で市が水質調査を行っている³⁾ が、春日大池や龍ヶ池など4カ所で市が定める環境目標値をクリアしていた。ただそれ以外のため池は、水質の改善が見られるものの環境目標

値を超えており、魚類の生息に適した水質条件を満たしていない可能性が示唆される。

調査中に菩提池で魚の死骸が見られたことがあったが、他では見られなかったので頻繁に起きていないことは幸いである。

- (7) 魚のえさとなるプランクトンは、2023 年度に行った6つの池でいずれも確認され、特に牛ヶ首池と釈迦ヶ池で多く見られた。

しかし、富栄養化したため池で見られるアオコが王子池や釈迦ヶ池などで見られ、いずれのため池もこのような状況にあるものと思われる。



(王子池のアオコ)

- (8) トンボなどの水生昆虫は、本調査でも多くの池で確認されたが、「すいたの自然 2021」⁴⁾によると、水遠池や砂子谷新池では22種、菩提池では13種、王子池で8種が確認されており、おそらく池から池へと渡り歩いていることが予想される。こうした水生昆虫の生態系を保全する意味からも、吹田市内各所にため池が点在することが望ましい。

- (9) ここで「池の観察チェックシート」により調査した各ため池の合計点を、仮に80点以上を「1. 自然の豊かで快適な環境」、79~51点を「2. 不快感を感じない程度の環境」、50点以下を「3. 快適性に欠ける環境」の3つに分類し、どの程度の環境レベルにあるかを比較してみた。

本評価手法は簡易的な現地観察に基づく相対評価であり、観測者間の主観差の影響を受ける可能性がある。そのため、評価基準については事前にプロジェクトのメンバー間で共有し、可能な限り判断の統一を図った。

① 万博公園以外のため池

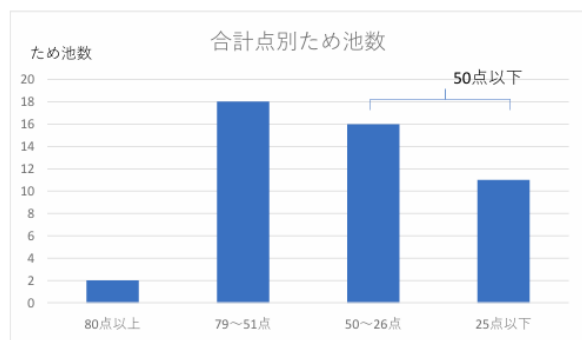
万博公園以外のため池では、1. が2カ所、2. が18カ所、3. が27カ所となった。（複数回調査のため池は最大の値とした。）

万博公園以外のため池の合計点別のため池数のグラフを図一1に示す。なお、グラフでは50点以下をさらに50～26点、25点以下の二つに分けたが、25点以下の殺風景なため池が多いことが分かる。

ア. 80点以上のため池は、春日大池（10月）と千里緑地内の遊水池のみだったが、これらのため池は、周辺に樹木が多く、特に緑地内の遊水池は、自然なままといった感じで、多くの魚が生息し、ヨシガモなどの渡り鳥も見られた。ここはヒメボタルの生息地としても知られている。また、春日大池では多くの水鳥が見られ、魚やカメ、トンボやチョウも多く見られた。

イ. 79点～51点のため池は、公園内にある水遠池や牛ヶ首池、菩提池、釈迦ヶ池、高町池、上池、王子池など多くある。これらのため池では、魚類や水鳥も見られた。しかし、コンクリートやコンクリートブロックで囲われ、安全対策のためフェンスで囲われたものがほとんどで水も濁っていたのが残念である。

ウ. 50点以下のため池が一番多かったが、吹田市内のため池の多くが洪水調整や農業用ため池のため、コンクリート造りで、フェンスで囲われた近づきにくい構造のものとなっており、公園に隣接して設置されたものも（引き谷池、垂水上池）あった。



図一1 合計点別ため池数

② 万博公園のため池

万博公園内のため池の「池の観察チェックシート」による調査結果では、80点以上が2カ所、79点～51点 が8カ所で50点以下はなくやはり良好な環境だった。

4. 啓発活動

今回調査したため池の環境について周知するため、他プロジェクトの市民研究員によるため池調査の実施や「くるくる環境スクール」での池の観察会、くるくるプラザが実施するイベントでのプランクトン観察会、インスタグラムでの発信、動画の作成、吹田市が主催する事業でのポスターセッションやポスター掲示を行った。今後パンフレットの作成や環境情報システムでの発信などを行い啓発に努めたいと考えている。



（くるくるキッズ環境スクール 池の観察会）

5. 考察

(1) 今回の調査により、吹田市内には依然として多数のため池が存在することが明らかとなった。一方で、その多くは洪水調整機能を主目的としたコンクリート構造であり、生態系の観点からは必ずしも良好な環境とは言い難い。

(2) さらに、今回の調査で、すでに埋め立てられたものや、埋め立て工事中のため池も多く見られ、調査中にも区画整理事業により将来消失する計画のため池も確認された。

(3) 大阪府のデータベース⁵⁾によると、大阪府のため池総数は3,529カ所とあるが、吹田市は府内でも少ない方に位置する。

農業用水を確保するために造られたため池は、その役目を終え多くが埋め立てられた。

農業用のため池の管理及び保全に関する法律（令和元年法律第 17 号）により大阪府が指定した吹田市内の「特定農業用ため池」⁵⁾は、23 カ所あるが、年々減少している。

これらは災害時の緊急点検の対象となるものとして登録されているものであるが、洪水調整池としても重要だと思われる。

- (4) 最初にも触れたように、身近にこのような自然が残されていることは、市民に憩いや安らぎをもたらすうえで貴重な存在である。このような観点からもこれらを保全し今後も継続して残されることが望まれる。
- (5) 当プロジェクトでは、2025 年度から緑環境などについて継続して調査する予定である。
- (6) これらの身近な環境調査により、今まで気づかなかった吹田市の素晴らしい環境を発見するとともに、これらの情報を発信することで、多くの方々が親しみをもち、どのように保全していくかについて考えるきっかけになればと考えている。

- (7) 今回試みた「池の観察チェックシート」を用いた調査は、専門的機器を用いない簡易調査手法により都市内水域の環境評価を試みた点に特徴があり、市民参加型環境モニタリングの基礎資料として活用できるのではと考える。

なお、今回の調査は各地点 1 回の観察に基づくものであり、季節変動などを十分に反映していない可能性がある。そのため、この結果は調査時点における状況を示すものであり、長期的傾向の評価には継続的調査が必要である。

参考文献

- 1) 「身近な環境（水辺、緑地、大気など）についての調査」内閣府 2025 年 10 月
- 2) 大谷健太朗「上池におけるミシシippアカミミガメの食性調査から見えてくること」共生のひろば 12 号 (2017)

3) 「吹田市環境白書 2025」吹田市環境政策室 2026 年 1 月

4) 「すいたの自然 2021」吹田市環境政策室 2022 年 3 月

5) 「特定農業ため池の指定やため池データベース等の公表について」大阪府環境農林水産部農政室 2026 年 3 月



ため池の動画



インスタグラム



フェイスブック



別紙—1 3年間に調査した全ため池の一覧

No.	ため池名	所在地	調査年度	備考
1	蓮間池	藤白台 5	R5	
2	水遠池	藤白台 5	R5	
3	遊水池（大阪大学）	山田丘 2	R6 R7	
4	犬飼池（大阪大学）	美穂が丘	R6 R7	
5	ピアノ池（藤白池）	藤白台 3	R6 R7	
6	上池	古江台 2	R6 R7	
7	八丁池	茨木市の飛び地	R7	
8	青葉ヶ丘南 11 の池(1)	青葉ヶ丘南 11	R6	造成中
9	青葉ヶ丘南 11 の池(2)	青葉ヶ丘南 11	R6	造成中
10	青葉ヶ丘南 8 の池	青葉ヶ丘南 8	R6	
11	三保が池	青葉ヶ丘南と新芦屋下の間	R6	
12	*王子池	山田西 4	R6	
13	高町池	山田西 3	R6	
14	遊水池（千里緑地）	山田西 3	R6	
	下の池	山田西 3	未調査	
15	海老が池	山田西 2	R6	
16	津志長池	山田西 1	R7	
17	*引谷池	山田東 4	R6	
18	津雲公園の池	津雲台 3	R6	
19	牛ヶ首池	津雲台 1	R5	
20	星が池	千里丘北	R6	
21	新芦屋上の池	新芦屋上	R7	
22	新芦屋上 8 の池	新芦屋上	R7	
23	高野公園の池	高野台 1	R6	造成済
24	春日大池	桃山台 2	R5	
25	五月が丘北の池	五月が丘北	R7	
26	五月が丘東の池	五月が丘東	R7	
27	菩提池	佐竹台 3	R5	
28	千里山西 6 の池（山田池）	千里山西 6	R6	造成中
29	辻本池(2)	千里山西 6	R6	造成中
30	*シゲ池	千里山竹園 1	R6	
31	*後谷新池	千里山竹園 1	R6	
32	*高坂元池	千里山竹園 1	R6	林の中

33	辻本池(1)	佐井寺 4	R6	造成中
34	* 太平池	佐井寺 4	R6	
35	佐井寺 3 の池	佐井寺 3	R7	
36	* 新池	佐井寺 3	R7	
37	* 小田池(1)	佐井寺 2	R7	
38	佐井寺 2 の池	佐井寺 2	R7	湿地
39	砂子谷新池	春日 4	R6	
40	小川池	春日 2	R6	竹藪の中
41	* 山口池	春日 2	R6	竹藪の中
42	* 長池	千里山高塚	R7	
43	* 小田池(2)	千里山高塚	R7	
44	* 釈迦ヶ池	岸部北 4	R5	
45	小路新池	岸部北 4	R6	
46	* 新池	岸部中 5	R7	
47	千里山東 4 の池	千里山東 4	R7	
48	* 吉田池(1) (2) (3)	上山手町	R7	個人所有
49	龍ヶ池	原町 3	R6	
50	* 濁池	原町 2	R6	
51	* バクダン池	原町 2	R7	林の中
52	* 新からま池 (今池)	原町 2	R6	
53	* 宮ヶ谷池	原町 2	R6	
54	* 鎌池	江坂町 4	R7	
55	前田池	江坂町 3	R7	
56	江坂大池	江坂町 3	R6	
57	* 垂水上池	円山町	R6	
58	リーニュ・ブランシュの庭 の池	芳野町	R7	
59	長谷池	豊中市新千里東町 2	R7	
万博公園の池				
60	心字池		R7	日本庭園
61	はす池		R7	日本庭園
62	夢の池		R7	自然文化園
63	大地の池		R7	自然文化園
64	水すましの池		R7	自然文化園
65	水鳥の池		R7	自然文化園
66	どんぐりの池		R7	自然文化園

67	もみの池		R7	自然文化園
68	ビオトープの池		R7	自然文化園
69	日だまりの池		R7	自然文化園

調査数：69

- (内)
- ・ 造成済又は造成中：6
 - ・ 林又は竹林の中で確認できず：4
 - ・ 個人所有地で確認できず：1（3 か所）
 - ・ 湿地：1

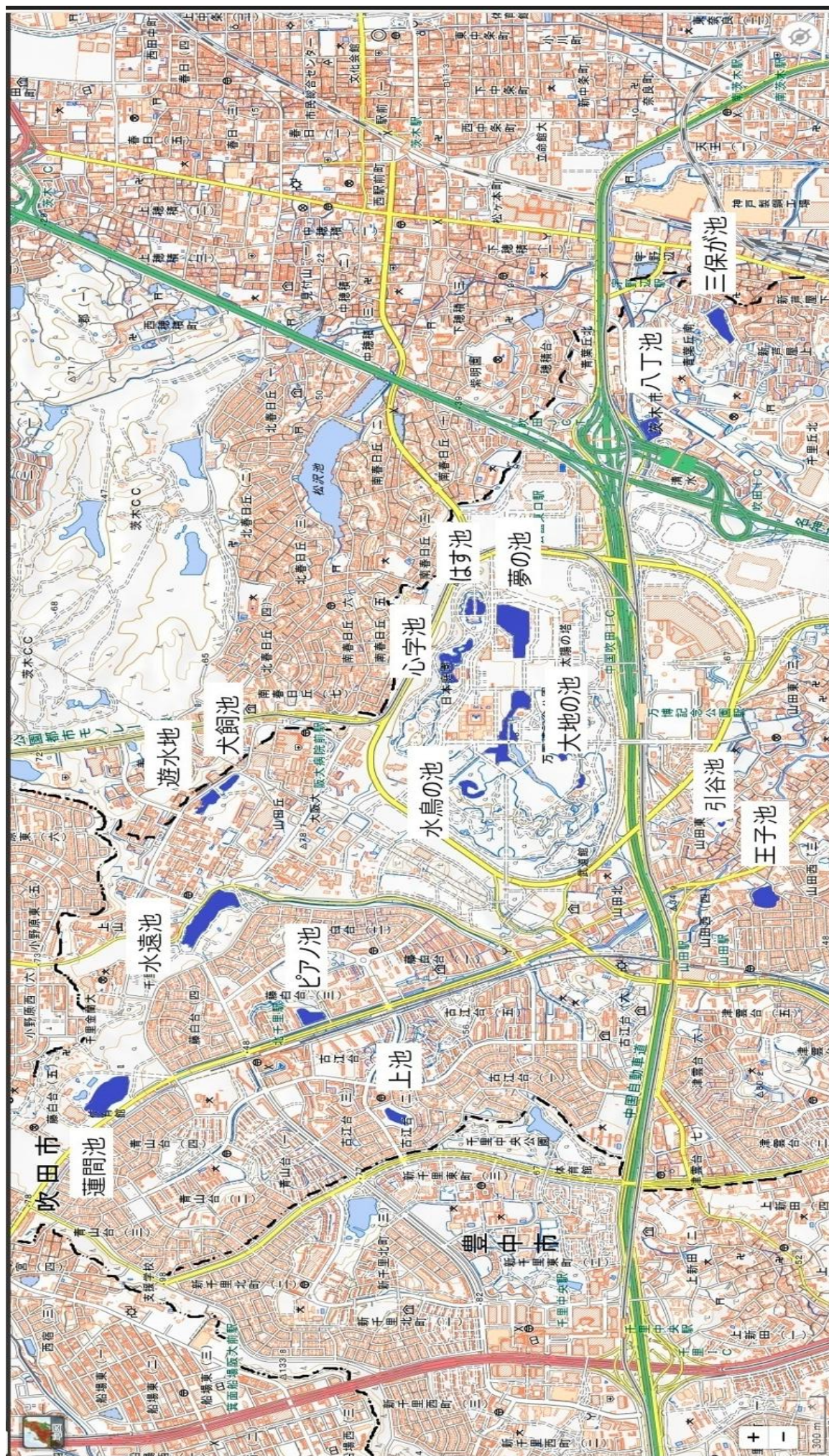
確認できたため池：57（万博公園：10 を含む）

（吹田市：55 豊中市：1 茨木市：1）

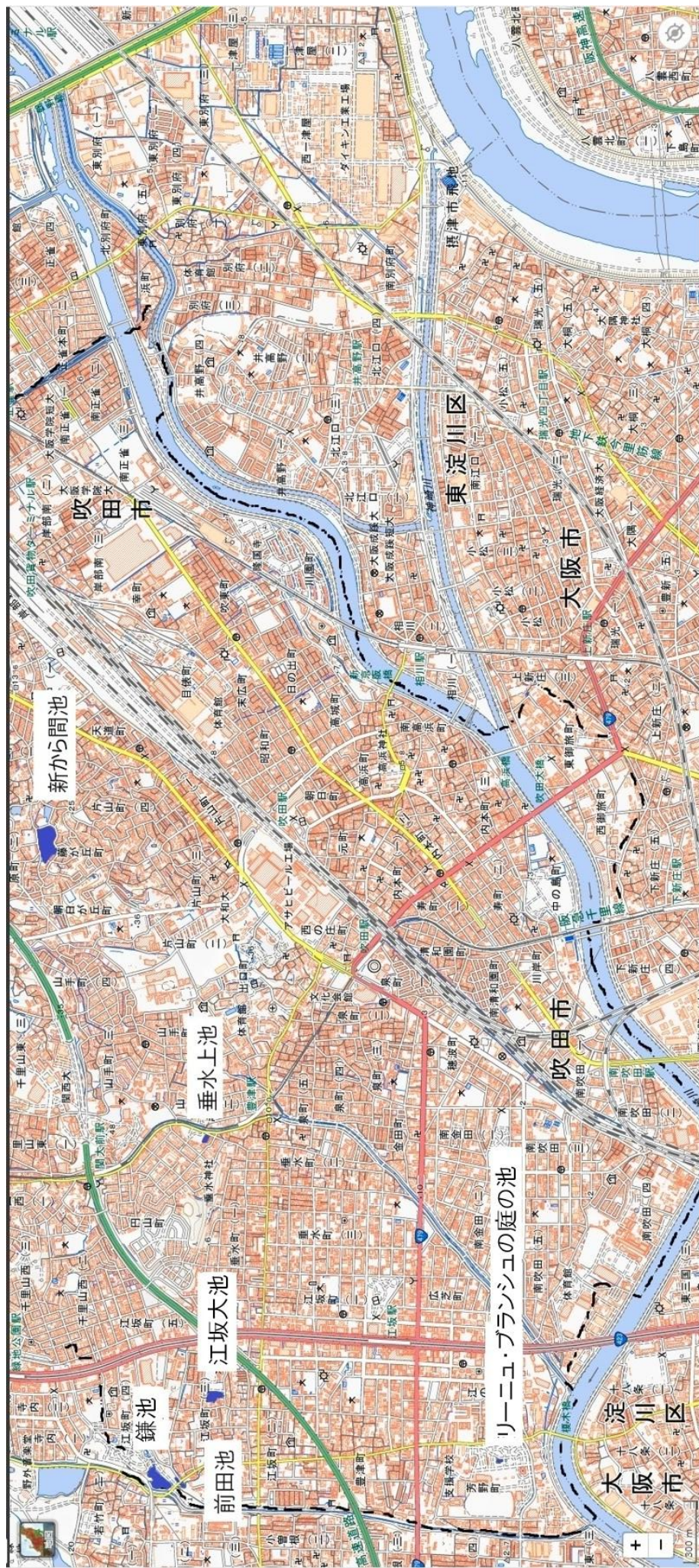
***印）法により大阪府が指定した「特定農業用ため池」（R7. 3. 31）：23**

なお、リストにある下の池（山田西 3）は、不明のため調査していない。

別紙ー2 ため池の位置図







(国土地理院の標準地図を使用)

別紙—3 3年間に調査した全ため池と調査結果の概要

No.	ため池名	所在地	ため池の概要	調査年月	調査結果の概要	チェックシートによる合計点
1	蓮間池	藤白台 3	千里北公園内にあり、池からの水は、山田川に流れる。 ＊以前は、山田村の最も重要な水源池で、「大阪府全志」による記録1)では、地元ではもっぱら「蓮間ヶ池」と呼ばれたようだ。観音伝説や河童にまつわる話が残っている。 池は、低いコンクリートで囲われていて、低いが周辺の木が生い茂り自然状態に見えた。	R5. 4、 7、10、 R6. 1	周辺には、メタセコイヤやラクウショウ、クスノキなどの大木やマダケなどが繁茂し、24種の樹木が確認できた。水は、秋にアオコが見られたが他の季節は良好だった。魚は、吹田市の資料によると、ホシウナギやフナ属、ゲンゴロウブナ、オオクチバス属など6種類が確認されている。鳥は、カワウが多く見られ、秋にはハシビロガモやキンクロハジロが見られた。	R5. 4 : 67. 5 7 : 75 10 : 70 R6. 1 : 65
2	水遠池	藤白台 5	千里北公園内にある。 ＊山田地区の水不足を解消するため、山田川上流に作られた。 名前の由来は、池の水が遠くから引かれてきたことに由来するという説がある。 池は、大部分がコンクリートブロックで囲われていたが、北西側が湿地として残されていた。	R5. 4、 7、10、 R6. 1	池の南側には芝生の広場が、東側には道路を隔て大阪大学がある。樹木は、北側にメタセコイヤやラクウショウ、シサワグelmミがそびえたち、西側にクスノキの大木林、クスギやアオギリ、サクラなどがありアケビやフジなども見られ50種類が確認できた。 池にはヒメガマが繁殖し、春から秋にヒシが繁茂していた。 魚は、吹田市の資料によると、コイやゲンゴロウブナ、フナ属、モツゴ、ドジョウなど7種類が確認されている。 鳥は、カワウやオオバン、カイツブリ、カルガモ、ハクセキレイが見られチュウサギが時々見られた。また、冬季にはキンクロハジロが見られた。	R5. 4 : 67. 5 7 : 67. 5 10 : 52. 2 R6. 1 : 57. 5
3	遊水池 (大阪大学)	山田丘 2	大飼池と分離された池	R7. 5	池にはヨシが生え自然な状態に見えたがよく手入れされているようだ。	77. 5

4	犬飼池 (大阪大学)	美穂が丘	大阪大学吹田キャンパスの構内にある池で、船舶知能化実験場となっており。1970年代に隣接の遊水池と分離されたように、矢板が打たれて道が出来ていた。道沿いには擬木の柵が設置されていた。	R6.3 R7.5	ごみはなく、水はきれいで沈んでいる木の枝が見えた。2、3年前には、水草の花が沢山咲いていたのになくなってしまった。隣接地は竹林。 アオサギがいたのが魚がいるのだからうが見えなかった。アメンボ、カメ、ウシガエルがいた。アカトンボ、チョウ、ハチが見られた。	R6 : 60 R7 : 67.5
5	ピアノ池 (藤白池)	藤白台 3—5	★藤白公園の木立に囲まれて、山田川源流の水路沿いにある。この池は、千里ニュータウン開発時に従来からある溜池の他に、臨時の遊水池と沈砂池として、二十ほど設けられたうちのひとつで、工事の進捗とともに、住宅地の中に吸収されていったが、「山田川第1遊水池」だけは、最後まで残った。	R7.3 R7.5	周辺にはシナサワグルミやシダレヤナギ、ピラカンサなどの15種類の樹木が確認された。水は降雨のためか濁っていた。水面までは深い、堤は土の状態で、ヨシが生え自然な感じがした。池の中ほどに浮島があってヨシらしきものが生えていた。アカミミガメを捕獲するための仕掛けと思われるものが何か所かにあった。	R6 : 50 R7 : 50
6	上池	古江台 2	★古江台近隣センター上の小公園である「はぎのき公園」の大半を占める。現代の地図上では「上池」と記されているが、地元では「青谷池」と呼ばれることが多いようだ。	R7.3 R7.5	水は褐色で汚れていた。岸は2面がコンクリートブロックであるが、奥にはヒメガマやヨシ、スイレンが生え、周辺にはメタセコイヤやラクウショウの高木、アラカシ、シラカシ、シダレヤナギなど21種の樹木が生い茂り自然な感じがした。パンの親子（親2羽、雛鳥3羽）が見られた。 南側には古江稻荷神社がある。	R6 : 60 R7 : 65
7	八丁池	茨木市 小坪井	吹田市内にある茨木市の飛び地のため池で、吹田インターチェンジの南側に隣接したところにある。池はコンクリートとコンクリートブロックで囲われており、西側に竹林がある。	R7.7	水は黄黒色で濁った感じだった。僅かにどぶ臭がした。隣接に大阪中央環状線が通っているのもで自動車音でうるさかった。生き物は確認できなかったが、何故か多くのドバトがいた。水は大正川に流出する。池の下に小さな水田があり水が引き入れられていた。	22.5

8	青葉ヶ丘南 11 の池(1)	青葉ヶ丘南 11	吹田市立東山田幼稚園に隣接した林の中にあったが、調査時には造成工事中だった。	R6. 12	調査時は宅地造成工事中ですでに池はなかった。	—
9	青葉ヶ丘南 11 の池(2)	青葉ヶ丘南 11	同上 (場所はよくわからなかった。)	R6. 12	同上 (周辺に池はなく造成済みと思われる。)	—
10	青葉ヶ丘南 8 の池	青葉ヶ丘南 8	おそらく宅地造成時に洪水調節池として造られたものと思われる。	R6. 12	コンクリートで囲われた小さな調節池で、生き物の姿は見られず水は灰黒色だった。	30
11	三保が池	青葉ヶ丘南と新芦屋下の間	比較的大きな池で、南側には道路があるが、北側には林があり良好な環境にある。 道路側には隣接して調節池があり、水が行き来できるようだ。	R6. 12	アキニレの大木、サクラ、アカメガシワなどが生え、対岸は松や竹、カエデ、シラカシなどの緑地があり紅葉がきれいだった。 水は黄土色でホシハジロやカルガモ、マガモがいた。 この池に隣接して調節池にはカルガモが2羽いた。 北西側で大規模な住宅造成工事が行われていた。(No. 8, 9)	45
12	王子池	山田西 4	(特定農業用ため池) * 山田上村の垣当より西方、中ヶ谷の出口に堤を設けて造られた池。この池の下方、山田川右岸の田地だったあたりが字王子だった。以前はタケノコの産地だったが、現在は住宅地の中にある。	R6. 4	市街地の中にあり、王子池公園として整備されている。池は自然共生型の整備が行われ、各種のヤナギやヨシ、アゼスゲ、ショウブ、チガヤなどが植えられていた。また池の中央には浮島が作られ、アオサギやコサギ、カルガモヒドリガモ、カワウが見られた。 小魚やアカミミガモも多く見られたが、すでにアオコが発生していた。	70
13	高町池	山田西 3	* 竹谷の上部に堤を築いて作られ、かつては竹谷の水田を灌漑していた。現在、高野台と山田西の間の千里緑地に囲まれたところにある。	R6. 4	山田西公園内にあり、周辺は樹木で覆われているが、池の周囲は周回できるようになっている。 水は黒緑色でヒゴイやアカミミガモが見られ、オオバン 2 羽、ヒドリガモ 4 羽がいた。	65

14	遊水池 (千里緑地)	山田西 3	高町池からの水の流れに沿って1kmにわたって千里緑地として雑木林が保全されており、その中間あたりに遊水池がある。一帯は、「ヒメボタル生息地とそのヒメボタル」として平成23年4月に吹田市の天然記念物に指定されている。	R6.4	池辺にはハンノキが多く植えられ、ヨシやカヤが生えていた。	80
15	海老が池	山田西 2	*現状は、千里ニュータウン(高野台)と山田の境界として、千里緑地の一部になっており、吹田市が管理している。	R6.4	むらさき公園内にあるが、池は公園から低い位置にあり、周辺は樹木やササで覆われて近づけない。ヤマザクラやカエデが多く植えられている。池にはカイツブリがいて、コゲラやウグイスの鳴き声が聞こえた。	50
16	津志長池	山田西 1	*山田の谷の出口近く、西から合流する竹谷の口に堤を設け大神木一帯を灌漑するための池として造られたものと思われる。1970年前後から学校や団地の造成により、池はほぼ姿を消し、現在は、コンクリートと金網で囲われた狭い貯水槽として存在している。	R7.5	水は濁り、アメンボがいた。池を囲う網の中にポンプ室のような建屋があったが、周辺に田畑はみられなかった。	15
17	引谷池	山田東 4	(特定農業用ため池) *山田上村の集落の北側に張り出した尾根の裏側が引谷で、ここに堤を設けて作られたのが引谷池だ。主として上村に属する田地を灌漑していた。現在では、池の上半分は児童公園「引谷公園」になっている。	R6.4	引き谷公園に隣接したコンクリートで囲われた調節池で奥に竹藪がある。池は高いフェンスで囲われていた。水は褐色で、多くのアカミミガメとクサガメも見られた。池にはボールや落葉、竹が浮いていた。	40
18	津雲公園の池	津雲台 3	津雲公園内の水路をせき止めてできた池で上流部は埋まっていた。	R6.4	水は下流部に少し溜まった状態で、ショウブが植えられていた。上流の干上がった部分にはヨシが生えていた。周辺にはサルス	55

19	牛ヶ首池	津雲台 1	*千里南公園内にあり、池からの水は高川に流れる。 以前は佐井寺村の用水池だった。雨請にあたって故意に龍神を怒らせるため、牛の生首をこの池に投げ込んだ、というものと、疫病で死んだ牛をこの地に埋めた、という二つの異なる伝承がある。 北側に釣り堀がある。噴水が設置されていた。 池はコンクリートブロックで囲われている。	R5. 4、8、10、R6. 1	ベリ、クロマツ、ヤマモモ、ナワシログミなど13種類の樹木が確認された。 池の周辺には、ラクウショウやメタセコイヤ、アベマキが、少し離れた位置にはスギやボブライ、ユーカリなどが生え、また、池の東側にはコナラやアラカシなど多くの樹木が生えていて、53種類の樹木が確認された。池にはヒメガマやヨシ、セイタカヨシ、キシヨウブが生え、夏から秋に釣り堀の部分にヒシ類が一面に生えていた。魚は、大きなコイやヒゴイが多く見られた。鳥は、年間を通じてカルガモやカイヅブリが、また、春季にはマガモが、冬季にはバン、オオバン、カワウがよく見られた。	R5. 4 : 70 8 : 75 10 : 75 R6. 1 : 67. 5
20	星が池	千里丘 北 1	北側に稲荷神社があるが、その奥は高い山になっている。また、南側にも一段高い千里丘公園がある。星が池は、この谷を堰き止めて造られたよう	R6. 12	星が池公園として整備されている。隣接に稲荷神社がありコナラ、サクラ、シヤシヤンボ、アラカシなど緑豊かで11種類の樹種が確認された。水は灰黒色で、オオバンとカルガモ6羽がいた。	65
21	新芦屋上の池	新芦屋 上	西から南側が低く、北から東側が高い位置にある。その堀に造られたため池で、国土地理院の地図によると、1970年代にコンクリート造りとなったものと思われ、現在も深いコンクリート造りで、周辺はフェンスで囲われている。	R6. 12	コンクリート造りの調節池で、隣接に竹林の新芦屋上公園がある。水は少なく灰黒色で、魚は見られず、プラスチックの袋などが沈んでいた。 周辺にトウネズミモチやシラカシが生えていた。	20
22	新芦屋上8の池	新芦屋 上 8	斜面地の中間にあるコンクリートで作られた調整池で、上には多くの木が生え、下は道路より高い位置にある。道路に隣接して多くの住宅がある。	R7. 7	水は黒緑色で表面は一面ヒシで覆われている。 小さなため池で、生き物は生息していないようだ。	30
23	高野公園の池	高野台 1	1970年代に埋められたようだ。	R6. 10	公園内に池は見当たらなかった。	—

24	春日大池	桃山台 2	桃山公園内にあり、池からの水は、高川に流れている。公園の西側には新御堂筋が通っている。 *以前は、「上池」と「下池」に分かれていて、両池の間には堤と樋門があったようだ。下池の方は「大池」と呼ばれていたが、後に「かすが池」、「かすが大池」と呼ばれるようになり、桃山公園が改修されたときに堤がなくなり、全体が春日大池と呼ばれることになった。 池の全面がコンクリートブロックで囲われていた。 北側に休憩用の建物があり、その下の水辺にはタイルがはられていたが汚れていた。	R5. 4、 7、10 R6. 2	入り口にはラクウシュウの林があり、池のそばにはカヤの木が生え、東側には大阪みどりの百選に選定された「千里の竹林」がある。また、周辺にはハナモモやウメが植えられていて、樹種としては33種類が確認された。 また、南側には花壇が設けられ、清掃活動が行われるなどよく手入れされていた。池には夏季から秋季にヒシが多く繁殖し、オオナダモも見られた。 生き物では、ヒゴイや多くのアカミミガメが見られ、スッポンやクサガメ、ウシガエルも見られた。 鳥では、アヒルやカルガモ、カワウの他、春にはオオバン、キンクロハジロ、ヒドリガモが多く見られた。	R5. 4 : 75 7 : 75 10 : 80 R6. 2 : 60
25	五月丘北の池	五月丘 北	こもれび通り沿いにあるコンクリートブロックで囲われた小さな貯水池。 1980年代に造られたようだ。	R7. 5	水は灰黒色で中央に中州があり、そこにカルガモが2羽いた。 池はフェンスで囲われ、周囲に木が植えられていた。 ペットボトルや缶が捨てられていた。	22. 5
26	五月丘東の池	五月丘 東12	コンクリートブロックで囲われた小さな貯水池。	R7. 5	水は灰黒色で、生き物は見られなかった。 藻の塊が多く浮いていた。 周囲は高いフェンスで囲われていた。周辺に田畑はみられなかった。	15
27	菩提池	佐竹台 3	*佐竹公園内にあり、池からの水は正雀川に流れる。 字名が菩提というところにあった二つの谷の合流点を東北側で堰止めて作られたように、谷形のままV字形となっている。	R5. 4、 8、10 R6. 1	周辺には、メタセコイヤ、ツガ、カイヅカイブキ、アメリカキササゲ、オオシマザクラ、キンモクセイ、コウヨウゼン、サンゴジュなどの大木が見られ、樹種としては31種が確認された。 池にはハスやヒメガマ、キシヨウブなどが植えられ、ハスの下は、バン親子の隠れ家となっていた。	R5. 4 : 75 8 : 70 10 72. 5 R6. 1 : 67. 5

			この池から出る菩提井路は、主に山田下村の水田に供給されていたとのことである。 池は、コンクリートブロックで囲われ、一部水に触れられる場所が作られていたが、汚れていて近づけない状態だった。		池には多くの魚が見られたが、冬季にヘラブナの死骸が見られた。また、アカミミガメが多く見られた。 鳥は、バンの他、カルガモや冬季にはヒドリガモも見られた。	
28	千里山西6の池(山田池)	千里山西6	調査時には造成中だった。	R6.10	宅地造成中だった。	—
29	辻本池(2)	千里山西6	同上	R6.10	宅地造成中だった。	—
30	シゲ池	千里山竹園1	(特定農業用ため池) *下新田の開発・入植とともに造成された由緒ある池だ。1628(寛永五)池はコンクリートブロックで囲われていた。	R6.10	池の周辺にはあまり木は生えていない。水は黒黄色でCODが10mg/lだった(水温20℃)。 下流に田地があり水は利用されているようだ。アメンボがおり、シジミチョウが見られた。昨年池の水を抜いたということで魚は見られなかった。ゴミは少なかったが自転車捨てられていた。	50
31	後谷新池	千里山竹園1	(特定農業用ため池) *後谷新池は、明治初期に五ヶ所あった下新田の村持の池の中では、最も新しい池だ。目の前を新御堂筋が走り、池畔にマンションが迫ってはいても、アチラ谷は、典型的な千里の農村の谷の面影を残す、数少なくなつた場所の一つである。	R6.10	住宅地にあり、東側に竹林がある。コンクリートで囲われた池で、周辺には木が若干生えている。水は黄土色に少し濁っていた。(水温24℃、透視度20、COD13) 大きなコイやアカミミガメが見られた。ゴミは少なかつたが自転車やボールが捨てられていた。	37.5
32	高坂元池	千里山竹園1	(特定農業用ため池) 住宅が立ち並んだ奥の林の中にあるようだ。	R6.10	林の中で確認できなかった。	—
33	辻本池(1)	佐井寺4	造成中だった。 R4.3に観た時は、大平池の上流にある小さなため池で、東側に田地があつ	R7.5	隣接の田地とともに造成されていた。	—

			た。また、高い金網フェンスで囲われ、フェンスには佐井寺水利組合の看板がかかっていた。			R4.3に見た時は、金網フェンスで見にくい状態だったが、水は黄緑色で生物の姿は見られなかった。	
34	大平池	佐井寺 4	(特定農業用ため池) *上之川の水源として重要な池。北方から続く墓之谷が愛宕山(行基山)の西麓で大きく西に屈曲した所に造られ、尻谷から河田にかけての田地に用水を供給していた。佐井寺村誌に「掘立年歴享保十九年ナリ」(1734)とある。	R6.6		コンクリートで囲われた調節池だが、池の表面はヒシで覆われ、水が見えないような状態だった。キンクロハジロやヒゴイが見られた。 周辺では田植えが行われていた。 (R4.9に見た時は、オオカナダモ、グリーンヘアが生え、キンクロハジロが5羽いた。)	42.5
35	佐井寺3の池	佐井寺 3	矢板とコンクリートでできた小さな池で、1980年代後半に整備されたようだ。二重の柵で囲われている。	R7.5		水は濁っていて生き物は確認できなかった。池にはヒシやハスが見られ、池の中にはナンキンハゼが生えていた。	30
36	新池	佐井寺 3	(特定農業用ため池) 4車線道路の歩道の横にあるが、フェンスに囲われて目立たない。 コンクリートで囲われた小さなため池で、一段上に小さな水田があり、その一段上にコスモス畑があった。	R7.10		フェンスで囲われているが、そのフェンスがクズに覆われていた。池まで少し距離があつて見にくかったが、灰黒色で汚れた感じがした。生き物は見当たらなかった。道路側にトウカエデの大木が二本並んで生えていた。	30
37	小田池(1)	佐井寺 2	(特定農業用ため池) 自己栽培の農園用に造られたようだが周囲には木が茂り、中には竹が生えて水がなかった。	R7.5		小田池(2)とともに、佐井寺西土地区画整理事業の道路用地となることである。	50
38	佐井寺2の池	佐井寺 2	農耕地(生産緑地)の中にあるようだが、全体が湿地のようになっている池は確認できなかった。	R7.5		湿地	25
39	砂子谷新池	春日4	*この池は、下新田の開発・入植とともに生まれた。1628(寛永五)年の「新在家入目もくろくの事」に、すなご谷の池とある。	R6.10		水は黒っぽかったが、透視度はよさそうだ。浅瀬にはヒメガマやヨシが多く生えていたが、周辺に木はない。ヒシが生え、グリーンヘアが付着していた。魚は、ブラックバスやブルーギル、スネークヘッドが見	72.5

			砂子谷は、比較的浅く広く開けた谷だ。谷の佐井寺側（東側）には、少しずつマンション群に浸食されてきているものの、田畑がまだ残っている。池の周辺はコンクリートブロックで囲われていた。			られ、アメリカザリガニもいた。昆虫では、ナニワトンボやシオカトンボ、カマキリの卵が見られた。また、鳥類では、オオバンが多く見られた。ごみは、カイロ、カン、ペットボトルが捨てられていた。	
40	小川池	春日 2	*少なくとも二つ位は残っている。ここは、西に凹んだ浅い谷で、谷の一部は駐車場、残部は果樹園だ。池は、その上部にあつて、U字溝の樋が堤を下って、畑に続いている。	R6. 10		池があると思われる場所は竹林で、柵があつて入れない状態だった。 大阪府北部公園事務所の看板があった。	—
41	山口池	春日 2	(特定農業用ため池) 同上。林の中にあるようだ。	R6. 10		竹林の中にあり確認できなかった。	—
42	長池	千里山 高塚	(特定農業用ため池) 農園の中の素掘りの池で、自己の耕作地の水を確保するために造ったところとである。	R7. 5		水は茶色く濁っていた。生き物は見られなかった。	55
43	小田池(2)	千里山 高塚	(特定農業用ため池) 二方はコンクリートと土手でせき止められ、他は土手でできたため池。小田池(1)と同様個人所有の農地を養うために造られたところとである。	R7. 5		生き物は確認できなかった。 佐井寺西土地区画整理事業の道路用地となることである。	40
44	釈迦ヶ池	岸部北 4	(特定農業用ため池) 紫金山公園内にあり、農業用ため池として現在も利用されている。水は、2方面に分水され正雀川に流れる。 池は、釈迦ヶ池土地改良区により管理されている。池の西側には公園広場があり、池の中央を名神高速道路が通っている。 行基が手がけたとされる奈良時代築造のため池で、大蛇伝説、鴨の猟場としての歴史もある。また、プロイセン王	R5. 4、 7、10 R6. 2		西側にはフウの大木の林がある。南東側には、ほぼ自然状態の小高い山（紫金山）があり、クヌギやアベマキ、アラカシ、コナラ、ツツジなど多くの樹木が生えている。池の周辺で確認された樹種は60種だった。池にはヒメガマやヨシが見られた。魚はあまり見られなかったが、何時も釣り人が見られ、吹田市の資料によると、ゲンゴロウブナ、フナ属、オオクチバス属などが確認されている。 また、アカミミガメが見られた。	R5. 4 : 50 7 : 65 10 : 50 R6. 2 : 40

			子ハインリヒがカモを銃で撃ったため国際問題となったことでも知られている。池の堤防はコンクリートブロックで山側は自然な状態である。		鳥はあまり見られなかったが、アオサギやカワウ、カルガモが見られた。	
45	小路新池	岸部北 4	*吉志部神社の下から、岸辺小路村の集落にかけて、ゆるやかに下る斜面の途中に設けられた池。1996年頃、道途中が小路新池の真ん中を通ったため、こんな小池になってしまった。	R6. 2	庭園にあるような小さなため池で、中央に噴水があり、擬木で囲われていた。水は黄緑色でアカミミガメがいた。また、コサギやカワセミが見られた。	60
46	新池	岸部中 5	(特定農業用ため池) 1990年ごろに半分以上が埋め立てられ、その後道路用地としてさらに縮小したようだ。現在はコンクリートブロックで囲われたため池となっている。	R7. 5	水は少し濁っていたが、金魚が泳いでいた。スイレンが咲き、ごみもなく手入れが行き届いていた。噴水が2カ所あった。	30
47	千里山東4の池	千里山東 4	市街地のなかにあり、三方が道路に囲われた、商業施設に隣接したため池で、コンクリートで囲われた小さな調整池である。かつては、農業用のため池として使用されていたようだ。	R7. 8	一面ウキクサで覆われて水面は見えなかった。生き物の生息はなさそうだ。	10
48	吉田池 (3カ所)	上山手 町3	(特定農業用ため池) 地元の方の話では、吉田さんが借りていた土地にあった、ため池で、現在は、周辺のため池を含めてほとんどなくなっているとのことである。	R7. 6	私有地であるため、目視での確認はできなかったが、特定農業用ため池としては3カ所記録されている。	—
49	龍ヶ池	原町3	*竹谷から下る谷と、西側のもう一つの支谷の合流点を堰止めた溜池。西側「上池」と北側が埋め立てられて宅地や公園となり、四角い池になってしまっている。池には太陽光パネルが設置されている。	R6. 9	池はソーラーパネルで覆われ、生き物の気配は感じなかった。水は茶色く濁っていた。	40
50	濁池	原町2	(特定農業用ため池)	R6. 9	多くの藻が浮いていて水の中の様子がわからないが、水はきれいだった。少年が釣を	22. 5

			周辺は道路となり、池はコンクリートと鉄柵で囲われ灌漑用のため池である。		していたので魚がいるのだと思う。シオカラトンボが見られた	
51	バクダシ池	原町 2	(特定農業用ため池) 農業用ため池となっているが、場所が不明だった。	R7. 6	竹林の奥にあるのかもしれないが、確認できなかった。	—
52	新から間池 (今池)	原町 2	(特定農業用ため池) ＊以前は、「たなうら池」「たなうら下池」と記載されていたが、後に、上池は「馬池」、下池は「牛池」と呼ばれ、馬池は、戦後、釣池「新から間池」と改称された。その後、牛池は埋め立てられた。 閑静な住宅街に位置する結構大きなため池である。	R6. 9	一部矢板でできているようだが周辺には低木が生え、ヨシも生えていて風情がある。大きなアカミミガメやコイが見られたが、タイヤや自転車などごみが多かった。アゲハチョウやトンボが見られた。アオコが発生していた。	50
53	宮ヶ谷池	原町 2	(特定農業用ため池) ＊池の北方の尾根上に、1720 年頃勸請された地藏堂が愛宕社として信仰されたことから、この池のある谷が「宮ヶ谷」と呼ばれるようになったのだと思われる。池の北縁から西縁にかけて公園化されたので、池面積は半分程度になった。 池は、閑静な住宅街の宮ヶ谷池公園内にある。コンクリートブロックで囲われていた。	R6. 9	水は茶色く汚れていて魚などは見られなかった。池には看板やマスキなどが浮いていた。トンボが見られ、池の周辺には木が植えられていて、カワセミも見られた。	37. 5
54	鎌池	江坂町 4	(特定農業用ため池) ＊尾部が谷に沿って湾曲し、鎌の刃を連想させる特異な形をしている。1964 年の地図を見ると、この池は三段池になっでいて、それぞれ「上池」「中池」「鎌池」と書かれている。1970 頃から、上池・中池の地区は、植物園	R7. 6	水は緑色で少し濁っていた。アカミミガメが見られ、複数のウシガエルの鳴き声が聞こえた。 シラサギがいたので魚もいるものと思われる。 周辺は緑に覆われ自然の中のため池といった感じである。	70

55	前田池		江坂町 3	(現「都市緑化植物園」ではなく、その前身)として整備されていき、池も埋め立てられてしまった。 服部緑地都市緑化植物園内の池で、鎌池の南にある。	R7.6	水は深緑で汚れていたが、よく見ると魚が群れていた、アカミミガメやカエルが見られ、ウシガエルの鳴き声があるなど生物が生き生きできる環境であることが分かった。周辺は緑で覆われ、池の中には藻が生えていた。	40	
56	江坂大池		江坂町 3	*上池と下池があったが、埋め立てられて半分程度になって、残った部分が「江坂大池」となった。その後、幼稚園と小学校が建設され、更に江坂大池公園が造成され、池は元の1/6以下の大きさになった。 市の表示板には、(概略)「このため池を自然資源としてとらえ直し、既存の公園と一体的に再整備することによって、市民に水辺空間として憩いの場を提供することとなった。」と記載されていた。 江坂大池公園の中の池で、周囲はコンクリートブロックで囲われていた。	R6.10	コンクリートブロックの一部にヨシが生えていた。中央に噴水がある。江坂蔵人水利組合の看板と吹田市緑化公園室(2005年)の池についての説明看板があった。 ヒシが生え、ごみが多く見られた。マガモ、カイツブリの他、多くの水鳥が見られた。業者が草刈り中だった。	30	
57	垂水上池		円山町 3	(特定農業用ため池) *1941-1942年の改修で流路が変わるまでは、上之川は今より西寄りを流れており、この池が溜池兼遊水池になっていた。1998年4月、垂水上池の本体は、すっかり埋め立てられた。隣接にコンクリートで囲まれた貯水池がある。	R6.6	公園の池には水はなかった。以前、水がある時に行った時は、ウシガエルの鳴き声が聞こえた。公園にはオガタマノキやオオシマザクラ、イスノギ、マンサクなどが植えられていた。 隣接のコンクリートの調節池の水は黄緑色で生き物は見られずごみが浮いていた。	20	

58	リーニユ・ブランシユの庭の池	芳野町13	リーニユ・ブランシユの庭の中にある池で、彫刻美術館などがあり、屋外彫刻が展示されている。	R7.6	水はきれいで、池はよく手入れされていた。周辺は低い垣根で囲われた西洋風の池で、マガモのつがいが見られた。	65
59	長谷池	豊中市新千里東町2	*千里東町公園にある。ニュータウン豊中市域の池としては珍しくオーブンな感じがする。また、水辺には菖蒲が多く植えられている。	R7.6	公園の中の池なので噴水もあり、ベンチに腰掛けてくつろいでいる人が多い。池の半分はスイレンに覆われていて花が咲いていた。また、周辺には花しょうぶやアジサイが咲いていた。池にはコイやブラックバス、アカミミガメ、クサガメ、ウシガエルがいた。	77.5
万博公園の池						
60	心字池	日本庭園	日本庭園の入り口の中央休憩所から見える大きな池で、奥は芝地であるが、周辺には木が植えられ滝や石橋もある。日本庭園の象徴的な存在である。	R7.5	水は緑褐色で少し濁った感じである。周辺には、松、サツツバキ、ハゼ、マルバシャリンバイ、クチナシなど多数の木が植えられている。大きなコイやヒゴイが多く見られ通りがかると近づいてくる。アカミミガメも多く見られた。	80
61	はす池	日本庭園	日本庭園の池で、公園東口の近くにあるハスやスイレンの池。冬季には水を抜いて池の整備が行われている。	R7.5	水は褐色で濁っている。池には、ハスやスイレン、ヒシ、ウキクサ、藻が生え、池の周辺にはフウ、タイサンボク、ヤナギなど多くの木が植えられている。ハスが成長するとカルガモが見られる。当日は、スイレンの花が咲き、ウキクサが多く浮いていたが、葉がむしり取られて茎だけになった水草が多く見られた。	50
62	夢の池	自然文化園	自然文化園の東口ゲート近くにある池で、周辺はフェンスで囲われ、岸はコンクリート造り。多くのサイクルボート浮かべられ、ボート遊びができる。	R7.6	水は緑褐色で比較的きれいだだったが、秋にはアオコが発生したり、藻の塊のようなものが風で岸に寄せられていることもある。池はコンクリートなどで作られているので直近に植物はないが、周辺には公園木が植えられている。	55

63	大地の池	自然文化園	自然文化園の中心部にあるコンクリートブロックで囲われた池。	R7.6	コイやカルガモ、カイツブリが見られた。水は灰黒色だが比較的きれいで池には何も生えていない。コイがいるようだ。時々カルガモやカワウがいることがある。	55
64	水すましの池	自然文化園	自然文化園の大地の池の西側に道路を隔ててある、コンクリートブロックで囲われた池。2方に桜などの植物が植えられている。	R7.6	水は灰黒色だが比較的きれいだ。大きなコイがいる。	60
65	水鳥の池	自然文化園	自然文化園の西側、西大路（プラタナスの並木）を少し北に行ったところにある。水鳥を見る建物がある。	R7.6	水は褐色で少し濁っていた。水面はスレインで覆われていた。周辺は生い茂った緑に囲まれている。アオサギが石の上に立っていた。	60
66	どんぐり池	自然文化園	自然文化園の芝生広場の南側、ケヤキの丘の近くにある小さな池であり目立たない。	R7.6	水は灰褐色で少し濁っていた。周辺は緑に囲われている。生き物は見られなかった。	60
67	もみの池	自然文化園	自然文化園にある池で、自然観察学習館に隣接してある。以前は、緑豊かな池でカワセミが見られたが、池の上にアスレチックが設置され近づくことが出来なくなった。	R7.6	水は灰褐色で大きなコイやヒゴイがいる。メタセコイヤの林があり、大きなもみの木がある。	60
68	ビオトープの池	自然文化園	自然文化園の西側にある池で、池には水面が見えるように歩道が設置してある。周辺は緑に囲われている。	R7.6	水は褐色で濁っていた。池には水生植物が多く植えられ、カキツバタやハンゲショウ、ヒメガマ、カンガレイが見られ、周辺にはハンノキやサワグルミが生えていた。	80
69	日だまりの池	自然文化園	自然文化園の中央部、チューリップの花園の南側にある小さな池で、二面がコンクリートブロックの階段になっており水辺に近づける。	R7.6	水は灰黒色で濁った感じがしたが、浅瀬は底が見える。大きなコイやヒゴイがいた。	62.5

*印は、「千里の水：池」<https://nora.my.coocan.jp/mac/Saigoku/history/water/reservoir/index.html> を参考に記載した。

SDGs 啓発プロジェクトチーム

～2025 年度活動を振り返って～

1 はじめに

(1) 研究テーマ

(2) 研究テーマ設定の理由

(3) 研究方法

(4) 研究経過

・ 2025 年度活動履歴

(5) 研究成果

・ 各種実施後のデータ・アンケート・年間評価

2 PTメンバーからの振り返りと抱負

井上道代 関ともえ

SDGs 啓発プロジェクトチーム

三枝茂* 井上道代* 関ともえ* 若生留美子

野村美幸 山下宗一 (2026 年から)

金馬悦子 (2025 年まで) 大垣秀樹 (2025 年まで)

森田佳子 (2025 年まで)

(*印は執筆者を示す)

SDGs 啓発プロジェクトチーム

私達の取り巻く環境と2025年度活動について

1. はじめに

(1) 研究テーマ

2025年度は年間を通して環境出前講座を中心に活動した事に加えて新たなゲームの取り込み、実践で活用する等、PTメンバー全員に関わって頂く事で、PTメンバー個々の活動も活発化してきた様に感じている。この流れを更に定着させていきたいので2026年度のテーマも“カードゲームを通してSDGs啓発を推進する”を継続の研究テーマとする。

(2) 研究テーマ設定の理由

近年、日本におけるSDGsの認知度は向上しているものの、その理解は表面的にとどまる傾向が指摘されている。特に次世代を担う子どもたちに対しては、単なる知識の習得にとどまらず、自ら考え行動する力を育む教育が求められている。学校教育の現場においても、主体的・対話的で深い学びの実現が重要視されており、体験型学習の意義が一層高まっている。このような背景のもと、令和7年度は、吹田市内の小学校4校においてカードゲームを活用したワークショップ型の環境授業を8回実施した。また、プラザからの要請で定例のイベントにおいて数回ワークショップを行う事が出来た。カードゲームは、参加者同士の対話や協働を促進し、楽しみながら社会課題を疑似体験できる点に特徴がある。児童はゲームを通じて資源循環や環境問題、社会のつながりについて主体的に考える機会を得ることができ、従来型の講義形式とは異なる高い学習効果があるとアンケートを通して実感する事が出来た。一方で、日本におけるSDGsの取り組みは、企業や自治体レベルでは進展しているものの、個人の行動変容には十分に結びついていないという課題がある。その要因の一つとして、「自分ごと化」の難しさが挙げられる。特に児童期においては、抽象的な目標よりも具体的な体験を通じた理解が重要であり、その意味でもカードゲームは有効な教材であると考えられる。これらを踏まえ、令和8年度においては「カードゲームを通してSDGsを啓発する」を継続の研究テーマとして設定する。既存のプログラムを継続しつつ、新たなゲーム教材を取り入れることで、多角的な視点からSDGsへの理解を深めることを目指す。また、児童の発達段階や地域特性に応じた内容の工夫を行い、より実践的かつ効果的な学びの場を創出出来る様、進めていきたい。

(3) 研究方法

カードゲームとしては当初からワークショップで活用している“Get The Point”と一昨年より本格的に活用している“なんでやろう？食品ロス”の2つを使いながら昨年後半からは、“プラのきもち”を採用し、ゲーム終了後、アンケートを取り、反応から、反省点・改善点を把握してチームメンバーも実践の中で学習していく事で試行錯誤しながら活動を推進している。また、個々のレベルアップを目的に様々な環境学習のイベント参加や環境問題に取り組んでいる企業や施設等の見学を通して進めていく予定を考えている。

(4) 研究経過（環境出前講座）吹田市内小学校 2025年度活動履歴

2025年度カードゲーム開催実績

4月30日 (水) 佐竹台小学校 (エコクラブ) Get The Point
 5月 7日 (水) 千里第二小学校 (エコで遊ぼう) なんでもやろう?食品ロス
 6月11日 (水) 山手小学校 (SDGsクラブ) なんでもやろう?食品ロス
 7月 9日 (水) 豊津第二小学校 (SDGsクラブ) なんでもやろう?食品ロス
 9月 3日 (水) 千里第二小学校 (カードゲーム体験会) Get The Point
 10月15日 (水) 山手小学校 (SDGsクラブ) Get The Point
 10月22日 (水) 佐竹台小学校 (エコクラブ) なんでもやろう?食品ロス
 2月20日 (金) 豊津第二小学校 (SDGsクラブ) プラのきもち

その他（千里リサイクルプラザ・外部からの要請） ＊イベント参加

6月 7日 (土) 視覚障害者向け環境学習 Touch The Point
 7月12日 (土) 環境スクール体験会 Get The Point
 7月29日 (火) 令和7年度教育課題別研修 Get The Point
 10月19日 (日) もったいないバザール なんでもやろう?食品ロス
 10月26日 (日) 大阪府もったいない活動隊 ATC なんでもやろう?食品ロス
 11月 1日 (土) 大阪市立江坂大池小学校 なんでもやろう?食品ロス
 12月15日 (月) 大阪府食品ロスフォーラム＊
 1月28日 (水) 若生さんワークショップ 池田筒畑会館 Get The Point
 2月 5日 (木) 食品ロス削減情報交換会 ＊
 2月13日 (金) グリーン共創 EXPO26 京都リサーチパーク＊

(5) 研究成果 2025年度（環境出前講座）吹田市内小学校 活動履歴

4月30日 (水) 13:20~14:20 環境出前講座 吹田市立佐竹台小学校

Get The Point カードゲーム エコクラブ 参加者20名 井上・三枝・野村参加
 アンケート回答18名内訳 4年生13名 5年生2名 6年生3名

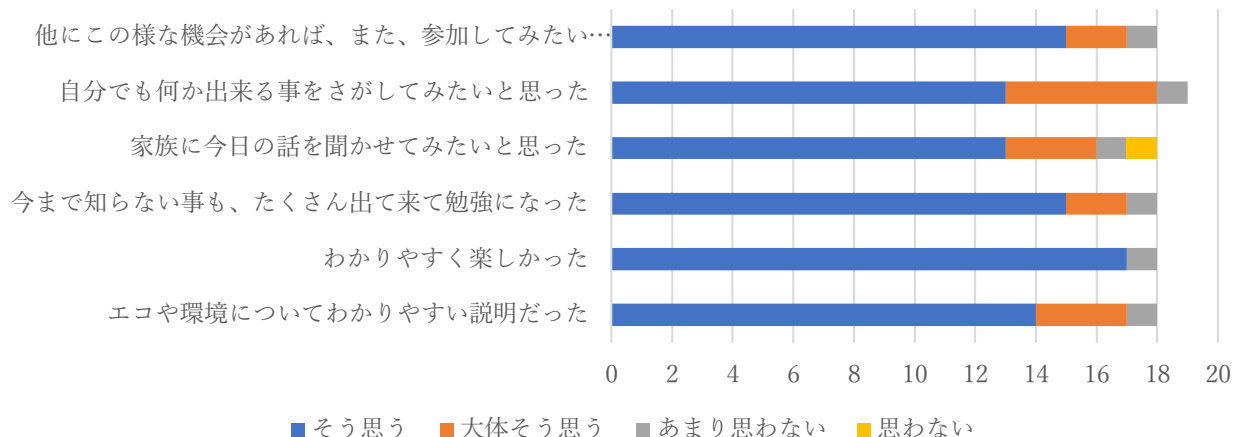
質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
エコや環境についてわかりやすい説明だった	14	3	1	0
わかりやすく楽しかった	17	0	1	0
今まで知らない事も、たくさん出て来て勉強になった	15	2	1	0
家族に今日の話を聞かせてみたいと思った	13	3	1	1
自分でも何か出来る事をさがしてみたいと思った	13	5	1	0
他にこのような機会があれば、また、参加してみたいと思った	15	2	1	0

今日の学習で「よかった」「楽しかった」「がんばった」「わかりにくかった」と思うことがあったら自由に書きましょう。

- ・楽しかった。色んな事を知る事が出来た。
- ・やばいと思った時もあったけど、楽しかった。

- ・チームワーク良く出来て楽しかった。」
- ・クライシスがあるので使い方を相談して楽しかった。
- ・先に再生出来ない資源が無くなってしまった。
- ・協力する力がついたと思う。
- ・最初は難しく感じたけど、最後には簡単に出来て楽しかった。
- ・資源についてよく考えた。
- ・ルールを理解出来てから思い出しながら楽しく出来た。

4月30日（水）吹田市立佐竹台小学校 エコクラブ



5月7日（水）13：20～14：20 環境出前講座 吹田市立千里第二小学校

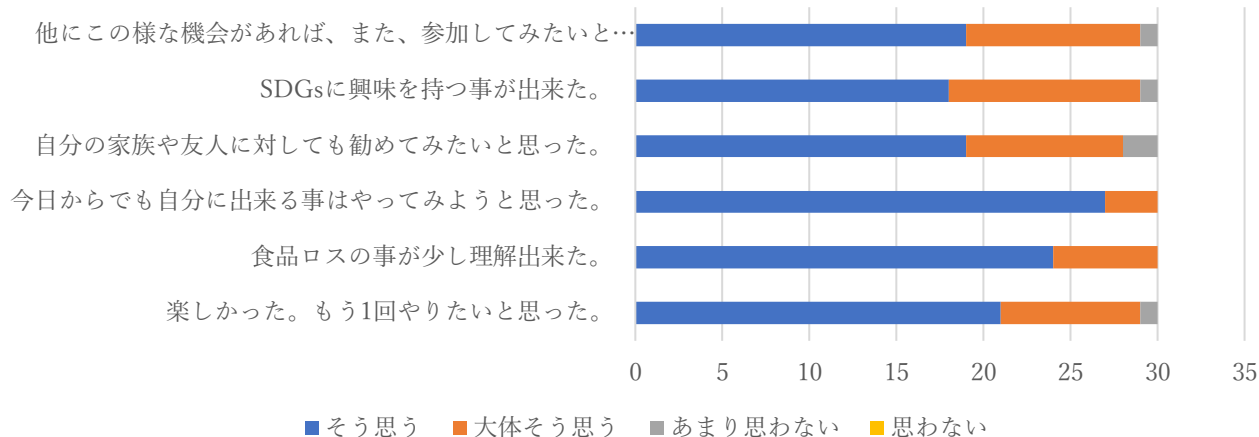
なんでやろう？食品ロスカードゲーム エコで遊ぼう 参加者 32 名 三枝・野村・関・森田参加
アンケート回答 30 名内訳 4 年生 12 名 5 年生 11 名 6 年生 7 名

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
楽しかった。もう 1 回やりたいと思った。	21	8	1	0
食品ロスの事が少し理解出来た。	24	6	0	0
今日からでも自分に出来る事はやってみようと思った。	27	3	0	0
自分の家族や友人に対しても勧めてみたいと思った。	19	9	2	1
SDGs に興味を持つ事が出来た。	18	11	1	0
他にこのような機会があれば、また、参加してみたいと思った	19	10	1	0

今日の学習で「よかった」「楽しかった」「がんばった」「わかりにくかった」と思うことがあったら自由に書きましょう。

- ・違う学年とも仲良く出来た。家でもやりたいと思った。
- ・エコクラブってこういう楽しい所だとわかった。
- ・本当に楽しく勉強出来たのでずっと続けて欲しい。
- ・楽しかったし、SDGs、食品ロスの事がわかった。
- ・楽しかったので、またやりたいと思った。
- ・家で食品ロスが出ない様にしていきたい。今日のゲームを自宅でもしてみたい。
- ・食品ロスを無くして環境に良い世界を作っていきたいと思った。食べ残し、好き嫌いを無くしたい。
- ・カードゲームを通して SDGs の解決方法がわかった。
- ・去年、兄がエコクラブに入って楽しそうだったので入った。思った通りとても楽しかった。

5月7日（水）吹田市立千里第二小学校 エコで遊ぼう



6月11日（水）13：30～14：30 環境出前講座 吹田市立山手小学校

なんでやろう？食品ロスカードゲーム SDGs クラブ 参加者 21 名 三枝・関・森田・金馬参加
アンケート回答 20 名内訳 4 年生 6 名 5 年生 7 名 6 年生 7 名

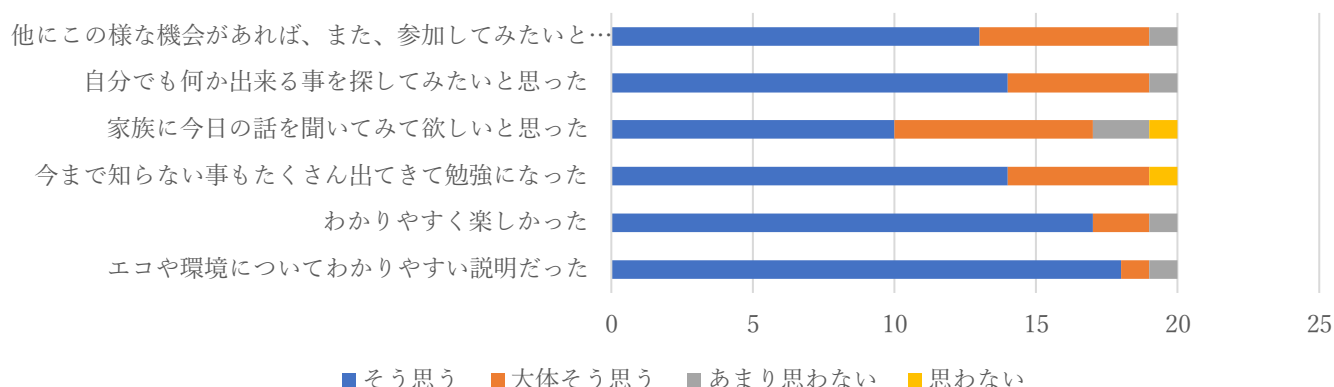
質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
エコや環境についてわかりやすい説明だった	18	1	1	0
わかりやすく楽しかった	17	2	1	0
今まで知らない事もたくさん出てきて勉強になった	14	5	0	1
家族に今日の話を聞いてみて欲しいと思った	10	7	2	1
自分でも何か出来る事を探してみたいと思った	14	5	1	0
他にこのような機会があれば、また、参加してみたいと思った	13	6	1	0

ゲームをプレイしてみて感じた事・気づいた事/明日からの生活の中で自分が出来そうな SDGs 達成に向けた行動

- ・好き嫌いをしない。
- ・食品ロスが簡単に組み合わせて自分達でも減らす事が出来る事がわかった
- ・食品ロスが凄くもったいない事をしている事がわかった
- ・家でも学校でも食品を捨てるのは止めようと思った
- ・お店や事業者も工夫をして取り組んでいる事がわかった
- ・色んな場所で食品ロスが起こっているが、少し考え方を变えるだけで減らす事が出来る事がわかった
- ・SDGs を勉強しながら楽しめる事が良かった
- ・消費期限や賞味期限を無くして再利用や寄付する事が SDGs 達成に繋がっていく事になると思った
- ・これは難しいと思った事も本当はロスを減らしていく事が出来ると気づかされた

6月11日（水）吹田市立山手小学校SDGsクラブグラフ

参加21名アンケート回答20名（4年生6名、5年生7名、6年生7名）三枝・関・森田・金馬



7月9日（水）13：15～14：00 環境出前講座 吹田市立豊津第二小学校

なんでやろう？食品ロスカードゲーム SDGs クラブ 参加者 16 名 三枝・井上・若生参加
アンケート回答 16 名内訳 4 年生 6 名 5 年生 4 名 6 年生 6 名

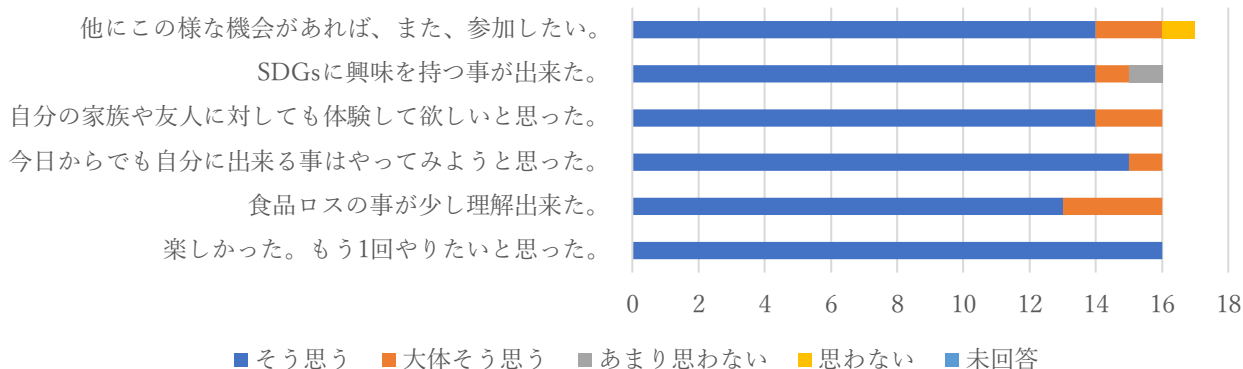
質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
楽しかった。もう 1 回やりたいと思った。	16	0	0	0
食品ロスの事が少し理解出来た。	13	3	0	0
今日からでも自分に出来る事はやってみようと思った。	15	1	0	0
自分の家族や友人にも体験して欲しいと思った	14	2	0	0
SDGs に興味を持つ事が出来た。	14	1	1	0
他にこのような機会があれば、また、参加してみたいと思った	14	2	0	0

ゲームをプレイしてみて感じた事・気づいた事/明日からの生活の中で自分が出来そうな SDGs 達成に向けた行動

- ・食品ロスの事を理解してゲームに臨めたのが凄かった。好き嫌いをしない。
- ・SDGs の大切さがよくわかった。無ければ世界が大変な事になってしまう。
- ・食品ロスの事が知れたし楽しかった。給食を残さずに食べる。
- ・食品ロスが無くなる事で世の中が、こんなに変わると思った。
- ・こんなにたくさんの食品ロスがあって、少しの努力で解決出来る事が理解出来た。
- ・こういう楽しいゲームがあるなら、もっとやって欲しいと思った。
- ・食品ロスを減らす為にゲームで学んだ事を活かせる様にしたいなと思った。
- ・1 回 1 回の食事を大事にしたいと思った。
- ・SDGs の重要性が理解出来た。今の日本には絶対に必要だと思った。

7月9日（水）吹田市立豊津第二小学校SDGsクラブ

参加者16名アンケート回答16名（4年生6名・5年生4名・6年生6名）



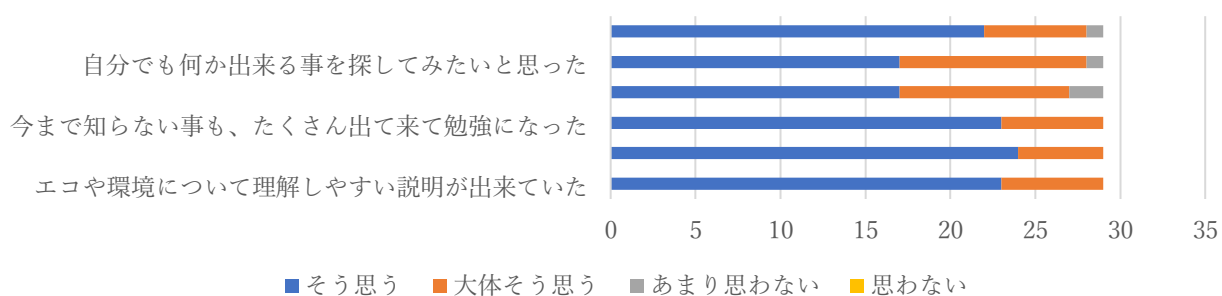
9月3日（水）13：20～14：20 吹田市立千里第二小学校 エコで遊ぼう 環境出前講座アンケート
Get The Point カードゲーム 参加者 29 名 三枝・井上・若生・野村参加

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
エコや環境について理解しやすい説明が出来ていた	23	6	0	0
わかりやすく楽しかった	24	5	0	0
今まで知らない事も、たくさん出て来て勉強になった	23	6	0	0
家族に今日の話を聞かせてみたいと思った	17	10	2	0
自分でも何か出来る事を探してみたいと思った	17	11	1	0
他にこの様な機会があれば、また、参加したいと思った	22	6	1	0

ゲームをプレイしてみて感じた事、気づいた事/明日からの生活の中で自分が出来そうな SDGs 達成に向けた行動（小さな行動でも大丈夫、出来そうな事を書いてみましょう）

- ・もっと自然環境の事を考えながら生活をしていこうと思った
- ・外出する際は、車を使わず自転車で行く
- ・この先（未来）を考える事は大切な事だと気づいた
- ・節電・節水を心掛ける
- ・資源は大切にしようと思った
- ・水の使用量を減らす
- ・資源が無くならない様にすれば、環境を維持出来ると思った
- ・食べ残しをしない
- ・自然のものがとても大事だと気づかされた
- ・生きていない資源はすぐに無くなってしまう
- ・使い捨てをやめる ・資源に回復出来るものと出来ないものが有る事を勉強できた
- ・資源は大切に使わなければならない
- ・ごみを拾う
- ・人間はこわいと思った
- ・資源は譲り合って使わなくてはならない
- ・資源は一生残るわけではないと気づいた
- ・資源を使わない様にしたらポイントも高くなり長く続ける事が出来た
- ・世界で協力して資源を残したいと思った
- ・資源は無限ではない
- ・工夫して節約しながらでないとすぐに無くなってしまう
- ・リサイクル商品を使う
- ・みんなで協力しないとこのゲームは成り立たない。またしてみたいと思った SDGs の大切さがわかった
- ・地球に資源がなくなったら大変だと思った

9月3日（水）吹田市立千里第二小学校 エコで遊ぼう環境出前講座アンケート
参加者29名（3年生1名、4年生11名、5年生10名、6年生7名）



10月15日（水）13：30～14：30 SDGs クラブ環境出前講座 吹田市立山手小学校

Get The Point カードゲーム 参加者 21 名・先生 2 名 井上・三枝・野村・関参加

アンケート回答 4 年生（4 名）5 年生（7 名）・6 年生（7 名）・不明（1 名） 19 名

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
エコや環境についてわかりやすい説明だった	16	3	0	0
わかりやすく楽しかった	17	2	0	0
今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になった	12	6	1	0
家族に今日の話を聞かせてみたいと思った	6	12	0	1
自分でも何か出来る事を探してみたいと思った	7	11	1	0
他にこのような機会があれば、また、参加したいと思った	9	10	0	0

ゲームをプレイしてみて感じた事、気づいた事、明日からの生活の中で自分が出来そうな SDGs 達に向けた行動（小さな行動でも大丈夫、出来そうな事を書いてみましょう）

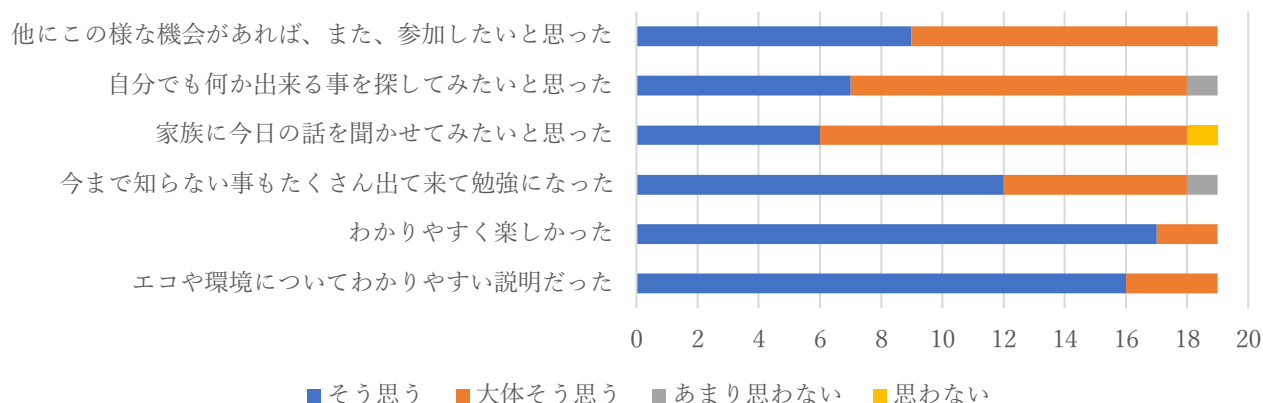
- ・もっと無駄を無くしたい・給食を残さない
- ・不平等になっていた事は平等に出来たらと思った。
- ・食べ物を無駄にしない。
- ・資源の大切さがよくわかった。
- ・ものを長く使いたい
- ・1 回目の個人戦は自分の事しか考えなかったけど、2 回目のチーム戦は他の人の事も考えられた。
- ・SDGs は改めて大切だなと感じた。・給食を残さずに食べる。
- ・復活しない資源がすぐに減ってしまう事に気づかされた。
- ・自分で何かを作る時によく考えて材料を使わなければならないと思った。

- ・楽しかった。自然は使い方を考えて使うと回復する事がわかった。
- ・少しでも資源を減らさない様に変えようと思った。
- ・自分の為にやると自分勝手になってしまうけどグループの皆の為にやると自分勝手にならない事に気づかされた。
- ・皆の為に動こうと思った。

10月15日（水）吹田市立山手小学校SDGsクラブ

参加者21名・先生2名 アンケート回答19名

内訳（4年生4名・5年生7名・6年生7名・不明1名）



10月22日（水）13：20～14：20 エコクラブ環境出前講座 吹田市立佐竹台小学校

なんでやろう？食品ロスカードゲーム 参加者 20 名 三枝・関・野村・森田参加

アンケート回答 20 名

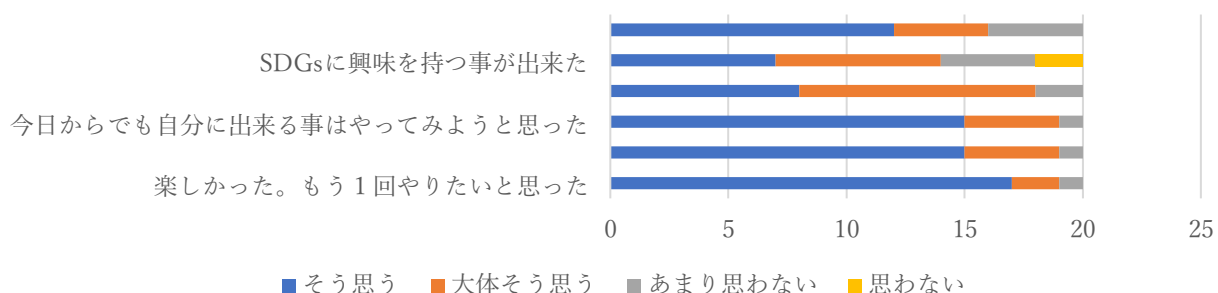
4 年生（14 名）5 年生（2 名）・6 年生（4 名） 20 名

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
楽しかった。もう 1 回やりたいと思った	17	2	1	0
食品ロスの事が少し理解出来た	15	4	1	0
今日からでも自分に出来る事はやってみようと思った	15	4	1	0
家族に今日の話を聞かせてみたいと思った	8	10	2	0
SDGs に興味を持つ事が出来た	7	7	4	2
他にこのような機会があれば、また、参加したいと思った	12	4	4	0

ゲームをプレイしてみて感じた事、気づいた事、明日からの生活の中で自分が出来そうな SDGs 達成に向けた行動（小さな行動でも大丈夫、出来そうな事を書いてみましょう）

- ・一つの事でも色々な解決方法があって面白かった
- ・食品ロスを減らさなければならなかったと思った
- ・楽しみながら SDGs の事を学べた
- ・ゲームとして勝ちたかった
- ・食品ロスの内容にも色んな種類がある事を知りました
- ・楽しかった
- ・色んな考え方がカードにあって興味深かった
- ・ゲームの中であった事をしたいと思った
- ・食料がこんなに捨てられている事に驚きました
- ・頑張ったら出来る事をやれていないからこれから毎日頑張りたいと思った
- ・お母さんが買い物で買い過ぎていたら注意しようと思いました
- ・自分の食べきれる量で食べようと思った
- ・お裾分けをする
- ・SDGs の大切さが理解出来ました

10月22日（水）吹田市立佐竹台小学校エコクラブ環境出前講座アンケート
参加者20名（4年生14名・5年生2名・6年生4名）



2月20日（金）12：30～14：00 環境出前講座 吹田市立豊津第二小学校

プラのきもちゲーム SDGs クラブ 参加者 14 名 三枝・関・森田・野村参加

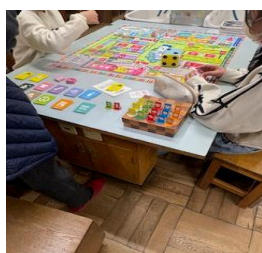
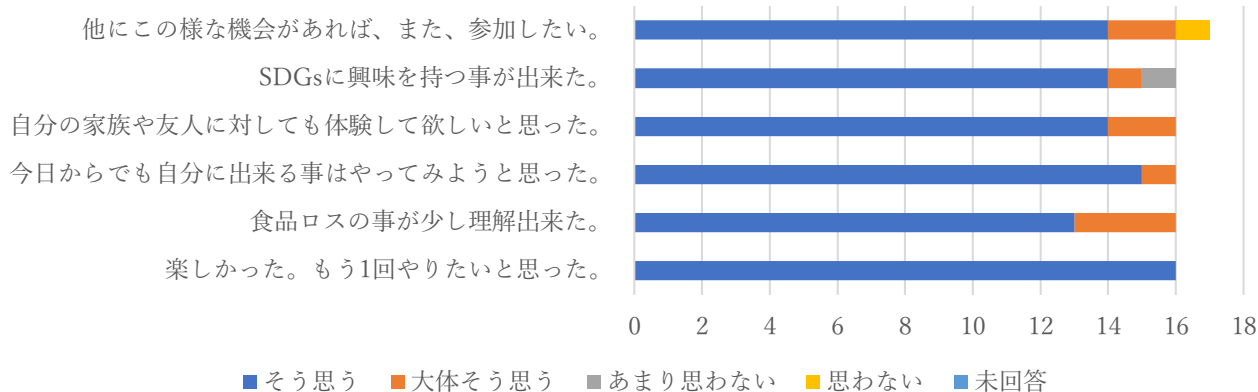
アンケート回答 14 名内訳 4 年生 5 名 5 年生 4 名 6 年生 5 名

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
エコや環境についてわかりやすい説明だった	14	0	0	0
わかりやすく楽しかった	13	1	0	0
今まで知らない事もたくさん出て来て勉強になった	13	1	0	0
家族に今日の話をしてみたいと思った	10	3	1	0
自分でも何か出来る事を探してみたいと思った	10	4	0	0
他にこのような機会があれば、また、参加してみたいと思った	11	3	0	0

ゲームをプレイしてみて感じた事・気づいた事/明日からの生活の中で自分が出来そうな SDGs 達成に向けた行動

- ・ペットボトルはいい事だけではない事が理解でき、ちゃんと洗って、分別してリサイクルしようと思った
- ・プラスチックのリサイクルの大切さとごみを減らす大事さがわかった
- ・ゲームをしながら学ぶと楽しいししっかりと頭に入った。ごみを拾って分別しようと思った
- ・プラスチックが色んな場所で使われていてリサイクルの必要性を感じた
- ・プラスチックの事だけで難しい単語がたくさんあって驚いた。
- ・プラスチックの事をもっと知りたいと思ったリサイクルボックスには他のものを入れない
- ・ペットボトルをリサイクルしたら色んなものに生まれ変わる事を学んだので分別をしっかりとする
- ・勉強は楽しくないけれど、今日習ったのは楽しく勉強が出来て嬉しかった
- ・普段、使っているペットボトルがこんなに色んな所で再生されているのに驚いた

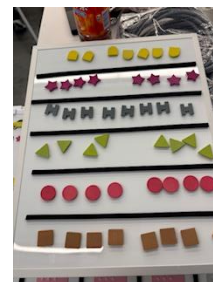
2月20日（金）吹田市立豊津第二小学校SDGsクラブ 参加者14名アンケート回答14名（4年生5名・5年生4名・6年生5名）



6月7日（土）視覚障害者向け環境学習 Touch The Point

大阪大学 中之島センター

＊Get The Point の開発者である“すなばコーポレーション” 門川氏と大阪大学伊藤先生の主催イベントで視覚障害のある子供達に SDGs を啓発するワークショップに参加させて頂いた。
視覚障害者向けに改良された Touch The Point を使用して万博のカナダイイベントで来日したカナダの子供達を交えてゲームを行い、お手伝いさせて頂いた。



7月12日（土）くるくる環境スクール

Get The Point カードゲーム 参加者 11 名 三枝・井上・若生・野村参加

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
エコや環境について理解しやすい説明が出来ていた	13	8	1	1
わかりやすく幅広い年代で楽しめる内容だと思った	16	7	0	0
今まで知らない事も、たくさん出て来て勉強になった	17	5	1	0
自分もカードゲームのワークショップをしてみたいと思った	10	8	3	2
SDGs について何か出来る事を具体的に探してみたいと思った	14	8	1	0
他にこのような機会があれば、また、参加したいと思った	15	4	2	2

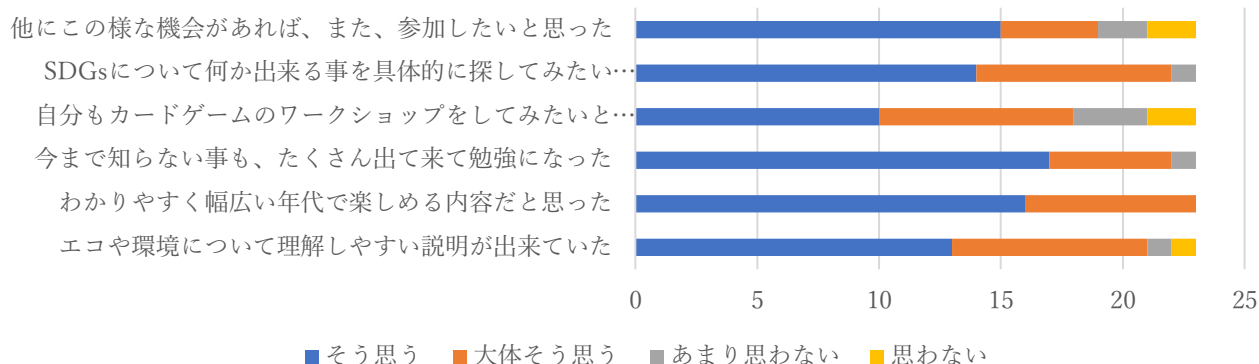
ゲームをプレイしてみて感じた事、気づいた事/明日からの生活の中で自分が出来そうな SDGs 達成に向けた行動（小さな行動でも大丈夫、出来そうな事を書いてみましょう）

- ・バイオマスなど使用する事が本当に良い事なのか疑問だったが、生物資源をうまく活用していく事は持続可能な社会にとって不可欠だと気が付いた
- ・化石燃料使用のものをなるべく使わない様にして捨てずに再利用か再資源化する方法を探したい
- ・皆で話し合っ楽しくプレイ出来ました。1 回だけでなく何度も繰り返してプレイしてみたい
- ・ゲームを通して可視される事により、具体的に有限である資材について認識した
- ・自分勝手にならず、周り話し合いながら環境について考える事が出来た。スコアが、ほぼ同じだった事を考えれば皆さんと同じ考えなのかなと思った
- ・チームで考えて参加出来、楽しくゲームが出来た。エコ・リサイクルをもう一度見直す事が出来た。
- ・自分の事だけ考えていれば、すぐに足りなくなり、皆で豊かになる事を話し合っていると個人も全体も豊かになったのが印象的だった。（食品ロスを出さない・ごみの分別・3Rを意識する）
- ・納得させるのにとっても効果的な方法であると思った。
- ・自分が何も考えないでやっている時より、皆で結果を想定した方が結果は良いという事がわかった。

- ・生活の中で孫達にも良い未来が繋がる様に考えながら生活しなくてはならないと改めて感じた。
- ・もっと視野を広げていく事が必要
- ・再生出来るものかどうかを見つけて消費する。

7月12日（土）くるくる環境スクール第3回講座

Get The Pointカードゲーム 参加者11名



7月29日（火）15:30～16:30 令和7年度教育課題別研修 Get The Point ワークショップ

Get The Point カードゲーム参加者 12名 アンケート回答 11名 市民研究員三枝・井上・金馬・関参加

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
エコや環境についてわかりやすい説明だった	10	1	0	0
わかりやすく楽しかった	10	1	0	0
SDGs をカードゲームで学習する方法に興味を持てた	11	0	0	0
機会があれば、学校でも授業で活用してみたいと思った	11	0	0	0
個人的に SDGs について具体的に出来る事を探してみたいと思った	7	4	0	0
他にこのような機会があれば、また、参加したいと思った	8	3	0	0

ゲームをプレイしてみて感じた事、気づいた事/明日からの生活の中で自分が出来そうな SDGs 達成に向けた行動（小さな行動でも大丈夫、出来そうな事を書いてみましょう）

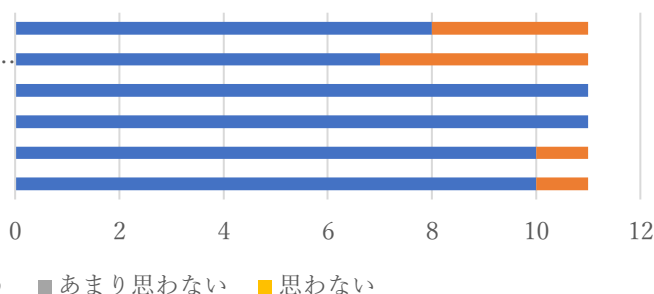
- ・1回戦（個人戦）と2回戦（団体戦）で資源の使い方が変わったのがとても面白かった。SDGs という言葉は知っていたけどゴールがあるのと無いのでは行動が変わるので改めて大切だと感じました。
- ・個人戦・団体戦で考え方を改めて取り組む所に面白さを感じました。楽しみながら SDGs 持続可能な社会について考える機会になると感じました。

- ・再生出来る資源を優先して使っていかなければならなかったので何故再生可能エネルギーが大切なのが分かりやすかった
- ・途中でクライシス等のイベントを含める事でより現実を想定して学べるので良いと思った
- ・効率良く資源を消費しようと思うと他人との協力が必要な所があると気が付いてこのゲームの楽しさに繋がっている事が良かった
- ・1回目と2回目で意識する所が違って子供達も楽しく学べると思った。カードゲームは購入可能か？
- ・子供にとっては、自分事から周りの事へという意識の変化がとても面白かったです。ゲームを通して学べるとても良い機会だと思いました。
- ・ゲームを通してより深く環境問題に触れる事が出来ると感じた。児童・生徒には有効であると思う。
- ・周りと協調する事で目標に向かって楽しく取り組める
- ・個人→チームで実践する事によって仲間意識をより感じる事が出来ました。有難うございました。
- ・仲間と協力する必要性を実際に感じる事が出来る良いゲームだと思いました。
- ・ペットボトルではなく、マイボトルを使う。
- ・まずは子供達と考える事を進めたい・資源の無駄使いを無くす
- ・エコバッグ・水筒の利用、フードロス ・資源の無駄使いをしないリサイクル・ごみの分別、電気はこまめに消す、食品ロス。
- ・目標というものの大切さに気がついた。今後の目標に向けた小さな目標を立てていきたいと思った
- ・自然に還らない循環しないものを出来るだけ使わない様に意識してみようと思った
- ・再利用出来るものを選ぶ事、資源を増やせるものかどうかで買うものを選ぶようにしたい

令和7年度教育課題別研修GTPワークショップ 7月29日（火）15：30～16：30

参加者12名（内教員9名）市民研究員 三枝・井上・金馬・関

他にこのような機会があれば、また、参加したいと思った
個人的にSDGsについて具体的に出来る事を探してみ...
機会があれば、学校でも授業で活用してみたいと思った
SDGsをカードゲームで学習する方法に興味を持てた
わかりやすく楽しかった
エコや環境についてわかりやすい説明だった



10月19日（日）もったいないバザール 三枝・若生・森田・野村・井上・関

SDGs 啓発 PT としてブースを開設、なんでやろう？食品ロス？カードゲーム簡易版 7 条カルタ、なんでやろう？食品ロス釣りゲームの 3 つを使用しワークショップを行う。48 家族 127 名の参加者があり、盛り上がりを見せた。



10月26日（日）大阪府もったいない活動隊 ATC なんでやろう？食品ロス
大阪府の運営するもったいない活動隊のワークショップで“咲洲こども EXPO” ATC にて
なんでやろう？食品ロスカードゲーム簡易版にて参加する。53 名に参加して頂く事が出来た。

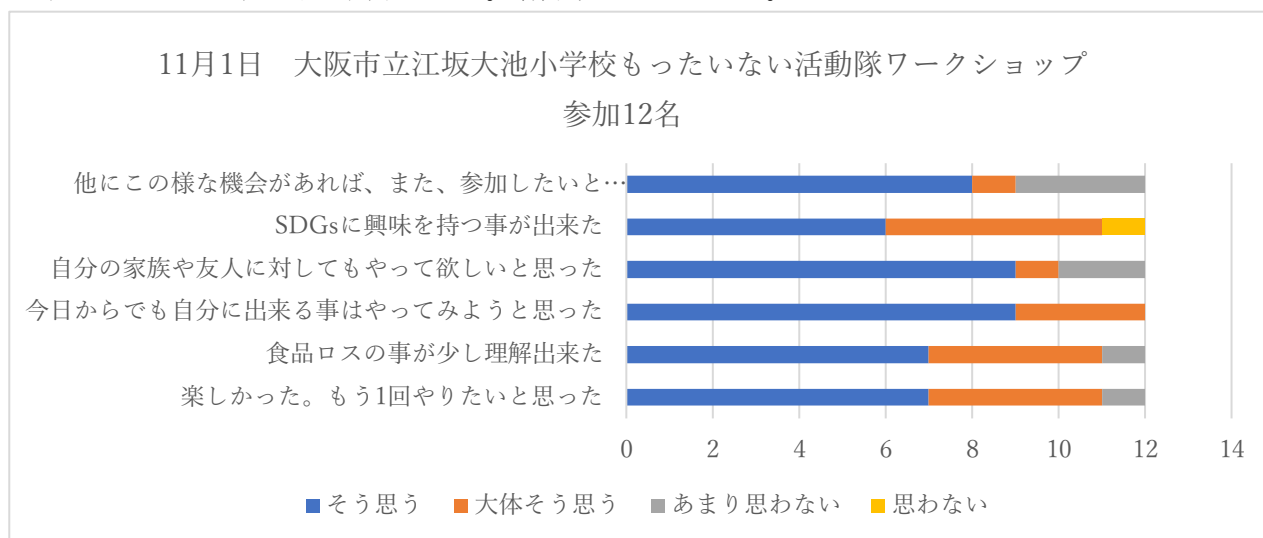


11月1日（火）15：30～16：30 大阪市立江坂大池小学校もったいない活動隊ワークショップ

質問	そう思う	大体そう思う	あまり思わない	思わない
楽しかった。もう 1 回やりたいと思った	7	4	1	0
食品ロスの事が少し理解出来た	7	4	1	0
今日からでも自分に出来る事はやってみようと思った	9	3	0	0
自分の家族や友人に対してもやって欲しいと思った	9	1	2	0
SDGs に興味を持つ事が出来た	6	5	0	1
他にこのような機会があれば、また、参加したいと思った	8	1	3	0

ゲームをプレイしてみて感じた事、気づいた事/明日からの生活の中で自分が出来そうな SDGs 達成に向けた行動（小さな行動でも大丈夫、出来そうな事を書いてみましょう）

- ・カードゲームとても楽しかったです。また、参加したいと思いました。
- ・自分の身近な人にもやって欲しいと思いました。
- ・このゲームをととても欲しいと思いました。
- ・楽しくゲームをする事が出来ました。有難うございました。



- 1 2 月 1 5 日 (月) 大阪府食品ロスフォーラム*
- 1 月 2 8 日 (水) 若生さんワークショップ 池田筒畑会館 Get The Point
- 2 月 5 日 (木) 食品ロス削減情報交換会 *
- 2 月 1 3 日 (金) グリーン共創 EXP026 京都リサーチパーク*
- *イベント参加

年間を通して1年間、安定した、ワークショップやイベント参加を実施、参加する事で内外から一定の評価を頂く事が出来た。ここまでのワークショップのアンケート結果からみても高い評価を頂けた。

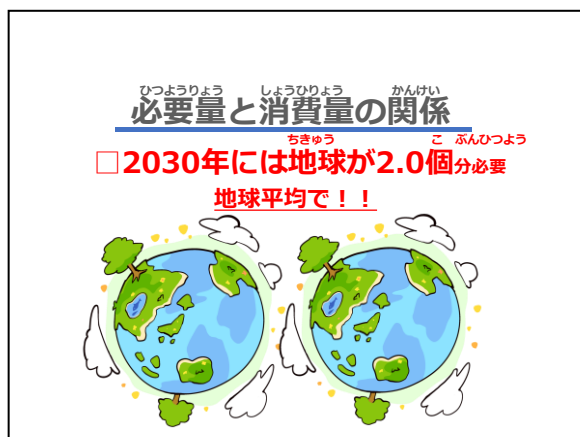
2,PT メンバーからの振り返りと抱負

SDGs 啓発プロジェクトチームでの取り組み

井上道代

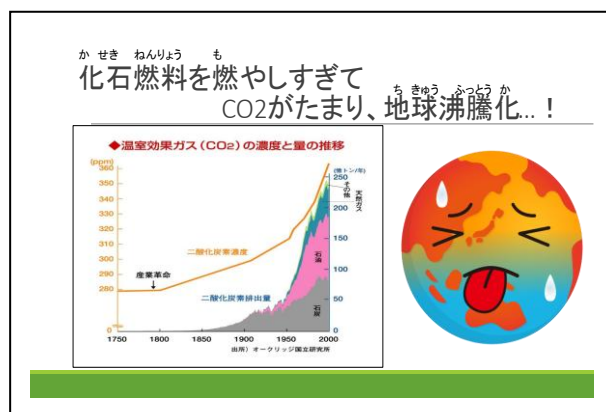
2025年度のSDGs 啓発プロジェクトチームでの取り組みとしては、「ゲットザポイント」のカードゲームのファシリテーターとして、クラブ支援の出前講座に取り組みました。

子どもたちに、このカードゲームの体験から、地球が、唯一のかえのきかない限りある大切なものであることを感じてもらいたいと取り組んでいます。



また、持続可能な社会にしていくためには、競争してけおとしあうのではなく、協力して工夫していくことが大切だと感じ取ってくれることを、うれしく思います。

このゲーム以外でも、生活の中で、モノを大切に使い、資源が循環する仕組みを作っていくことが、今後の社会にとって大切だというプログラムを作って、出前講座で使えたらよいな…と思います。



今年度初めて SDGs PT チームの小学校環境出前講座に参加させていただきました。

資源の節約や食品ロスについて伝えるボランティアは、私自身が環境および地球について学ぶ機会になりました。実際のゴミ処理場や企業見学に行く経験もさせていただき、より具体的に身近に環境の問題を感じる事ができました。また、わかっているつもりが多く、データや根拠を掘り下げて知ることで、環境に関する課題が差し迫った状況にある事がよくわかりました。

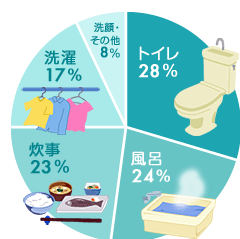
日常の事柄に追われがちですが、社会の基盤となる環境が大きく揺らいでいる事をどう対処していけばいいのでしょうか？ 知れば知るほど苦しくなる現実を将来のある子ども達にどうバトンを渡していけばいいのでしょうか？

『アース・オーバーシュート・ディ』

人類が、その年に地球が生み出す生物資源を使い果たしてしまう日を国際環境シンクタンクが毎年発表しています。2025年は7月24日（日本の生活を世界中の人がした場合は5月8日です）

日本は世界平均より多くの資源を必要とする生活をしています。資源の一つ「水」に目を向けると、家庭での水の用途はほとんどが洗浄用に使っています。一人一人が意識を変え行動を変えることが求められています。

私はまずお風呂の水を今まで以上に最大限、再利用して使うようにしたいと思います。身の回りを見直すことから地球環境を守る取り組みに繋がりたいです。



東京都水道局調べ

そして今年度の活動は前年度の学びを活かして、子ども達により具体的な内容を伝えられるようになりたいと思います。講座の学びがより広がるように、私自身も日常生活でできることを意識して考え、チームの方々と日頃の疑問を持ち寄り、一緒に考え実践へ移していけたらと思っています。

以下は、TOTO の HP

「水回りから地球環境を考える」から

見つけた文章です。

子供達へ伝えるメッセージとしては強めでしょうか？ ご紹介までです。

地球が持つ「自然にきれいになる力」を超えた環境破壊が進んでいます。

アクションチーム

1 手作りおもちゃと環境 AT

- ・活動報告及び活動計画

2 紙すき体験と環境 AT

- ・活動報告及び活動計画

3 マイ食器啓発 AT

- ・活動報告及び活動計画
- ・大阪・関西万博でのリユース食器啓発について

『エコトーン太田さんのリユース食器に対する熱い思いに感動!!』

市民研究所アクションチーム 年間活動報告書・年間活動計画書 (2-2)

アクションチーム名		代表者名
手作りおもちゃと環境 AT		綿谷 一
所属市民研究員名		
井上久子、上平輝子、野田公一、茶園征也、竹原敏明、藤田圭子 村上義夫、八木和栄、綿谷 一		
活動 テーマ	廃品を再利用した手作りおもちゃの指導を通して、ごみの減量化と環境問題の啓発・意識の向上を図る	

I 令和7年度年間活動報告

活動テーマに沿った実践活動について	
1.	クラブ支援は今年4校行った（豊津第二小3回、山手小3回、千里第二小2回、佐竹台小3回） 合計 支援回数 11回 児童数 224人、指導員数 30人
2.	施設見学後の手作りおもちゃ体験は13校 合計児童数 210人、指導員数 19人
3.	ワークショップ実施は3回 合計児童数 45人、指導員数 9人
4.	出前講座 千一公民館出前講座 1回 児童数 14人 指導員数 3人
5.	その他のおもちゃ体験
1.	万華鏡教室2回 合計児童数 25人、指導員数 6人
2.	キッズ環境スクール1回 児童数 11人、指導員数 3人
3.	もったいないバザール 1回 児童数 60人 指導員数 3人
4.	ロハスフェスタ 1回 参加者 112人 指導員 4人
6.	今年の活動の合計 60件 児童数 701人、指導員数 77人
7.	新しいおもちゃは今年無し
8.	今年もワークショップは低年齢化している。
9.	参加者は全て上手く作成し、楽しく遊んだ
10.	案件、問題点、検討事項
	・動画及びパワーポイントを作成完了した。（野田さん作成） ・新規おもちゃの開発ができなかった。 ・研究員を増やしてしていく努力が必要 ・幼児用のおもちゃにレインボウゴマ、跳ねガエルが好評だった。 ・保護者もおもちゃ作りに参加して、多くの方に体験してもらう ・ATのメンバーが、それぞれの役割を振り分けし、全員で活動する ・研究員の高齢化は避けられない ・おもちゃのマニュアル本が不足気味になっている。新しいおもちゃもあり、編集する必要がある。それに合わせて校正する必要があるが、手がかからない。 ・クラブ支援で児童が空身でクラブに来ている場合がある。 事前に担当の先生に連絡し準備するようにする。

Ⅱ 令和8年度年間活動計画

項目	計 画 の 要 旨
	活動テーマに対して、どのような実践活動を計画しているか。
	1. R8 年はクラブ支援など R7 年も同数と心積もりをしているが、動ける方が少なく、新しい研究員が早急に必要になっているため、メンバーの増員をめざす。 2. 『孫に教えてあげる手作りおもちゃ』をくるくるサロン等で行うことができるので、高齢の方と一緒に、数点のおもちゃと一緒に製作できるプログラムを検討していく。 3. ワークショップはリピーターも増えている。参加人数も少し多くして様子を見ていく。 4. 新しいおもちゃ作りについて検討していく。 5. World Cleanup Day のごみ拾いを今年も実施する。 6. 昨年のロハスフェスタに参加して、非常に好評だった。今年も手作りおもちゃ体験を実施する 7. おもちゃのマニュアル改定については、紙媒体からデータ化に移行できるように検討していく。

*簡条書き等、簡潔に表記する。

市民研究所アクションチーム 年間活動報告書・年間活動計画書（2-2）

アクションチーム名		代表者名
紙すき体験と環境 AT		坪井久男
所属市民研究員名		
金子幸平 坪井久男 渡辺明美 松本由美加 上平輝子 西山千晶 糸永陽子		
活動 テーマ	牛乳パックのパルプで紙すき体験をしながら、紙のリサイクルは世界の森林が保全できることを啓発することが活動のテーマです。	

I 令和7年度年間活動報告

活動テーマに沿った実践活動について
1, 紙すき体験実施数 20 件 ① 小学校の社会見学後の紙すき体験 12 件 ② 小学校のクラブ支援 2 件 ③ 公民館への出前講座 4 件 ④ その他（環境キッズ等）2 件 2, 体験前のパワーポイントでの説明を複数人のメンバーができるようになり人材育成に努めた。 3, 出前講座のチェックリストを作成した。

II 令和8年度年間活動計画

項目	計 画 の 要 旨
	活動テーマに対して、どのような実践活動を計画しているか。
	1. 令和8年度も7年度と同様に活動する。 2. 紙すき体験前のパワーポイントでの説明内容を見直し、役割分担を確認する。 3. 紙すき体験者の体験後の感想などを把握するため、アンケート内容を検討する。

*簡条書き等、簡潔に表記する。

市民研究所アクションチーム 年間活動報告書・年間活動計画書（2-2）

アクションチーム名		代表者名	
マイ食器啓発		事務局（浅野）が担当	
所属市民研究員名			
阿部 節・石川 智子・藤吉 陽子・椎橋 保彦・八木 和栄・西山 千晶			
活 動 テーマ	マイ食器持参		

I 令和7年度年間活動報告

活動テーマに沿った実践活動について
・チームの活動は4年目となりました。 ・万博のリユース洗浄作業をしていたので、リユース食器貸出事業は停止中。 ・メンバーが2名増え、西山さんと浅野がマイ容器を利用し調査を実施。 ・クラウドファンディングで作製したプラザのオリジナル容器、残り371個(11/18 現在)。 ・容器を実際に使っていただける機会を作るため、昨年に続きロハスフェスタに参加しました。 ・12月には食ロス啓発と抱き合わせで、昨年は豚汁を販売しましたが、今年は握らないおにぎりと味噌汁をチームで作製、マイ食器持参運動を展開します。

＊箇条書き等、簡潔に表記する。

II 令和8年度年間活動計画

項目	計画の要旨
活動テーマに対して、どのような実践活動を計画しているか	・マイ食器啓発事業と合わせて、リユース食器貸出事業も推進していく。 ・Osaka ほかさんマップに豊中市・茨木市・高槻市・池田市はマイ容器の登録店舗はあるが、吹田市は未だ見受けられないため、市内の店舗の実態調査を行う。 ・作製した容器を使った啓発活動をロハスフェスタ秋、プラザでのイベントで継続。 ・オリジナル容器を持参するとお得になる、を押し出して活動していく。

＊箇条書き等、簡潔に表記する。

マイ食器啓発アクションチーム

大阪・関西万博でのリユース食器啓発について

『エコトーン太田さんのリユース食器に対する熱い思いに感動!!』

八木 和栄

今回、大阪・関西万博リユース食器事業視察に参加させていただき、1970年に開かれた万博のことを思い出していました。

高校時代の友人と4人でアメリカ館の「月の石」を見たさに1時間30分も並び、他のパビリオンを3つ程見て世界中の文化に少しふれた満足感で一杯でした。何を飲食したのかは覚えていないのがとっても残念でした。

大阪・関西万博はキッチンカーの小さな飲食店が多く点在していたので世界の食文化の豊かさに大変驚きました。ですから会場のリユース食器の実態に大変興味があり、エコに対する意識はどのようになっているのかと考えました。



私自身エコに対する意識はなるべくごみを出さないようにといつも心がけてはいますが…。我が家の猫の額のような畑で季節の野菜を育てています、生ごみ用の土に埋める場所を作ったり、米のとぎ汁を畑にまく。雨水をためる容器を置く。生ごみ以外のものを細かく小さくしてごみ袋に入れる程度です。

今や地球温暖化から地球沸騰化と気候変動の深刻さが問題視されています。人間の生活向上の豊かさや便利さが地球をこんなにもイジメてしまった結果が引き起したそのツケが回ってきたのだと思います。

戦後80年を迎える1日前の8月14日に裏千家家元千玄堂さんが102歳の生涯を閉じられました。特攻隊員の経験が茶道を通じた平和への道を追求されました。その中で茶碗は地球、その中の緑のお抹茶の緑は人間との共生だと。平和な日本である今こそ、私達は先人の知恵に学び日々の生活を見直すことが、エコへの一歩となるのではないのでしょうか。



エコトーンの太田さんから万博会場のリユース食器の使用状況を説明していただきました。きちんと使用しているブース、これからというブース、あまり熱心でないブースと様々でした。レジ袋から今やマイバックを持っているのがあたり前になったように、それぞれの人のエコへの認識を少しでも縮めていくことかと思いました。リユース食器にするには少し予算がかかりますが、今こそリユース食器に関心をもってくださる方が1人でも増えればと思います。

エコトーンの太田さんの熱い思いに感動しました。エコに対する自分の反省も含めて良き視察に参加させていただき深く感謝いたします。



参 考 資 料

- 1 令和7年度（2025年度）事業報告書
- 2 しみんけんきゅうニュース2025年度年間概要
- 3 公益財団法人千里リサイクルプラザ 市民研究所 設置規則
- 4 公益財団法人千里リサイクルプラザ 市民研究所 運営方針

1 令和7度(2025年度) 公益財団法人千里リサイクルプラザ事業報告書

脱炭素社会の実現に向けて、地球温暖化防止等を含む環境への負荷を少なくする循環型社会を構築し、人々が環境に配慮したライフスタイルを実践、また環境保全を定着・促進するため、市民の参加の下に次の事業を行いました。

1. 公益目的事業として、次の事業を実施しました。(公1)

(1) 啓発・普及活動に関する事業

ア. 市民工房の運営(受託事業)

市民工房は、市民の日常生活に密着し、修理・再生やそれに係る伝承技術の事例展示を目的として活動しました。ここではジェンダーやジェネレーションを問わず、来館者が楽しみながらリユース(再使用)及びリサイクル(再生利用)できるよう、修理・再生・リフォームの助言・指導を行いました。併せて再生材料を用いた成果品の展示を行いました。

木材の再生利用を行う木工工房、紙すきを通じて森林資源の保護を考える緑工房、自転車の修理と再生利用等を指導する自転車工房、また使用済み衣類のリフォームや活用方法を指導する布工房の諸活動により、市民が自ら実践を通じてCO₂削減による脱炭素社会、地球温暖化防止等をはじめとする環境問題を考え行動する場を運営提供しました。

工房名	対象品	見学者数	実技受講者数	成果品展示数
布工房	衣類	1,622名	1,547名	54点
緑工房	紙パック	479名	414名	0点
自転車工房	自転車	270名	170名	95点
木工工房	家具類	994名	805名	301点
合 計		3,365名	2,936名	450点
合 計 (前年度)		3,757名	3,295名	542点

イ. 視察・見学者の対応(受託事業)

視察や見学では吹田市小学4年生の見学については教育委員会と連携を図り、他市小学校や、地域の自治会等の見学対応も行いました。多言語での施設パンフレットは、英語版・中国語版及び韓国語版をホームページに掲載し、ダウンロードできるように至便性を高めました。

区 分	団 体 数	人 数	前 年 度	
			団 体 数	人 数
小 ～ 大 学 生	50団体	4,844名	56団体	5,574名
市 民 団 体	13団体	213名	10団体	284名
行 政	3団体	9名	4団体	27名
民 間 企 業	3団体	32名	2団体	47名
海 外	7団体	181名	7団体	129名
計	76団体	5,279名	79団体	6,061名

ウ. 環境啓発動画コンテスト事業(受託事業)

地球温暖化防止やごみ問題における3Rの取組等について、SDGsの枠組みを踏まえ、コンテスト情報サイト等を通じて環境啓発動画を広く募集し、コンテストの実施により環境問題や環境保全への市民の積極的な活動参加を促しました。優秀作品は表彰するとともに、様々な機会を捉えて多くの市民の目に触れるようにし、市民目線で環境啓発を考える有効な成果物として活用していきます。

実施日	内 容	対象者	応募作品及び受賞作品数	
			本年度	前年度
応募期間 7月3日(木)～ 10月22日(水)	「環境問題について一人一人が考え、行動しよう！」をテーマに、地球温暖化、プラスチックごみ問題、食品ロス、再生可能エネルギーの普及、生態系の保護など、幅広い環境課題を対象とした動画を募集しました。 若い世代を中心に、多くの人が環境問題への理解を深め、身近な行動につなげることを目的として実施しました。	市民	応募作品数 79作品 【大学生・一般部門】 奨励賞3作品 【中・高生部門】 優秀賞1作品 奨励賞3作品	応募作品数 46作品 【大学生・一般部門】 優秀賞1作品 奨励賞1作品 【中・高生部門】 優秀賞1作品 奨励賞1作品
投票期間 11月14日(金) ～12月12日(金)				
応募作品審査 12月17日(水)	専門家の意見を参考に、応募作品の審査を実施。			
表彰式 2月15日(日)	受賞式と受賞者から作品作りの工夫や苦労話など発表。			

エ. 展示等に関する事業(受託・自主事業)

① 展示コーナーの常設(受託事業)

市民工房で再生した成果品、施設の活動内容に関する動画や環境問題の啓発につながるパネルや日本の優れた環境技術製品の展示にも努めました。また環境問題をSDGsに始まる世界共有の問題として認識し考えてもらうため、諸外国からの来館者に向け可能な限り英語などの多言語表示を行いました。
また、開催予定のポスターなどをフレームに入れイーゼルを使い、来館者への効果的な展示を実施しました。

② あげます・もらいますコーナーの利用状況(受託事業)

市民から使用しなくなった衣類・食器・皮革製品やその他の未使用品の提供を受け、必要な市民に利用してもらう「あげます・もらいますコーナー」を常設し、HP、SNSやチラシ等での広報を通じて、幅広い市民の利用により資源のリユース(再使用)、リサイクル(再生利用)を促進しました。吹田市環境部からの依頼で、サステナブルファッション・プラットホーム「oHOHo CYCLE PROJECT」への衣類提供に協力しました。

品 目		持ち込み品	持ち帰り品
衣 類		10,363点	8,384点
食 器		8,072点	5,599点
合 計		18,435点	13,983点
件 数		795件	2,036件
前年度	数量	21,000点	16,441点
	件 数	865件	2,157件

③ 出張展示会(受託事業)

10月31日～11月2日の3日間、万博記念公園の東の広場にて開催された「ロハスフェスタ万博2025秋」に参加しました。昨年度に続き3回目の出店であり、プラザの啓発活動の紹介、工房成果品の展示販売、マイ食器啓発活動を行いました。今年度は手作りおもちゃATのワークショップ、布体験を開催し、ロハスの来場者にリユースの大切さを体験してもらいました。2月17日～3月1日に千里ニュータウンプラザ6階の吹田市立公益活動センター「ラコルタ」でぐるぐるプラザの活動について広く市民に知ってもらうため、市民工房の紹介や市民研究所の活動を展示しました。□

④ 再生成果品等の販売(自主事業)

市民工房で再生した成果品(くるくるグッズ)や市民から提供された未使用品等(セカンド品)を展示し、廉価で販売しました。らっくdeフリマ第2期につきましては、第1期に引き続きプラザの建物工事の影響で出店者の商品搬入が困難と判断し中止とし、第3期については1月から3月にかけて開催しました。

工房名	対象品	成果品販売数	販売時期	販売品目	内容
布工房	衣類	78点	常時	衣類のリフォーム品 紙すき製品 木工小物	市民工房において再生した成果品を販売。
緑工房	紙パック	35点			
自転車工房	自転車	91点	毎月	自転車	毎月1回の抽選販売。売れ残りは随時販売。
木工工房	家具類	313点			
合 計		517点	随時	家具	修理後(HPに掲載)随時販売。
合 計 (前年度)		490点			

対象品	販売数	前年度	常時	セカンド品	市民から提供を受けた未使用の衣類・食器等を販売。
セカンド品 (未使用の市民提供品等)	1,899点	1,415点			

らっくdeフリマ 出店期間		来室者数	出店数	出店形式	出店内容
第1期	工事の為に中止	—	—	4段ラック 3段ラック 2段ラック ハンガーラック	市民に場所を提供し、使わなくなったもの等、リメイク・リユース品を中心に展示し低額で販売。
第2期	工事の為に中止	—	—		
第3期	R8年1月～3月	1,170名	50店舗		
合 計		1,170名	50店舗		
合 計 (前年度)		5,332名	199店舗		

オ. 市民・企業参画事業(受託・自主事業)

① もったいないバザール(受託事業)

市民、企業、学生団体、その他の外部団体等との協働による環境啓発活動として、リユースの大切さを楽しみながら学べる、おもちゃのかえっこバザール、衣類と食器の持ち帰り、環境に関するワークショップで構成するイベントを開催しました。また、10月24日に第3回実行委員会を行い次年度に向けての協議を行いました。

事業名	実施日	実施内容	参加者数	前年度
				参加者数
令和7年度(第3回) もったいないバザール 第1回実行委員会	6月20日(金)	実行委員会メンバーによる、本年度の実施内容や運営方法についての討議。	19名	21名
第2回実行委員会	9月12日(金)		17名	23名
				22名
もったいないバザール	10月19日(日)	雨天でも実施できるプログラムを計画し予定通り進行できました。ただし、前日に雨が降ったため、屋外の準備物は当日の朝8時に全職員が出動して準備を行いました。	408名	273名
第3回実行委員会	10月24日(金)	実施内容の報告及びアンケートを紹介。各担当からの反省等を踏まえ、次年度に申し送りを行った。	14名	18名
合 計	4回		458名	357名

② エコラボパートナーズ(自主事業)

施設活性化のために、当財団の事業目的に賛同し環境保全活動に取り組む市民団体、企業、学生等の様々な団体をエコラボパートナーズとして認定しています。当施設の貸室やその他スペースを利用し、展示会、講演会、イベント、教室等、連携を図り協働事業を実施しました。

開催事業名	実施回数	主催者	実施内容	受講者数	前年度	
					実施回数	受講者数
アート クレイシルバー	39回	首藤みわ子	廃棄・回収されたスマホ等から採取し再生利用された銀粘土を利用したクレイシルバー教室を開催。	159名	36回	126名
GECS体験	3回	大阪大学 環境サークル GECS	ペットボトルなどの廃材を使い創作する楽しさとリサイクルの重要性を学べるワークショップを開催。	61名	3回	49名
お片付け教室	2回	茂梓弓	お片づけをすることを通して、集まった受講者で楽しく考え、リデュースへの意識改革を促す講座を開催しました。	11名		
アップルパイ リース作り体験	1回	渋川京子	身近な植物を利用したリースやオーナメントの制作を通じて自然に親しんでもらう教室を開催。	9名		
大学生チャレンジ ワークショップ	1回	久保重加音	捨てられる紙をごみにしないで紙粘土を作り、クリスマスオーナメントを制作するリユースを啓発する教室を開催。	11名		
GECSクエスト	1回	大阪大学 環境サークル GECS	9月13日(土)に施設内の部屋を使い、その中で参加者の子供たちが謎解きやゲームを行いSDGsに関する環境問題へ興味・関心をもってもらうため開催しました。	11名	1回	14名
玩改アート	1回	いながき やすこ	不要になったおもちゃなどを使ってアート作品を作り、その工程で環境教育を伝えるワークショップを開催しました。	28名		
合計	48回			290名	40回	189名

(注)アートクレイシルバーは体験コース、6回コース、3回コースの実施をそれぞれ1回と数えます。

カ. 環境実践教室の開催(自主事業)

市民が楽しみながら資源の再使用や再生利用を体験できるように以下の環境実践教室を実施しました。

教室名		1教室当 開催日数	実施回数	受講者数	延受講者数	前年度		
						実施回数	受講者数	延受講者数
布	布体験	1日	1回	7名	7名	1回	12名	12名
木工	木工体験	1日	3回	44名	44名	3回	43名	43名
	夏休みこども木工	1日	2回	34名	34名	2回	60名	60名
クラフト	革小物	1日	24回	22名	22名	24回	41名	41名
	夏休みレザークラフト	1日	2回	0名	0名	2回	8名	8名
おもちゃ	オイル万華鏡	1日	2回	25名	25名	2回	26名	26名
廃段ボール	廃段ボール体験	1日	3回	50名	50名	3回	53名	53名
	夏休み廃段ボール	1日	2回	10名	10名	2回	19名	19名

LED	LED体験	1日	2回	36名	36名	2回	31名	31名
ガラス 工芸	夏休みフュージング	1日	2回	10名	10名			
	フュージング体験	1日	3回	43名	43名	3回	45名	45名
陶芸	陶芸形成体験	1日	1回	12名	12名			
	陶芸絵付け体験	1日	2回	30名	30名	2回	30名	30名
	夏休み陶芸絵付け	1日	1回	5名	5名	1回	5名	5名
自転車	自転車安全教室	1日	2回	5名	5名	2回	10名	10名
海の 生き物	海の生き物観察会	1日	1回	4名	4名			
施設 体験 見学 後	布体験	1日	7回	65名	65名	5回	47名	47名
	木工体験	1日	12回	116名	116名	9回	85名	85名
その他	ロハス(布体験)	1日	1回	106名	106名			
	包丁研ぎ	1日	4回	37名	37名	3回	21名	21名
合 計			77回	661名	661名	66回	536名	536名

キ. イベントの開催(自主事業)

① フェスタ

事業名 (当初予定)	実施日	内 容	参加者数	前年度 参加者数
くるくるファミリーフェスタ	5月18日(日)	地域の子どもから大人まで幅広い世代に資源循環・リユースへの関心を持ってもらうことを目的に、「くるくるファミリーフェスタ」を開催。今回は定番となっている廃材活用ワークショップに加え、初の試みとして「循環ガチャ」や「環境塗り絵」を導入し、体験型・参加型の環境学習イベントとして実施しました。 (注)前年度については、ファイナルフリマでの集客により参加者数が多くなっています。	約200名	約500名
くるくる夏フェスタ	8月17日(日)	親子で参加しやすい夏休み期間中に、地球環境保全や3Rの輪を広げるためにフェスタを実施しました。 木工、ガラス工芸、陶芸絵付け体験等の各種体験や廃段ボール工作・LED作品制作、市民研究所PTからは顕微鏡でプランクトンを見てみよう、手づくりおもちゃ体験、自転車安全整備教室、玩改アートのワークショップを行いました。	約170名	約170名
くるくるクリスマス	12月14日(日)	地球環境保全や3Rの輪を広げるためにフェスタを実施しました。 布、木工、ガラス工芸等の各種体験や廃段ボール工作、市民研究所PTからは顕微鏡でプランクトンを見てみよう、手づくりおもちゃ体験などを行いました。 また、吹田お話し会によるクリスマスにちなんだお話、影絵を提供しました。他にも食ロス削減・マイ食器持参啓発活動として、おにぎらずとみそ汁を販売しました。なお、体験参加者には食ロス削減を目的に商品化されたお菓子を配りました。	約170名	約250名
合 計			約540名	約920名

② その他の催し物

事業名	実施日	内 容	参加作品数	前年度 参加作品数
くるくるアイデア コンテスト	応募期間	応募期間：7月1日(火)～8月14日(木) 投票期間：8月15日(金)～9月14日(日)	54作品	38作品
	投票期間	地球環境保全や3Rの輪を広げるために、 SDGsも踏まえた様々な3R作品の展示発表 会の場として開催しました。身近に3Rを意識 するきっかけとなる啓発活動となりました。		
	応募作品審査	展示会場及びインターネットでの市民の投票の合 計獲得票数を基に、プラザ執行役員及び事務局 が最終審査し優秀作品を選出。		
	表彰式 (9月28日)	優秀作品の制作過程での工夫等を本人が会場 で説明後、表彰式を行いました。理事長賞1名、ア イデア賞9名、キッズ部門賞2名という結果になりま した。アイデア大賞に関しては該当するような作品 がなかったため今回は受賞者はいません。アイデ ア賞に関しては該当する作品が多く5枠を9枠に拡 大しました。		

事業名	実施日	内 容	参加者数	前年度 参加者数
ソーラーカー 乗車体験	5月18日(日)	ソーラーカーそらくる号の広場での乗車体 験を通して、楽しみながらグリーンエネルギー について考える機会を提供する予定では したが、雨天のため中止しました。	—	—
	12月14日(日)	ソーラーカーそらくる号の広場での乗車体 験を通して、楽しみながらグリーンエネルギー について考える機会を提供しました。	35名	46名
合 計			35名	46名

実施日	内 容	対象者	食品の預かり数及び持ち帰り数	
			本年度	前年度
食ロス あげます・もらいます 10月～11月	食品ロスを削減することをテー マに、くるくるプラザ館内に食品 ロス削減啓発として展示。 賞味期限間近のものや沢山 買いすぎたために食べ切る事 が困難な未開封食品などを集 め、それをイベントで必要な方 に持って帰ってもらう「食ロスあ げます・もらいます」実施しま した。	市民	食品の預かり数 15点 食品の持ち帰り数 11点	食品の預かり数 61点 食品の持ち帰り数 30点

③ おもちゃ病院

毎月1回おもちゃ病院を開院し、市民の持ち込んだ壊れたおもちゃを、おもちゃドクターが即日又は入院修理し、リユースの啓発活動を行いました。

実 施 日		修 理 件 数	前年度修理件数
第1回	4月20日(日)	18件	16件
第2回	5月18日(日)	10件	20件
第3回	6月15日(日)	28件	13件
第4回	7月20日(日)	14件	12件
第5回	8月17日(日)	13件	11件
第6回	9月21日(日)	24件	17件
第7回	10月19日(日)	29件	26件

第8回	11月16日(日)	6件	25件
第9回	12月14日(日)	26件	34件
第10回	1月18日(日)	17件	22件
第11回	2月15日(日)	17件	15件
第12回	3月15日(日)	22件	20件
合 計		224件	231件

ク. リユース食器貸出に関する事業(自主事業)

令和7年4月～12月まで大阪関西万博リユース食器協働事業をNPO地域環境デザイン研究所ecotoneと(公財)京都市環境保全推進協会と3者で行ったことにより通常の貸出事業は停止しました。

令和8年1月～3月まではNPO地域環境デザイン研究所ecotoneとのリユース食器協働事業として運営、貸出事業を行いました。

リユース食器協働事業

		件数	食 器 類	箸 等	前 年 度		
					件 数	食 器 類	箸 等
貸 出	吹田市内	-	-	-	3件	1,560点	80点
	吹田市外	7件	13,299点	47点	11件	5,594点	2,530点
合 計		7件	13,299点	47点	14件	7,154点	2,610点

ケ. 会員(ブラザメイト)に関する事業(自主事業)

ごみ問題や地球温暖化などの環境問題をより多くの人々に理解してもらい、つながりを広げてゆくため会員(ブラザメイト)を募集しました。会員には財団が発行する情報紙や、各種催しの案内を送付しました。

(2) 調査研究・情報提供に関する事業

ア. 調査・研究及び実践活動(受託・自主事業)

① 主担研究員による調査・研究(受託事業)

市民研究所の主担研究員が各々の専門の立場から廃棄物・環境問題について調査・研究を行いました。また環境教育企画グループ(PG)や施設案内・見える化企画グループ(PG)において、主担研究員と環境教育に精通した事務局メンバー、環境アドバイザーにより調査・研究を進めました。ぐるくるサロンでは、外部講師や大阪府立千里高校2年生の「総合的な探求の時間」の成果を発表していただき、世代を超えた交流の場となりました。今後は学生主体の進行を担うなど、学校との継続的な連携体制の構築をさらに進めてまいります。

事 業 名		活動回数	内容
P G	環境教育	10 回	ブラザが提供する環境教育の質の改善・向上を図るとともに、吹田市の学校との環境教育の繋がりや関係の強化に向けて活動を行いました。
	施設案内・見える化		吹田市のごみ処理施設見学プログラムの再構築について各施設と協議し、吹田市のごみ処理の一連の流れが明確に理解できる案内手法の考案により、小学生の環境学習効果を高める検討を始めました。
	国際化	4 回	ぐるくるブラザパンフレットの英語版・中国語版及び韓国語版を作成し、ホームページに掲載してダウンロードできるようにしました。
計		14 回	(11回)

(注)国際化企画グループ(PG)の活動回数は各パンフレット作成をそれぞれ1回としました。

()内は前年度

事業名	実施日	内容	参加者数	会場
くるくるサロン	5月31(土)	講和テーマ: 「仏教に学ぶ環境・社会・経済の統合」 オーガナイザー (公財) 千里リサイクルプラザ 理事長 小幡範雄	22名	つながりラボ (市民工房3)
	8月10日(日)	講和テーマ: 「バナナで読み解くSDGs 世界とつながる私たちの選択」 市民研究所長 三輪信哉	28名	
	11月9日(日)	講和テーマ: 「楽しいゼロカーボン生活のつくりかた」 (有) ひのでやエコライフ研究所 代表取締役 鈴木靖文氏	17名	講義室2
	3月8日(日)	講話テーマ: ・「カラスにゴミを荒らされないようにするには」 ・「犬猫のペットの殺処分数を減らすために私たちにできることはなにか〜譲渡数を増やすためには〜」 ・「レストラン企業の食べ残しの面における食品ロスを削減するために私達にできることはなにか」 ・「ミカンの葉にアレロパシーはあるのか」 大阪府立千里高校2年生	31名	
計		4 回	98名	(4回 74名)

()内は前年度

② 市民研究員による調査・研究及び実践活動(自主事業)

市民研究員がテーマごとにチームを組織し、生活者の視点で調査・研究を行うとともに、啓発・普及のための実践活動を行いました。なお4階に設置した市民研究所(つながりラボ)の整備を鋭意進めており、市民への活動内容の見える化にも取り組んでいます。

プロジェクトチーム(PT) アクションチーム(AT)		活動目標と内容	開催数
P T	市民とお店をエコでつなぐ	「食品ロス削減」は社会の大きな問題でもあるので引き続き研究し、一昨年から取組んでいる「プラスチックごみ削減」(主に食品トレー、食品容器、ペットボトル)問題を研究 ・出前講座の開発と改良 ・各自の研究テーマの進め方について協議 ・ごみゼロPTとの情報交流について協議 ・12月6日(土)研究実践報告会準備及び報告 ・エフピコ見学及び報告 ・7年度の活動報告書・8年度年間計画書作成	43回
	吹田ごみゼロシステム研究	ごみゼロ(すてるをなくす)へのシステム研究 ・個別テーマを追跡調査研究 ・ブログ発信の活性化 ・吹田市との情報交換の充実 ・プラスチック問題についての情報交換を市民とお店PTと計画	13回
	身近な環境を調べよう	吹田市に点在する身近な環境を調べ、現状を把握するとともに、その保全の大切さを啓発しました。糸田川と同様に「池の観察チェックシート」を用いて環境調査を実施 ・令和6年度の結果及び令和7年度を含めた3年間の結果を集約 ・Instagramでの発信 ・令和8年度以降の身近な環境調査の対象について検討(例)鎮守の森、竹林等 ・ため池冊子及び動画の作成 ・R8年度から10年度まで(3年間)の調査計画 ・令和7年度年間活動報告書、令和8年度年間活動計画書提出	39回

P T	SDGs啓発	SDGs啓発を推進	32回
		・環境出前講座(学校への支援以外の団体)の拡充 ・他団体との情報交換や連携 ・PT新規メンバーの増員を検討 ・アンケート結果を分析し、今後の方向性を検討 ・環境出前講座で使用する教材やゲームの検討 ・来年度の活動計画および予算に関する検討	
A T	紙すき体験と環境	紙パックをリサイクル啓発することによって、資源循環型社会を構築することを目指し、ひいては世界の森林資源の保全に向けた研究活動を推進	40回
		・人員確保とチームメンバーのスキルアップに注力 ・アンケートにより紙パックのリサイクル状況を調査 ・チームが参加しやすい会議の開催時間に変更 ・出前講座の説明内容(パワーポイント)の見直し	
	手作りおもちゃと環境	廃品を再利用した手作りおもちゃの指導を通して、ごみの減量化と環境問題の啓発・意識の向上	49回
		・メンバーの増員に向け努力 ・就学前児童への対応を検討 ・新しいおもちゃの作成検討 ・World Cleanup Day(ごみ拾い)やロハスフェスタに参加 ・8/17のイベントで水車ボート作りを行った ・動画及びパワーポイントを作成完了 ・おもちゃのマニュアル本の検討	
マイ食器啓発	リユース食器からマイ食器へ	7回	
	・大阪関西万博にリユース食器啓発について調査実施 ・千里万博公園にてロハスフェスタに参加 ・くるくるクリスマスではおにぎらずを販売とマイ食器持参運動を実施		
合 計			223回
合 計 (前年度)			225回

事業名	活 動 目 標 と 内 容	参加人数
くるくるつながり広場	市民と環境スクール修了生7名を対象に、12月20日(土)につながり広場を開催しました。参加者は各チームからの活動紹介を熱心に聞き、次回のつながり広場でも丁寧に市民研究員への参加を促していきます。	22名
合 計	1回 22名	(2回39名)

()内は前年度

会 議 名	主催団体名	実 施 日	内 容	会 場
第1回吹田市ごみ減量再資源化推進会議	吹田市	8月21日(木)	フードドライブの取組報告、ごみ減量に向けた取り組みを交流	メイシアター
すいた環境教育フェスタ	吹田市	2月7日(土)	くるくるプラザの紹介と市民研究所の環境啓発活動紹介、市民研究員によるポスターセッション	メイシアター
第2回吹田市ごみ減量再資源化推進会議	吹田市	3月16日(月)	フードドライブやてまえどりキャンペーン、SAFについて報告	本庁高層棟3階リエゾンルーム
合 計		3回		(3回)

()内は前年度

イ. 研究報告書の発行に関する事業(自主事業)

令和6年度の市民研究所各プロジェクトの研究成果等を研究報告書としてまとめ、7月に発行しました。

ウ. 機関紙「しみんけんきゅうニュース」の発行(自主事業)

市民研究員の調査・研究、実践活動を中心とした機関紙「しみんけんきゅうニュース」の発行及びホームページへの掲載を行いました。

号 数	No.	発行部数	配 布 先
2025年5月号	327号	400部	市民研究員をはじめ、来館者や地区公民館、その他関係団体に配布しました。
2025年8月号	328号		
2025年11月号	329号		
2026年2月号	330号		

エ. 情報紙「くるくるプラザ」の発行(自主事業)

一般市民で構成したスタッフが情報収集し編集した、環境問題に関する身近で役立つ情報を中心とした情報紙「くるくるプラザ」を次のとおり発行し、ホームページにも掲載しました。

号 数	発行月	発行部数	配 布 先
101号	7月	1,200部	市民研究員をはじめ、来館者や地区公民館、その他関係団体に配布しました。
102号	11月		
103号	3月		

オ. ホームページの公開及び情報スタジオコーナーの常設(自主事業)

財団ホームページの整備を行いました。また情報スタジオコーナーについては、室内のレイアウトを決定し機器を整備しています。また、市民研究員の活動拠点としても使用しています。

(3) 講演・講座の開催及び環境学習の支援に関する事業

ア. 講演会の開催(受託事業)

事業名	実施日	内容	参加者数	会場
くるくる環境 フォーラム	6月 29日(日)	【テーマ】「生活が変わる、未来が変わる！サーキュラーエコノミーのススメ」 第1部「基調講演」 講演者: (公財)千里リサイクルプラザ 理事長 小幡範雄 第2部「事例発表」 発表者: エイチソーオーリテイリング(株)、 小川珈琲(株)、大和リース(株)、 吹田市環境部環境政策室 第3部「パネルディスカッション」 コーディネーター: 主担研究員 花嶋温子 パネリスト: 基調講演講師、事例発表者 第1部の基調講演を踏まえて、第2部では衣・食・住の観点から3企業と行政の事例発表。第3部では、パネルディスカッションを行い、各団体の苦労話などを聞いたり、参加者からの質問を話題にするなど、テーマに沿った充実した内容を市民に提供しました。	69名	マルチホール
計		1 回	69名	(1回 52名)

()内は前年度

イ. 入門講座(自主事業)

① くるくるキッズ環境スクール

事業名	実施日	内 容	対象者	参加者数	会 場
くるくる 環境 スクール キッズ	7月19日(土)	開講式及び 出前講座(おもちゃ、紙すき)	受講者	23名	講義室2
	8月6日(水)	海の生き物観察会 (株)midica	受講者	14名	マルチホール
	9月21日(日)	自然観察会 (身近な環境PT)	受講者	12名	南千里・牛ヶ首池 南千里地区公民館
	10月19日(日)	もったいないバザールでの かえっこバザールスタッフ体験	受講者	20名	プラザ4階広場
	11月15日(土)	環境関連施設へ親子で見学し、環 境問題について考えるきっかけとす る。	受講者	20名	ひょうご環境体験館 (はりまエコハウス)
	12月20日(土)	SDGs啓発PTによるゲーム他 及び閉校式	受講者	14名	講義室2
計		6 回	のべ 受講者数	103名	(6回 111名)

(注) 参加者数には保護者数も含まれます。

()内は前年度

② くるくる環境スクール

事業名	実施日	内 容	対象者	参加者数	会 場
くるくる 環境 スクール	6月14日(土)	開講式及び 破砕選別工場、市民工房の見学	受講者	11名	講義室2
	6月29日(日)	環境問題講演会聴講	受講者	11名	マルチホール
	7月12日(土)	市民研究所出前講座 (SDGs啓発PT)	受講者	11名	講義室2
	9月11日(木)	バス見学ツアー	受講者	14名	関西リサイクルシステムズ/ 近畿電電輸送(株)
	10月19日(日)	もったいないバザール	受講者	3名	くるくるプラザ
	10月22日(木)	埋立処分場見学	受講者	7名	大阪沖埋立処分場(フェ ニックスセンター)
	12月6日(土)	令和7年度市民研究所 研究実践発表会	受講者	8名	講義室2
	12月20日(土)	閉校式とつながり広場 講話、市民研究員との交流	受講者	7名	講義室2
合 計		8 回	のべ 受講者数	72名	(8回 124名)

()内は前年度

ウ. 環境出前講座の実施(自主事業)

身近な環境問題について考えてもらう事を目的に、小中学校の授業・クラブ活動、環境学習等を対象とし、市民研究員が出向く実践講座について要請に基づき実施しました。

実施日	チーム名	事業名	対象者	参加者数	会 場
4月23日	(水) 手作りおもちゃと環境	【施設見学後の体験】	吹田第一 小学校児童	12名	講義室2
4月23日	(水) 紙すき体験と環境	【施設見学後の体験】	吹田第一 小学校児童	12名	緑工房
4月30日	(水) SDGs啓発	【クラブ支援】	佐竹台 小学校児童	18名	学校教室

5月1日	(木)	手作りおもちゃと環境	【施設見学後の体験】	北山田 小学校児童	19名	講義室2
5月1日	(木)	市民とお店をエコでつなぐ	【施設見学後の体験】	北山田 小学校児童	16名	講義室1
5月1日	(木)	紙すき体験と環境	【施設見学後の体験】	北山田 小学校児童	20名	緑工房
5月7日	(水)	SDGs啓発	【クラブ支援】	千里第二 小学校児童	32名	学校教室
5月14日	(水)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	山手 小学校児童	21名	学校教室
5月15日	(木)	市民とお店をエコでつなぐ	【施設見学後の体験】	吹田第二 小学校児童	20名	講義室1
5月15日	(木)	手作りおもちゃと環境	【施設見学後の体験】	吹田第二 小学校児童	19名	講義室2
5月15日	(木)	紙すき体験と環境	【施設見学後の体験】	吹田第二 小学校児童	12名	緑工房
5月18日	(日)	手作りおもちゃと環境	【くるくるワークショップ】	くるくる ファミリー フェスタ来館者	15名	マルチホール
5月18日	(日)	身近な環境を調べよう	【くるくるワークショップ】	くるくる ファミリー フェスタ来館者	30名	B棟4階ホール
5月20日	(火)	手作りおもちゃと環境	【施設見学後の体験】	西山田 小学校児童	20名	講義室2
5月20日	(火)	市民とお店をエコでつなぐ	【施設見学後の体験】	西山田 小学校児童	13名	講義室1
5月20日	(火)	紙すき体験と環境	【施設見学後の体験】	西山田 小学校児童	17名	緑工房
5月22日	(木)	市民とお店をエコでつなぐ	【施設見学後の体験】	東佐井寺 小学校児童	13名	講義室1
5月22日	(木)	手作りおもちゃと環境	【施設見学後の体験】	東佐井寺 小学校児童	19名	講義室2
5月22日	(木)	紙すき体験と環境	【施設見学後の体験】	東佐井寺 小学校児童	20名	つながりラボ
6月3日	(火)	手作りおもちゃと環境	【施設見学後の体験】	吹田第六 小学校児童	18名	講義室2
6月3日	(火)	紙すき体験と環境	【施設見学後の体験】	吹田第六 小学校児童	19名	緑工房
6月4日	(水)	市民とお店をエコでつなぐ	【クラブ支援】	千里第二 小学校児童	30名	学校教室
6月5日	(木)	手作りおもちゃと環境	【施設見学後の体験】	千里たけみ 小学校児童	14名	講義室2
6月5日	(木)	紙すき体験と環境	【施設見学後の体験】	千里たけみ 小学校児童	16名	緑工房
6月5日	(木)	市民とお店をエコでつなぐ	【施設見学後の体験】	千里たけみ 小学校児童	20名	講義室1
6月11日	(水)	SDGs啓発	【施設見学後の体験】	山手 小学校児童	21名	学校教室
6月11日	(水)	手作りおもちゃと環境	【クラブ支援】	佐竹台 小学校児童	19名	学校教室
6月12日	(木)	紙すき体験と環境	【施設見学後の体験】	高野台 小学校児童	17名	つながりラボ
6月12日	(木)	市民とお店をエコでつなぐ	【施設見学後の体験】	高野台 小学校児童	6名	講義室1
6月12日	(木)	手作りおもちゃと環境	【施設見学後の体験】	高野台 小学校児童	15名	講義室2

6月13日	(金)	市民とお店をエコでつなぐ	【施設見学後の体験】	吹田東 小学校児童	15名	講義室1
6月13日	(金)	手作りおもちゃと環境	【施設見学後の体験】	吹田東 小学校児童	20名	講義室2
6月13日	(金)	紙すき体験と環境	【施設見学後の体験】	吹田東 小学校児童	15名	緑工房
6月25日	(水)	手作りおもちゃと環境	【施設見学後の体験】	岸部第一 小学校児童	8名	講義室2
6月25日	(水)	市民とお店をエコでつなぐ	【施設見学後の体験】	岸辺第一 小学校児童	4名	講義室1
7月9日	(水)	SDGs啓発	【出前講座・クラブ支援】	豊津第二小学校児童	16名	学校教室
7月9日	(水)	市民とお店をエコでつなぐ	【出前講座・クラブ支援】	山手小学校児童	20名	学校教室
7月9日	(水)	紙すき体験と環境	【出前講座・クラブ支援】	千里第二小学校児童	28名	学校教室
7月12日	(土)	SDGs啓発	【出前講座・ぐるぐる環境スクール】	環境スクール生	11名	講義室2
7月19日	(土)	手作りおもちゃと環境	【出前講座・ぐるぐるキッズ環境スクール】	キッズスクール生	11名	講義室2
7月19日	(土)	紙すき体験と環境	【出前講座・ぐるぐるキッズ環境スクール】	キッズスクール生	11名	講義室2
7月27日	(日)	紙すき体験と環境	【出前講座・公民館】	岸二地区公民館一般市民	20名	公民館
7月29日	(火)	SDGs啓発	【出前講座・教育課題研修】	教員	12名	講義室2
8月1日	(金)	紙すき体験と環境	【出前講座・公民館】	山手地区公民館一般市民	10名	公民館
8月6日	(水)	手作りおもちゃと環境	【出前講座・公民館】	千一地区公民館一般市民	14名	公民館
8月7日	(木)	紙すき体験と環境	【出前講座・公民館】	豊中庄内コラボセンター一般市民	15名	公民館
8月17日	(日)	手作りおもちゃと環境	【出前講座・ぐるぐるワークショップ】	ぐるぐる夏フェスタ来場者	15名	つながりラボ
8月17日	(日)	身近な環境を調べよう	【出前講座・ぐるぐるワークショップ】	ぐるぐる夏フェスタ来場者	27名	マルチホール
8月23日	(土)	紙すき体験と環境	【出前講座・公民館】	北千里地区公民館一般市民	10名	公民館
9月3日	(水)	SDGs啓発	【出前講座・クラブ支援】	千里第二小学校児童	29名	学校教室
9月10日	(水)	手作りおもちゃと環境	【出前講座・クラブ支援】	豊津第二小学校児童	15名	学校教室
9月10日	(水)	市民とお店をエコでつなぐ	【出前講座・クラブ支援】	佐竹台小学校児童	19名	学校教室
9月19日	(金)	手作りおもちゃと環境	【出前講座・施設見学後の体験】	青山台小学校児童	16名	講義室2
9月19日	(金)	市民とお店をエコでつなぐ	【出前講座・施設見学後の体験】	青山台小学校児童	16名	講義室1
9月19日	(金)	紙すき体験と環境	【出前講座・施設見学後の体験】	青山台小学校児童	10名	つながりラボ
9月21日	(日)	身近な環境を調べよう	【出前講座・ぐるぐるキッズ環境スクール】	キッズスクール生	6名	牛ヶ首池他
9月24日	(水)	手作りおもちゃと環境	【出前講座・クラブ支援】	山手小学校児童	21名	学校教室

10月1日	(水)	市民とお店をエコでつなぐ	【出前講座・クラブ支援】	豊津第二小学校児童	17名	学校教室
10月1日	(水)	紙すき体験と環境	【出前講座・クラブ支援】	山田第二小学校児童	30名	学校教室
10月1日	(水)	手作りおもちゃと環境	【出前講座・クラブ支援】	佐竹台小学校児童	20名	学校教室
10月15日	(水)	SDGs啓発	【出前講座・クラブ支援】	山手小学校児童	24名	学校教室
10月22日	(水)	SDGs啓発	【出前講座・クラブ支援】	佐竹台小学校児童	20名	学校教室
10月22日	(水)	市民とお店をエコでつなぐ	【出前講座・クラブ支援】	豊津第二小学校児童	16名	学校教室
11月1日	(土)	手作りおもちゃと環境	【出前講座・ぐるぐるワークショップ】	ロハスフェスタ来場者	112名	万博記念公園
11月7日	(金)	手作りおもちゃと環境	【出前講座・施設見学後の体験】	山田第三小学校児童	19名	講義室2
11月7日	(金)	市民とお店をエコでつなぐ	【出前講座・施設見学後の体験】	山田第三小学校児童	10名	講義室1
11月7日	(金)	紙すき体験と環境	【出前講座・施設見学後の体験】	山田第三小学校児童	14名	緑工房
11月12日	(水)	身近な環境を調べよう	【出前講座・クラブ支援】	山手小学校児童	19名	学校教室
11月26日	(水)	市民とお店をエコでつなぐ	【出前講座・クラブ支援】	佐竹台小学校児童	18名	学校教室
11月26日	(水)	手作りおもちゃと環境	【出前講座・クラブ支援】	豊津第二小学校児童	13名	学校教室
12月14日	(日)	手作りおもちゃと環境	【出前講座・ぐるぐるワークショップ】	ぐるぐるクリスマス来場者	22名	マルチホール
12月14日	(日)	身近な環境を調べよう	【出前講座・ぐるぐるワークショップ】	ぐるぐるクリスマス来場者	31名	マルチホール
12月17日	(水)	手作りおもちゃと環境	【出前講座・クラブ支援】	山手小学校児童	19名	学校教室
12月17日	(水)	市民とお店をエコでつなぐ	【出前講座・クラブ支援】	豊津第二小学校児童	11名	学校教室
12月17日	(水)	紙すき体験と環境	【出前講座・クラブ支援】	佐竹台小学校児童	20名	学校教室
12月20日	(土)	SDGs啓発	【出前講座・ぐるぐるキッズ環境スクール】	ぐるぐるキッズ環境スクール生	6名	講義室2
1月23日	(金)	手作りおもちゃと環境	【出前講座・クラブ支援】	豊津第二小学校児童	16名	学校教室
2月4日	(水)	市民とお店をエコでつなぐ	【出前講座・クラブ支援】	千里第二小学校児童	29名	学校教室
2月4日	(水)	手作りおもちゃと環境	【出前講座・クラブ支援】	佐竹台小学校児童	17名	学校教室
2月7日	(土)	市民とお店をエコでつなぐ	【出前講座】吹田市主催等イベント参画	メシアター来館者	30名	メシアター
2月7日	(土)	身近な環境を調べよう	【出前講座】吹田市主催等イベント参画	メシアター来館者	10名	メシアター
2月20日	(金)	SDGs啓発	【出前講座・クラブ支援】	豊津第二小学校児童	14名	学校教室
2月25日	(水)	手作りおもちゃと環境	【出前講座・クラブ支援】	千里第二小学校児童	29名	学校教室
2月25日	(水)	市民とお店をエコでつなぐ	【出前講座・クラブ支援】	山手小学校児童	21名	学校教室
合 計			計 84回	1,564名	(100回 1,815名)	

()内は前年度

エ. 環境学習発表会動画及び展示の開催(自主事業)

教室からの発信「広がれ！環境の輪」と題して、小中学校等で取り組まれている環境学習の成果を動画発表と展示発表を次のとおり実施しました。尚、メイシアターでの展示は環境教育フェスタと同時開催で行いました。

① 環境学習発表会(動画)

開催日(期間)	開催場所(上映)	参加校数(作品数)	前年度
2月7日(土)	メイシアター	小学校3校 中学校2校 (16作品)	小学校3校(16作品)
2月7日(土)～3月31日(火)	くるくるプラザホームページ(WEB上)		

② 環境学習発表会(展示)

開催日(期間)	開催場所(展示)	参加校数(作品数)	前年度
2月18日(水)～2月25日(水)	千里ニュータウンプラザ	小学校9校 (150作品)	小学校6校 (150作品)

オ. 大学関係等の支援(自主事業)

インターンシップ学生の受入れ状況は次のとおりでした。

区分	期 間	学校名	人数	内 容
イ シ ン タ ブ ー ン	8月19日(火)	関西大学大学院	1名	「自転車工房」において、資源リサイクルセンターの実務補助研修を行いました。 廃棄自転車の分解・部品選別・再利用工程の補助作業を中心に、資源循環の仕組みや作業安全管理について学んでももらいました。
合 計		1校	1名	(1校 1名)

()内は前年度

2 しみんけんきゅうニュース R7 年度年間概要

毎月の代表者会議を経て、原稿を点検し、所内のカラー印刷機で 400 部印刷し(4 色高速安価インクジェット印刷機↓)公民館等に配布。(年4回の季刊発行)なお PT・AT の活動内容はこの報告書に詳しく掲載しているのでここでは掲載していません。

R7 年度は大阪・関西万博の年。コロナから回復し、万博も無事終了した。景気もまずつず(?)である。

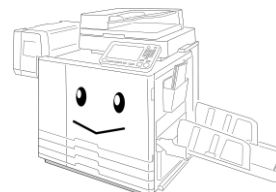
研究員数の減少に歯止めがかかり、R6 と同規模であるが、実働部員数は減少傾向。

活動は PT(主に調査研究)、AT(主に実践活動)に分かれているが、各チームが横断的に調査研究活動ができればいいなと思う。

表紙 P1 はその月あった主要事項を意匠している。公民館に並ぶ各施設冊子の中で表紙が見えている訳なので、数秒見て活動をご理解していただけるよう配慮している。

P2 は当月の行事概説、P3 は各チームの活動概説で 2~3 行の簡易報告である。

P4-P5 は PT 持ち回りで深掘した記事を執筆している。P6 は主担研究員の持ち回り。P7 は事務局から必要事項を記載。P8 は 3 ヶ月分の行事の日時を記載。No327 から季刊なので日時のみとする。ニュースの HP 化は 2018(H30)から PDF にて掲載。身近な環境を調べよう PT、吹田ごみゼロシステム研究 PT は独自の Web 作成。R4 年から研究員に印刷版は郵送しないことに。また、改革の一環として、配布先の見直し、印刷発行数の抑制、発行も 327 号から年 4 回の季刊になる。



2025 年(R7 年)5 月号 No327

- ・TOPICKS
- ・各チーム活動報告
- ・特集 SDGs 啓発 PT
- ・主担研究員コラム(谷村)
- ・研究所長ご挨拶
- ・5-6-7 月の行事予定



大阪万博開催！当プラザは万博公園 4-3 に位置するので、表紙には○を 3 つ重ねて、委嘱式を含む新年度の所信表明。

特集は、衣料ロスに関し、平均年間、18 枚購入、手放す 15 枚、着ない 35 枚。衣料にも多くの水が海外との関連、素材リサイクルの難しさ、意識改革、技術革新が必要。コラムは谷村主担研究員による学習する組織に関し。市民研究所長挨拶。

2025(R7)年 8 月号 No328

- ・TOPICKS
- ・各チーム活動報告
- ・特集 市民とお店 PT
- ・主担研究員コラム(内田)
- ・市民研究所通信
- ・8-9-10 月行事予定



表紙のくるくる環境フォーラムでは、1 部はサーキュラーエコノミーをテーマに理事長が基調講演。2 部は 3 つの企業と吹田市からの事例発表。3 部はパネルディスカッションを行った。特集は廃プラに関して、850 万 t の 85% が有効利用されている。マテリアル・ケミカル・サーマルの 3 種があるという報告。コラムは内田主担研究員によるアメリカの政策に関して、また出張で訪れた中国 EV 現状についての報告。

2025(R7)年 8 月号号外

- ・受賞経緯
- ・万博にて発表



2025 年に大阪府から、おおさか環境賞。国からは、地域環境保全功労者表彰を受賞。初の号外発行！その経緯、内容を記載。また、受賞を受けて、2025 大阪・関西万博にてプラザの活動を発表する機会を得る。大阪環境宣言の採択。文章は事務局が担当。

2025(R7)年 8 月号 No329

- ・TOPICKS
- ・各チーム活動報告
- ・特集 市民とお店 PT
- ・主担研究員コラム(内田)
- ・市民研究所通信
- ・11-12-1 月行事予定



2026(R8)年 2 月号 No330

- ・TOPICKS
- ・各チーム活動報告
- ・特集 身近な環境 PT
- ・主担研究員コラム(花嶋)
- ・市民研究所通信
- ・2-3-4 月行事予定



2026(R8)年 5 月号 No331

- ・TOPICKS
- ・各チーム活動報告
- ・特集 SDGs 啓発 PT
- ・研究所長挨拶(三輪)
- ・市民研究所通信(新任挨拶)
- ・5-6-7 月行事予定



表紙は身近環境を調べよう PT によるキッズスクール生対象の池の観察会。何でもネットで調べられる時代。しかし、きっかけとして実際の木・池の体験を行うことは意義あり。特集はマイクロプラごみ、取り組み実例を多数上げる。黒田主担研究員は「吹田かもフェスタ」にかかわっておられる。(過去記事 R6 年 11 月号) この後、R8 春に吉志部神社にて謝罪式も行われた。通信では、プラザの若手職員による万博見学記「環境を守ることは命を守ること」「知っている、からしているへ」今後の施設に生かしたいとの抱負。

表紙は実践発表会の様子。写真と各 PT の PP 画像を掲載。(この報告書表紙に同じ) 特集はアカミミガメに関して(小学生向けの授業を行う)特定外来生物に指定され、規制の対象になっている。防除手引きが示されている。お祭りの縁日で気軽に買い餌えなくなって放したものであり、気軽に飼ってはいけない。花嶋主担研究員からは神戸エコノバ(回収啓発施設)の紹介。回収には企業とも連携している。

表紙は委嘱式の写真と石油情勢についての記載。特集は水の話。水のほとんどが海水で、使える水は 0.1%以下。輸入食糧は水の輸入でもある。生活の見直しが必要。市民研究所長からは鳥の目と虫の目の話から、映画の紹介(高収入を得て物であふれ気がつき、必要な物だけの生活にしていこう)など。

2. 研究所のホームページ

吹田市資源リサイクルセンター 本体

<https://www.kurukuru-plaza.jp/>

こちら側に市民研究所 PDF 化したニュースと情報紙があります。

(公財)千里リサイクルプラザ

<https://www.senri-recycleplaza.or.jp/>



千里リサイクルプラザ



3. 情報紙の発行(開館以来プラザとしての発行)

こちらにも公募された市民による編集です。HP 掲載



No101 表紙アジサイ (P2 エアコン節電 P3 エコ話自販機 P4-5 電池の出し方 P6 泉殿神社とビール P7 サツマイモの実力 P8 施設紹介)
No102 表紙ドングリ (P2 食品ロス P3 プラごみ P4-5 生態系再興 P6 佐井寺と用水路 P7 自転車新ルール P8 訂正・施設紹介)
No103 表紙花畑と犬 (P2 CO2 人工光合成 P3 飛行場でのエコ P4-5 市内水道情勢 P6 神崎川の歴史 P7 傘の再利用 P8 施設紹介)

3 公益財団法人千里リサイクルプラザ市民研究所設置規則

制 定 平成 4 年 3 月 23 日 規則 4

最近改正 平成 31 年 3 月 25 日 規則 2

(趣旨)

第 1 条 この規則は、公益財団法人千里リサイクルプラザ（以下「プラザ」という。）の市民研究所の設置に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第 2 条 プラザに市民研究所を置く。

(職制)

第 3 条 市民研究所に所長を置く。

2 市民研究所に副所長を置くことができる。

3 市民研究所に市民研究員を置くことができる。

4 市民研究員は、プラザ定款第 3 条及び第 4 7 条に掲げる市民研究所の設置目的を共有し、意欲的に取り組む一般の市民、大学職員、学生、企業や団体の職員、行政機関の職員等とする。

(職務)

第 4 条 所長はプラザ定款第 3 条の目的を達成するための研究課題に取り組み、所管の事務を掌理する。

2 市民研究員は所長の指導、助言を受け、自らの研究課題に取り組む。

3 所長に事故あるときは、あらかじめ所長が指定する者がその職務を代理する。

(分掌事務)

第 5 条 市民研究所の分掌事務は、別に定めがあるものを除き、次のとおりとする。

(1) 地球温暖化防止等を含む循環型社会を構築するための研究に関する事項

(2) 講演及び講座等に関する事項

(3) 研究成果の発表に関する事項

(4) 市民研究員募集及び登録に関する事項

(5) その他廃棄物の減量化及び資源循環促進に関する事項

(研究運営委員会の設置)

第 6 条 市民研究所に研究運営委員会を置くことができる。

2 研究運営委員会は、所長が主宰する。

(委任)

第 7 条 この規則の施行に関し必要な事項は、理事長が別に定める。

附 則

この規則は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 10 年 4 月 1 日 規則 1 ）

この規則は、平成 10 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 14 年 3 月 26 日 規則 2 ）

この規則は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 24 年 5 月 9 日 規則 4 ）

この規則は、平成 24 年 5 月 9 日から施行する。

附 則（平成 29 年 3 月 28 日 規則 3 ）

この規則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 30 年 3 月 28 日 規則 1 ）

この規則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 31 年 3 月 25 日 規則 2 ）

この規則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

4 公益財団法人千里リサイクルプラザ 市民研究所運営方針

令和4年4月1日改正

1 目的

公益財団法人千里リサイクルプラザ(以下「プラザ」という。)市民研究所は、市民社会への貢献や持続可能な社会の実現をめざし、市民が主体となって考え、活動している。この運営方針は、市民研究所設置規則に基づき、市民研究所の運営に必要な事項を定めることを目的とする。

2 市民研究員

(1) 市民研究員の委嘱

市民研究所設立の目的を実現するために、参加型活動組織である市民研究所に市民研究員を置く。

- ① 市民研究員は、広く一般の市民及び大学職員、学生、企業や団体、行政機関などから募集する。
- ② 市民研究員の委嘱は理事長が行い、委嘱については別に定める。

(2) 市民研究員の活動

委嘱を受けた市民研究員は、持続可能な社会の実現を目的に、ごみの減量、地球温暖化防止等を含む循環型社会の構築、推進をめざして、調査研究及び実践活動を行う。活動に際しては事務局との連絡を密にし、次の点にも留意する。

- ① 環境に関わる諸課題の中で自らの問題意識を明確にし、意欲的に取り組む。
- ② 市民研究所の諸事業への参加を通じ、常に他の市民研究員及び広く一般市民との交流、親睦に努める。

(3) プロジェクトチームとアクションチーム制

市民研究員はその円滑な活動をめざしプロジェクトチーム(以下「PT」という。)及びアクションチーム(以下「AT」という。)を組織することができる。

なお、チームの開設に際して、その名称は活動目的を象徴したわかりやすいものにする。

ア PT

PTは、市民の目線から環境問題の解決に向けての調査研究を主たるテーマとして活動する。

- ① PTは、原則として月1回以上定例会を開催し、チーム内の情報共有や調査研究、実践活動の具体的な計画を協議する。協議内容については事務局及びPT担当の主担研究員に報告を行う。
- ② PTの研究テーマには適切で実施可能なもの、また、多くの市民研究員が容易に参加できるものを対象とするように努める。
- ③ 調査研究を主とするPTの目標は、概ね3年で達成できる内容とする。3年経過後、成果の分析及び評価を行い、継続か否かの検討を行う。

イ AT

ATは、市民の立場から環境問題の解決及び啓発に向けての実践をテーマとして活

動する。

① A T は、事務局の助言のもと、適宜定例会等を開催し、実践活動や運営活動を行う。

② 実践活動を主とする A T は、常に実践内容の見直しを行い、よりよい成果を継続してあげられるよう改善に努める。

ウ 市民研究員の P T、A T への所属

① 市民研究員は、原則として、何れかの研究テーマの下での P T、A T に所属して活動する。複数の P T、A T に所属する時は主たる所属を明らかにする。

② P T、A T の代表はチーム内の互選により決定し、市民研究員代表者会議（以下「代表者会議」と言う。）に出席する。同一人が 2 つ以上の P T、A T の代表を兼任することはできない。

エ 新 P T、A T 開設の提案

新たな研究、活動テーマの下での P T、A T の開設の提案は、次に掲げる四者いずれかからによる。

① 市民研究員 ② 主担研究員 ③ 所長 ④ 研究運営委員会

（４）くるくるつながり広場

ア 目的

環境問題に関わって自分の興味・関心のあることを、幅広く市民研究員及び市民研究員に関心のある者が相互に意見交流をするなかで、以下のことを進める。

① 同じ目標を持つ仲間を募り、新しい P T、A T の立ち上げをめざす。

② 既にある P T、A T へ参加する。

③ 相互の意見交流をする中で、自身の知識や経験を深め、地域や身の回りで地球環境保全を進める活動を自主的に行う。

イ 活動計画・内容

目的達成に向け適切な時期に年 3 ～ 4 回開催する。

① 参加者各自の研究テーマについての発表や P T、A T についての意見交流を行う。

② 主担研究員の指導・助言を受けることができる。

③ 事務局も参加し、会の進行、次回の決定、連絡は事務局が行う。

④ この活動について「しみんけんきゅうニュース」「研究報告書」で研究内容を発信することができる。

3 主担研究員および総括主担研究員

市民研究所は、その開設の趣旨に沿う成果を得るために指導的な役割を担う主担研究員を置くことができる。

（１）理事長は、環境及び環境のあり方に関連する分野の学識者から主担研究員を委嘱し、主担研究員の中から総括主担研究員を指名することができる。

（２）主担研究員は、市民研究所全体の戦略（企画・運営）を研究し、その成果をもって市民研究所の運営等に助言を行うとともに各 P T に対して次の支援を行う。

① 主担研究員はいずれかの P T の顧問として市民研究員への指導、助言を行う。

② 主担研究員は代表者会議に可能な限り出席し、コミュニケーションを図り指導

及び助言に努める。

③ 総括主担研究員はすべての P T の顧問として全体の調整を図る。

(3) 理事長は、必要と認めたときは主担研究員に対し謝金を支給することができる。

4 市民研究所の運営

(1) 研究運営委員会

市民研究所の運営にかかる事項を協議して決定するため、研究運営委員会を置く。

ア 研究運営委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成し所長が召集する。

- ① 所長 ② 主担研究員 ③ 理事長及び執行役員 ④ 事務局長
- ⑤ 参事以上の事務局員 ⑥ その他所長が必要と認める者

イ 研究運営委員会は、次の各号について協議し、決定する。

- ① 市民研究所の運営
- ② 中長期計画の策定
- ③ P T の研究成果と次年度年間研究計画への助言
- ④ 新しい P T、A T の承認
- ⑤ その他市民研究所に関する事項

なお、P T の助言内容は次の通りとする。

① 今年度の研究活動の助言について

- ・ 研究テーマに沿って調査してきた事項の整理、または研究テーマに沿った実践活動の内容や修正の整理ができているか。
- ・ 調査研究による成果と課題の分析、または実践活動の効果の検証と課題の見直しができているか。
- ・ 進捗状況もしくは研究成果の発信はできているか。または実践活動を行ったことによる啓発効果の確認はできているか。

② 次年度の研究計画の助言について

- ・ 先行研究の調査から、または先行実践の見直しから、めざす研究テーマ(もしくはサブテーマ)として適切なものか。
- ・ 研究テーマ(もしくはサブテーマ)は年次計画に沿って達成できる可能性のあるものであり、明確性、計画性、継続性があるか。
- ・ 設定した研究テーマ(もしくはサブテーマ)は、啓発効果の大きさ、強さ等を備えた仮説が立てられているか。

ウ 研究運営委員会は概ね 2 ヶ月に 1 回開催する。その他必要な時は随時開催することができる。

(2) 代表者会議

P T、A T の調査研究及び実践活動を積極的に推進するため、また、P T、A T 間の交流や連携を深めるため、代表者会議を置く。

ア 代表者会議は次の各号に掲げる者をもって構成し所長が召集する。

- ① 所長 ② 各 P T (A T は必要に応じて) から 1 名(代表者または代理)
- ③ 主担研究員 ④ 市民研究所担当事務局員 ⑤ その他所長が必要と認める者

イ 代表者会議は、次に掲げる事項について協議、検討する。

- ① 市民研究所の運営等に関すること。
- ② 各 P T、A T間の情報交換、協力要請等に関すること。
- ③ しみんけんきゅうニュース、ホームページ等情報の外部発信に関すること。
- ④ 市民研究所の予算に関すること。
- ⑤ その他所長が必要と認めること。

ウ 代表者会議は原則として毎月第一土曜日に開催し、参加者は次に掲げる事項について留意してその協力に努める。

- ① 研究活動の内容を充実・発展させるのに役立つものにする。
- ② 会議の内容を P T、A Tに持ち帰りメンバーに確実に伝える。

5 活動に伴う経費・謝金について

市民研究員は、特に必要と認められるときは、次の各号に定める経費及び謝金の支給を受けることができる。ただし、活動報告があったものに限る。また、当該市民研究員が所属する大学等、又はその他の機関から支給を受けた時はこの限りではない。

- (1) 研究課題への取り組みに必要な調査研究にかかる経費
- (2) プラザが開催する講座等の講師に対する謝金、その他の事業における市民への指導等に対する謝金

6 研究成果の取り扱い

市民研究員は、研究成果に関する知的所有権については慎重に行動するものとし、次の各号を遵守しなければならない。なお、疑義が生じたときは、研究運営委員会の協議を経て理事会において決定する。

- (1) プラザからの研究成果公表に先立ち、他の情報媒体への掲載又はその他の方法によってこれを公表してはならない。ただし、理事長が認めるときはこの限りではない。
- (2) 研究の過程で生じた発明、発見、新技術開発、その他の知的所有権は、原則としてプラザに帰属する。ただし、市民研究員等が特別に申し出た場合は、研究運営委員会において審議のうえ必要な措置をとることができる。

7 くるくるサポーターへの協力要請

市民研究所は、プラザが募集しプラザに登録したボランティアとしての「くるくるサポーター」の中から、市民研究所の活動に賛同しその実践の一翼を担う希望者に協力を求めることができる。

編集スタッフ

編集長 大森 亘

監 修 小幡 範雄

三輪 信哉

内田 慶市

金子 泰純

黒田 勇

谷村 綾子

花嶋 温子

研 究 報 告 書

[第 33 卷]

2026 年（令和 8 年）7 月 17 日

（公財）千里リサイクルプラザ

吹田市千里万博公園 4 番 3 号

Tel 06 (6877) 5300

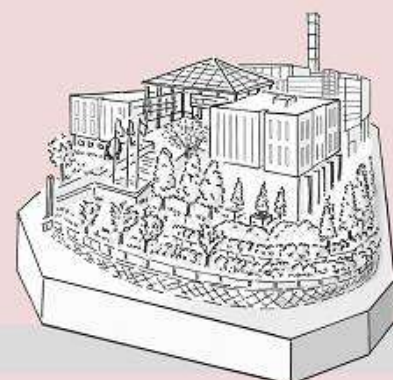
Fax 06 (6876) 0530

[http : //www.kurukuru-plaza.jp/](http://www.kurukuru-plaza.jp/)



千里リサイクルプラザ

公益財団法人
千里リサイクルプラザ
市民研究所



<https://www.kurukuru-plaza.jp/>